

令和 6 年度

教育委員会の事務の点検及び評価

結果報告書（令和 5 年度分）

令和 6 年 9 月

滑川市教育委員会

目 次	1
教育委員会の事務の点検及び評価について	
はじめに	3
令和6年度の滑川市教育委員会の点検及び評価について	4
第1部 教育委員会の会議及び活動	
1 教育委員会の運営状況	8
(1) 教育委員名簿	8
(2) 教育委員会の開催状況	8
(3) 教育行政調査について	12
(4) 教育委員会の組織	14
(5) 教育費決算	15
第2部 教育委員会の主要施策の点検・評価	
行政評価シートの見方	18
1 生きる力を育むための学校教育の充実	21
2 充実した人生を送るための生涯学習の推進	43
3 生涯にわたるスポーツの推進	75
4 子どもの幸せを第一に考えた子育て支援	95
第3部 学識経験者の意見	
1 学識経験者（評価委員）	124
2 意見聴取日等	124
3 令和5年度実績に対する学識経験者の主な意見	124
4 令和4年度実績に対する学識経験者の主な意見への対応について	126
【参考資料】滑川市教育委員会教育に関する事務の点検及び評価実施要綱	130

教育委員会の事務の点検及び評価について

はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により、平成20年度から教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが新たに定められました。

滑川市教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、教育行政の実施機関として、点検及び評価について客観性を確保しつつ、市民への説明責任を果たすために、前年度に行った事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行いました。

また、その結果に関する報告書を市議会に提出するとともに、公表を行うこととしました。

令和6年度は、令和5年度の教育委員会の運営状況及び事務事業の執行状況について、点検及び評価を行いました。

(参考) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

令和 6 年度の滑川市教育委員会の点検及び評価について

(1) 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくため、滑川市教育委員会の事務の管理及び執行の状況について点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を実施する。

(2) 点検・評価の対象

令和 5 年度の教育委員会の運営状況及び事務事業の執行状況

(3) 点検・評価の方法

① 自己点検・評価

「滑川市総合計画」を踏まえた「令和 5 年度滑川市教育委員会重点施策」の政策目標、重点施策に基づき、令和 5 年度の主な教育委員会の運営状況、事務事業の執行状況について点検・評価を行う。

② 点検・評価の視点

【第 1 部】教育委員会の会議及び活動

教育委員会が教育行政の中心的な担い手としてその役割を果たすためには、まず、合議制の教育委員会がその機能を発揮しているのかが重要な視点であることから、教育委員会の会議及び教育委員の活動について点検・評価を実施する。

【第 2 部】教育委員会の主要施策の点検・評価

教育委員会が所管する主要施策について、その成果の点検・評価を行い、今後に向けた課題検討を行う。

【第 3 部】学識経験者の意見

教育委員会の行った第 1 部及び第 2 部の点検・評価に対して、学識経験を有する者に、点検・評価の内容や評価制度のあり方など、外部の視点から検証を行っていただき、今後に向けた改善・改革への一助とするものである。

③学識経験者の意見の活用

滑川市の教育に関して学識経験を有する者から、教育委員会の自己点検・評価結果に対する意見を聴き、本書に記載する。

④議会への報告及び公表

点検・評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、滑川市ホームページへの掲載、情報公開総合窓口への備付け等により公表する。

第 1 部

教育委員会の会議及び活動

1 教育委員会の運営状況

(1) 教育委員名簿

(令和 6 年 3 月 31 日現在)

職 名	氏 名	任 期	備 考
教 育 長	うえだ よしみ 上田 良美	R 4. 4. 1～(R 6. 10. 10)	
教育長職務代理者	やまもと なつみ 山本 なつみ	R 2. 10. 2～ (R 6. 10. 1)	
委 員	かなや じゅんこ 金谷 潤子	R 2. 10. 2～ (R 6. 10. 1)	
委 員	みちおと ひろあき 道音 博昭	R 3. 10. 19～ (R 7. 10. 18)	
委 員	ひらた ひとし 平田 均	R 5. 10. 3～ (R 9. 10. 2)	

(2) 教育委員会の開催状況

滑川市教育委員会における会議は、毎月 1 回の定例会を開催するほか、必要に応じて臨時会を開催している。また、定例会の前後の時間を利用して委員協議会を開催し、審議や報告事項以外の分野・項目等について、協議や意見交換を行っている。

また、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、市長が招集し、市長と教育委員会で構成される、滑川市総合教育会議を平成 27 年度から設置している。

令和 5 年度においては、次のとおり会議を開催した。

①開催回数 定例会 12 回、臨時会 3 回、委員協議会 12 回、総合教育会議 1 回

②審議件数 議案 25 件、協議・検討事項 6 件 報告事項 50 件

③会議に付された主な案件

- ・教育関係機関等の委員の任命・委嘱について
- ・教育委員会重点施策について
- ・教科用図書の採択について
- ・就学指定学校の変更について

そのほか、市議会に付議する案件（予算、条例等）や教育委員会規則等の制定改廃等が会議に付された。

④会議の開催状況

開催日	出席状況	主 な 審 議 内 容
4月定例会 (R5. 4. 25)	全員出席	・議案第8号 令和5年度教育委員会重点施策について ・指定学校の変更、区域外就学について ・学校関係支援員等について ・学校評議員について ・働き方改革に関する保護者配付チラシについて ・公民館関係職員及び、生学関連施設関係者名簿について ・令和5年度滑川市スポーツ推進委員について ・感染症発生状況について ・「令和5年度子供の読書活動優秀実践図書館」の文部科学大臣表彰受賞について（子ども図書館） ・第3次滑川市子ども読書活動推進計画について ・新規事業について説明
5月定例会 (R5. 5. 24)	全員出席	・議案第9号 令和5年度滑川市一般会計補正予算（第2号） ・議案第10号 滑川市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例等の一部を改正する条例について ・議案第11号 滑川市立図書館協議会委員の任命について ・議案第12号 滑川市立博物館協議会委員の任命について ・議案第13号 滑川市立小中学校通学区域審議会要綱の制定について ・議案第14号 滑川市立小中学校通学区域審議会への諮問について ・令和6年度 滑川市の重点事業要望 ・指定学校の変更、区域外就学について ・社会教育委員の委嘱について ・令和6年度使用の教科書採択に向けた日程について ・令和5年度（令和4年度分）事務の点検及び評価に向けた日程について ・感染症発生状況について ・令和5年度学校給食費単価について

開 催 日	出席状況	主 な 審 議 内 容
6 月 定 例 会 (R5. 6. 23)	石原委員 欠席	・ 令和 5 年度教育委員会の事務の点検及び評価について（案） ・ 市議会 6 月定例会の質問事項等について ・ 感染症発生状況について ・ 指定学校の変更、区域外就学について ・ 公民館運営審議会委員の委嘱について
7 月 臨 時 会 (R5. 7. 5)	書面表決	・ 議案第15号 令和 5 年度滑川市一般会計補正予算（第 3 号）
7 月 定 例 会 (R5. 7. 26)	全員出席	・ 議案第16号 令和 6 年度使用教科用図書の採択について ・ 議案第17号 令和 6 年度特別支援学級使用教科用図書の採択について ・ 令和 5 年度 教育委員会の事務の点検及び評価（案）について ・ 令和 6 年度 富山県教育行政に対する要望事項策定について ・ 感染症発生状況について ・ 指定学校の変更、区域外就学について
8 月 定 例 会 (R5. 8. 28)	道音委員 欠席	・ 議案第18号 令和 5 年度滑川市一般会計補正予算（第 4 号）について ・ 議案第19号 教育委員会の事務の点検及び評価報告書について ・ 議案第20号 滑川市における通学区域の設定について ・ 感染症発生状況について ・ 全国学力・学習状況調査について
9 月 定 例 会 (R5. 9. 25)	全員出席	・ 市議会 9 月定例会の質問事項等について ・ 感染症関連について ・ 全国学力学習状況調査公表について ・ 指定学校の変更、区域外就学について ・ なめりかわ二十歳の式典について
10月定例会 (R5. 10. 24)	全員出席	・ 指定学校の変更、区域外就学について ・ 子どもサミットについて

開 催 日	出席状況	主 な 審 議 内 容
11月定例会 (R5. 11. 22)	全員出席	・ 議案第21号 令和5年度滑川市一般会計補正予算（第5号） ・ 議案第22号 滑川市みのわテニス村の指定管理者の指定について ・ 議案第23号 滑川市総合体育センターの指定管理者の指定について ・ 議案第24号 滑川市スポーツ・健康の森公園の指定管理者の指定について ・ コミュニティ・スクールについて ・ 令和5年度卒業式及び令和6年度始業式、入学式の日程について ・ 指定学校の変更、区域外就学について ・ スポーツ振興審議会の報告について ・ 放課後児童クラブについて
12月定例会 (R5. 12. 22)	全員出席	・ 市議会12月定例会の質問事項等について ・ 東加積小学校小規模特認校への申請状況について ・ 指定学校の変更、区域外就学について
1月定例会 (R6. 1. 26)	全員出席	・ 議案第1号 損害賠償請求事件に関する和解について ・ 卒業証書授与式の出席（案）について ・ 入学式の出席（案）について ・ 指定学校の変更、区域外就学について
2月定例会 (R6. 2. 26)	全員出席	・ 議案第2号 令和6年度滑川市一般会計予算について ・ 議案第3号 滑川市みのわテニス村設置条例の一部を改正する条例の制定について ・ 議案第4号 滑川市東福寺野自然公園研修センターの設置及び管理に関する条例を廃止する条例の制定について ・ 議案第5号 滑川市子ども医療費助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について ・ 議案第6号 滑川市ひとり親家庭等医療費助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について ・ 令和6年度教育委員会重点施策（案）について ・ 卒業証書授与式について ・ 入学式の出席について ・ 指定学校の変更、区域外就学について
3月臨時会 (R6. 3. 13)	全員出席	・ 教員の人事異動について
3月臨時会 (R6. 3. 19)	全員出席	・ 教職員の人事異動について

開 催 日	出席状況	主 な 審 議 内 容
3 月定例会 (R6. 3. 26)	全員出席	・ 議案第 7 号 滑川市教育委員会事務局の組織に関する規則の一部を改正する規則の制定について ・ 議案第 8 号 令和 6 年度教育委員会重点施策について ・ 市議会 3 月定例会の質問事項等について ・ 指定学校の変更、区域外就学について ・ 教育、保育施設の利用定員について ・ 放課後児童健全育成事業の利用料の改定について

⑤総合教育会議の開催状況

開 催 日	出席状況	主 な 審 議 内 容
R6. 2. 26	市長 全員出席	・ 教育大綱の進捗状況について ・ こども家庭センターについて ・ コミュニティ・スクールについて

(3) 教育行政調査について

①学校及び社会教育施設訪問

学校の研究発表会や計画訪問、運動会、卒業式など所管の小中学校の行事に積極的に参加した。また、社会教育施設の行事に参加し、文化・スポーツ生涯学習等の状況等を調査した。

②研修会等への参加

教育委員研修会への参加、他都市教育行政の状況視察研修の実施を通して教育委員の資質の向上を図るとともに、「令和 5 年度教育委員会重点施策」などに反映させた。

(主な研修会等)

・ 富山県市町村教育委員会連合会第 1 回研修会

(R5. 7. 10 富山市で開催)

文部科学省初等中等教育局児童生徒課生徒指導室長 仲村 健二氏による「生徒指導提要の改訂を踏まえたこれからの生徒指導の方向性」に参加し、意見交換を行った。

・ 富山県市町村教育委員会連合会第 2 回研修会

(R5. 10. 11 朝日町で開催)

朝日町立ふるさと美術館館長 小杉 嘉博氏による「不動堂周辺施設

再生構想について」の講演を聴き、朝日町立ふるさと美術館、朝日町埋蔵文化財保存活用施設（まいぶんKAN）、不動堂遺跡公園、歴史公園を視察した。

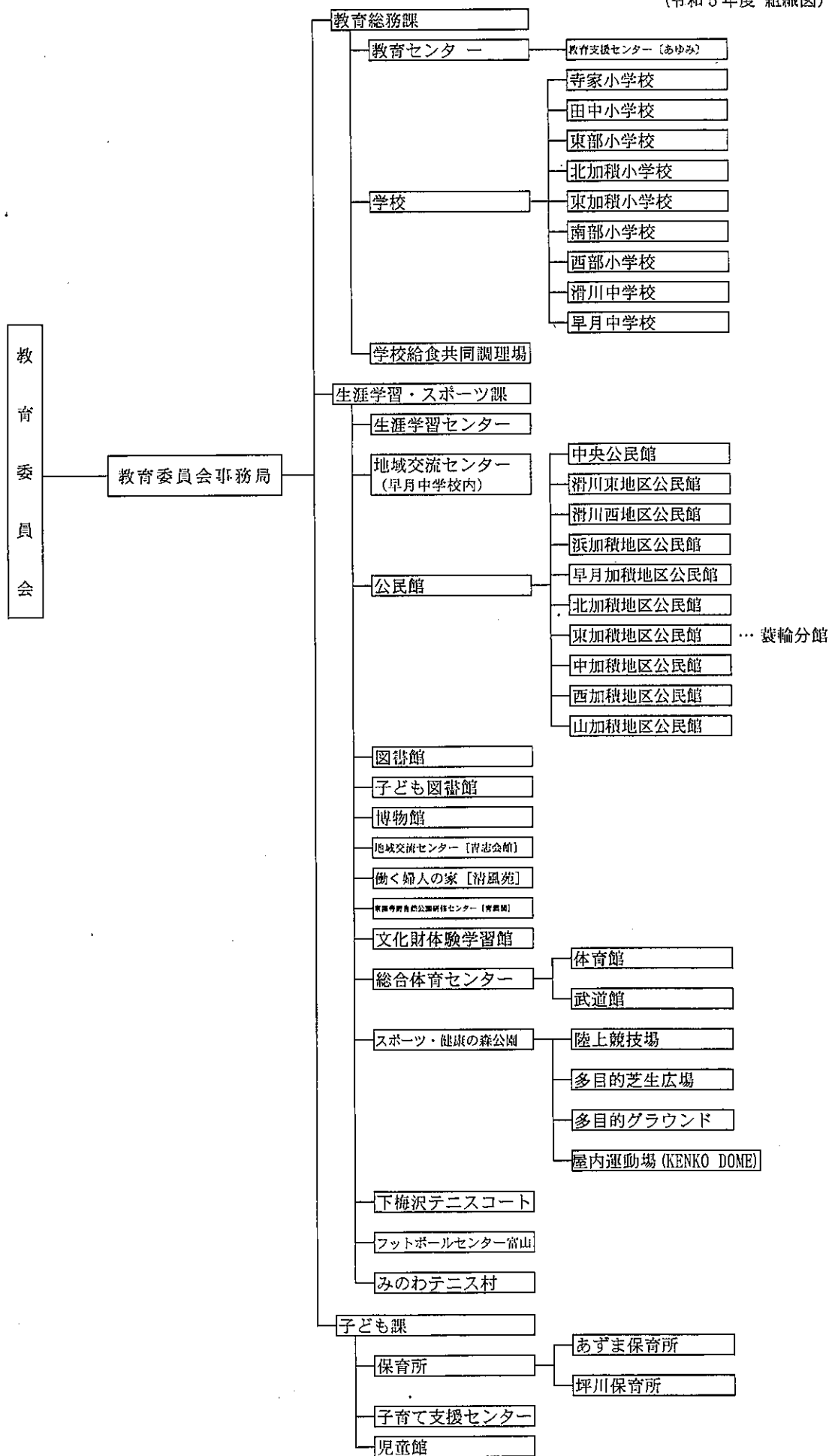
・市町村教育委員研究協議会（文部科学省初等中等教育局主催）

（R5.9.7 オンラインで開催）

全国の市町村教育長及び教育委員と「いじめ対策・不登校支援について及び地域と学校の連携・協働について（オンライン）」に参加し、意見交換を行った。

(4) 教育委員会の組織

(令和5年度 組織図)



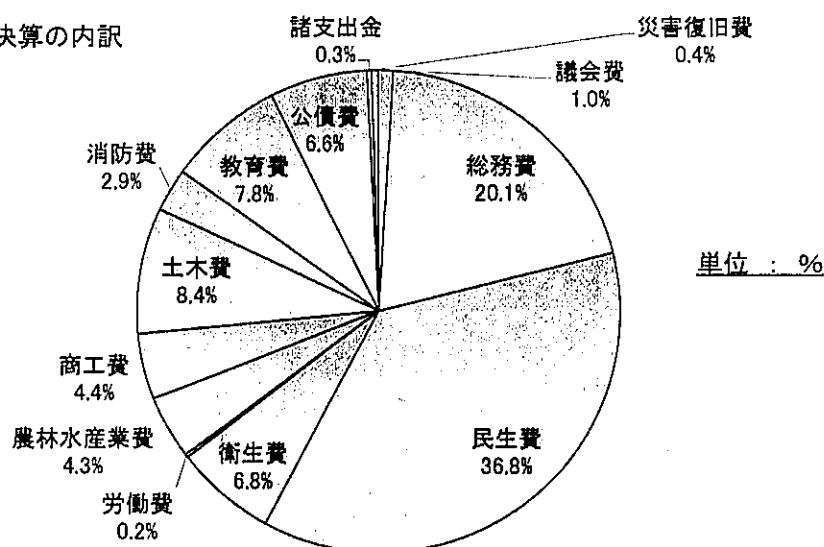
(5) 教育費決算

① 一般会計決算の内訳

(単位:千円、%)

款	令和5年度 決算額	構成割合	令和4年度 決算額	構成割合	比較
1 議会費	148,987	1.0	149,042	1.0	△ 55
2 総務費	2,920,163	20.1	2,914,358	18.9	5,805
3 民生費	5,350,676	36.8	4,883,032	31.7	467,644
4 衛生費	985,685	6.8	1,049,585	6.8	△ 63,900
5 労働費	30,265	0.2	25,997	0.2	4,268
6 農林水産業費	618,374	4.3	616,814	4.0	1,560
7 商工費	636,936	4.4	706,536	4.6	△ 69,600
8 土木費	1,227,736	8.4	2,356,204	15.3	△ 1,128,468
9 消防費	421,160	2.9	452,613	2.9	△ 31,453
10 教育費	1,137,527	7.8	1,103,942	7.2	33,585
11 公債費	958,093	6.6	1,070,419	7.0	△ 112,326
12 諸支出金	46,295	0.3	58,589	0.4	△ 12,294
14 災害復旧費	64,771	0.4	2,729	0.0	62,042
計	14,546,668	100	15,389,860	100	△ 843,192

一般会計決算の内訳



② 教育費決算の内訳

(単位:千円、%)

項	令和5年度 決算額	構成割合	令和4年度 決算額	構成割合	比較
1 教育総務費	421,601	11.0	302,840	8.5	△ 118,761
2 小学校費	210,485	5.5	158,435	4.4	△ 52,050
3 中学校費	102,108	2.6	87,512	2.4	△ 14,596
4 社会教育費	245,375	6.4	285,204	8.0	39,829
5 保健体育費	157,958	4.1	269,951	7.5	111,993
民生費 児童福祉費 (子ども課分)	2,700,881	70.4	2,475,864	69.2	△ 225,017
計(※)	3,838,408	100.0	3,579,806	100.0	△ 258,602

※①表中の教育費との差は子ども課分を含めているため。

}

第 2 部

教育委員会の主要施策の点検・評価

行政評価シートの見方

教育委員会事務局各課の事業について、事業担当課において評価シートを用い、施策・事業の目標に対して評価を行った。その評価方法、記述方法については以下のとおりである。

○事務事業名：評価を行った事業の名称である。

○施策の体系と担当課

総合計画：この施策が、第5次総合計画における政策体系のどこに該当するかを、総合計画の章、節、基本計画の名称と番号で表している。

担当部署：施策を執行し、評価を行った課の名称である。

○事業の対象：この事業によって直接働きかける相手や、ものである。

○事業の目的と達成度

意 図：この施策を行うことによって、残したい結果や目指そうとする成果（対象や受益者をどういう状態にしたいか）である。

成果指標：事業を推進した結果、もたらされた状況（どのような影響・効果があったか）を数値化して表したものである。施策によって意図を直接的に数値化することが困難であったり、適切な数値が把握できない場合などは、代替的な指標を設定している。

○事業の内容と活動量

手 段：具体的にどうすることによって、事業を推進したかを記入している。

決算額：各項目において、この事業を構成するすべての事務事業にかかったコストの合計額を表している。（直接事業費とは人件費を含め、役務費・需用費等、事業に係るすべての費用）

○個別評価

「必要性」「有効性」「効率性」の3つの視点での評価。

【必要性（妥当性）の評価視点】

市が事業に関与する必要があるか、社会環境や住民ニーズ等を考慮して目的は妥当かなど、事業実施の必要性の評価。

【有効性の評価視点】

事業の成果指標は達成できそうか、総合計画の基本施策の目標値の達成に貢献しているかなど、事業の有効性の評価。

【効率性の評価視点】

実施主体を工夫することでコストを削減できないか、実施手段の適正化等によりコスト削減の余地ははいかなど、事業の効率性の評価。

○総合評価

総合評価欄は、「必要性」「有効性」「効率性」の3つの視点から評価を踏まえ、A～Dの4段階で総合評価を判定する。

【評価基準】

A：計画どおり事業を進めることが適当

B：事業の進め方の改善の検討が必要である

C：事業規模・内容・実施主体の見直し検討が必要である

D：事業の統合・休廃止の検討が必要である

○今後の方向性

総合評価をベースに「成果」と「投入コスト」の方向性を評価する。

【成果の方向性】

拡大、維持、縮小、統廃合

【投入コストの方向性】

増額、維持、減額、皆減

1 生きる力を育むための学校教育の充実

- 1 教育研究奨励事業
- 2 奨学資金
- 3 語学指導外国青年招致事業
- 4 不登校児童生徒教育支援事業
- 5 心の教室相談員設置事業
- 6 特別支援教育推進事業
- 7 社会に学ぶ14歳の挑戦事業
- 8 学校司書配置事業
- 9 学校評議員設置事業
- 10 小学校英語活動推進事業
- 11 スクールガード・リーダー配置事業
- 12 科学・理数・ものづくり教育推進事業
- 13 読解力向上研究推進事業
- 14 学校給食共同調理場管理運営事業
- 15 小学校情報教育設備充実事業
- 16 要・準要保護児童就学援助事業
- 17 小学校特別支援教育就学奨励事業
- 18 中学校情報教育設備充実事業
- 19 要・準要保護生徒就学援助事業
- 20 中学校特別支援教育就学奨励事業

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	教育研究奨励事業	担当部署	教育総務課
将来像	ひとが元気	予 会計 01	一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	算 款 10	教育費
基本施策	2 学校教育の充実	科 項 01	教育総務費
施策名	②魅力ある授業づくりの推進	目 目 02	事務局費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
小・中学校関係団体等

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
各種団体に補助を行うことで、小中学校の教育の質の向上及び円滑な運営を図る。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
	目標						
	実績						
根拠							
	目標						
	実績						
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
各種団体(9団体)の活動内容に応じ、補助を実施する。
・滑川市中学校体育連盟
・滑川市中学校教育研究会
・滑川市小学校教育研究会
・富山県立にかわ総合支援学校教育振興会
・富山県統計教育研究会
・富山県特別支援教育研究会
・富山県中学校文化連盟
・滑川市学校保健会
・富山県学校図書館協議会

活動指標(どの程度手段を実施したか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
補助団体数	団体	計画	9	9	9	9	9
		実績	9	9	9		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			1,397	1,580	1,285	1,795	1,795
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源		1,397	1,580	1,285	1,795	1,795

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	学校教育の円滑な運営のために必要である。
有効性	高い	それぞれの目的をもって組織された団体において、自主研究等が行われており、研究成果が児童生徒への指導等にも生かされる。
効率性	やや高い	事務窓口を一本化することで、事務効率は上がると思われる。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当	B
B: 事業の進め方の改善の検討	
C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討	
D: 事業の統合・休廃止の検討	

事業の課題

各種団体の活動内容を研究会や研究会の実績、研究記録等を基に精査するとともに、自立性を促す等の適正な補助に努める。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	各種団体の活動内容を研修会や研究会の実績、研究記録等を基に精査するとともに、自立性を促す等の適正な補助に努める。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	山谷 大有	担当係長	蛭川 博之	作成者	清水 祐仁
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名		奨学資金	担当部署		教育総務課
施策体系	将来像	ひとが元気	予算科目	会計	01 一般会計
	政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり		款	10 教育費
	基本施策	2 学校教育の充実		項	01 教育総務費
	施策名	④就学支援体制の充実		目	02 事務局費
根拠法令等					

事業の対象

誰・何に対して
経済的な理由等により、高校や大学等に進学困難な学生

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
学校教育を受けることを支援し、人材を育成する。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
給与・貸与人数(高校、大学等)	人	目標	12	13	14	14	14
		実績	10	12	11		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
品行方正、学業成績が優秀であり、学費の支弁が困難である大学等で学ぶ滑川市民の中で、市奨学生選考委員会に諮って奨学金を支給した。 橋本一弘氏のふるさと滑川応援寄附金等の寄附金を財源として、学業成績が優秀であり、学費の支弁が困難である高等学校に在籍する滑川市民の中で、市奨学生選考委員会に諮って奨学金を支給した。 令和5年度実績 <高校生給与> 一律 200,000円 5名 <貸与> <給与> 県内大学等 月20,000円 0名 2名 県外大学等 月40,000円 2名 2名

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
給与・貸与人数(高校、大学等)	人	計画		12	13	14	14	14
		実績		10	12	11		
		計画						
		実績						
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				3,800	4,120	4,360	6,280	6,280
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他			3,800	4,120	4,360	6,280	6,280
	一般財源							

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	明日の滑川市を担う学業成績が優秀で、学費の支弁が困難なものに対し支援するものである。
有効性	やや高い	学費の支弁が困難な者に対するものであり、有効に支弁されているものであるが、限られた予算の中で執行しなければならぬため、年度ごとの選考人数に増減がある。
効率性	やや高い	制度の趣旨からはコストの削減は考えにくく、また、定められた予算のなかで執行するため、選考基準が予算に左右される可能性がある。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

申請年度の申請状況によっては、予算の状況により該当、非該当になるため公平性を保つのは難しい。高校生の給与は寄附金を財源とするため、対象人数に限りがある。
--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	今後も引き続き福祉課、子育て応援課、学校と情報共有を行うとともに、幅広い周知を行っていきたい。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

評価者

評価責任者	山谷 大有	担当係長	鍋木 知子	作成者	岩田 峻太郎
-------	-------	------	-------	-----	--------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	語学指導外国青年招致事業	担当部署	教育総務課
将来像	ひとが元気	予算科目	一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	会計	01
基本施策	2 学校教育の充実	款	10
施策名	②魅力ある授業づくりの推進	項	01
根拠法令等		目	03
			教育センター費

事業の対象

誰・何に対して
市内小中学校 児童生徒

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
国際化に対応した学校教育を行い、児童生徒の英語力の向上を図る。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
ALT配置校数	校	目標	9	9	9	9
		実績	9	9	9	9
根拠						
		目標				
		実績				
根拠						

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
中学校と小学校に外国語指導助手を計4人配置した。英語の授業のサポートを行うほか、小学校における外国語の授業、外国語活動授業に対応するため、市内小学校を巡回するなど、児童生徒への生きた英語の習得に資した。

活動指標(どの程度手段を実施したか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
ALT人数	人	計画	4	4	4	4
		実績	4	4	4	4
		計画				
		実績				
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6
事業決算額・計画額			16,505	20,658	18,726	19,644
財源内訳	国県支出金					
	地方債					
	その他		1,187	1,415	1,216	528
	一般財源		15,318	19,243	17,510	19,116

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	今後ますますグローバル化する時代にあって、次代を担う子どもたちが国際感覚を養う事業である。
有効性	高い	市内小中学校を巡回し、授業への活用を図る。
効率性	やや高い	必要経費に削減の余地はなく、コスト削減は難しい。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

事務量が多いため、効率的な運営方法の検討が必要である。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	英語専科教諭や英語教諭と協力し、教育センターや各校と連携して、学習展開スタンダード等を活用し、授業力の向上を図る。デジタル教科書教材の活用に努める。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	山谷 大有	担当係長	鍋木 知子	作成者	中沖 彩夏
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	不登校児童生徒教育支援事業	担当部署	教育総務課
将来像	ひとが元気	予算科目	会計 01 一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	款 10	教育費
基本施策	2 学校教育の充実	項 01	教育総務費
施策名	④就学支援体制の充実	目 03	教育センター費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
不登校の状況にある児童生徒及びその傾向にある児童生徒

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
不登校及び不登校傾向の児童生徒に適切な指導を行う。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
あゆみの利用実績(通所児童生徒数)	人/年	目標	—	—	—	—
		実績	14	19	12	
根拠						
		目標				
		実績				
根拠						

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①常に学校と連絡を取り合い、不登校児童生徒の把握と援助をすすめた。
②仲間とのふれあい活動を通して、対人的な不安や不適応感を軽減し、対人関係の適応力を高めた。
③保護者との面談を多く持ち、相互の信頼関係をより高めながら、その子に合った援助を確立した。
④自立心を育てることに重点を置き、学校への復帰を援助した。
【不登校児童生徒数】R2 43人、R3 62人、R4 90人、R5 110人

活動指標(どの程度手段を実施したか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
相談員人数	人	計画	4	4	4	4
		実績	4	4	4	
		計画				
		実績				
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6
事業決算額・計画額			3,185	3,285	3,339	3,630
財源内訳	国県支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源		3,185	3,285	3,339	3,630

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	不登校児童生徒やその傾向にある児童生徒のため必要な事業である。
有効性	高い	児童生徒の再登校へ向けた環境整備だけでなく、対人的な不安や不適応感を軽減し対人関係の適応力を高める。
効率性	高い	コスト削減等は難しい。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当	A
B: 事業の進め方の改善の検討	
C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討	
D: 事業の統合・廃止の検討	

事業の課題

--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	山谷 大有	担当係長	鍋木 知子	作成者	米田 幸司
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名		心の教室相談員設置事業	担当部署		教育総務課
施策体系	将来像	ひとが元気	予算科目	会計	01 一般会計
	政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり		款	10 教育費
	基本施策	2 学校教育の充実		項	01 教育総務費
	施策名	④就学支援体制の充実		目	03 教育センター費
	根拠法令等				

事業の対象

誰・何に対して	
市内小中学校 児童生徒	

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)	
児童生徒のいじめ、暴力及び不登校などの生徒指導上の諸問題について、未然に防止し、児童生徒の不安や悩みの相談を行うとともに、家庭・地域と学校の連携を支援する。	

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)	
①中学校2校に心の教室相談員を配置した。 ②小学校1校に県の事業「子どもと親の相談員」を配置した。 ③児童生徒や保護者が日頃の不安や悩みを気軽に相談できる環境を整えるため、相談員と教職員が連携を図った。 ④スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーを小中学校に配置した。	

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
スクールカウンセラー配置回数	回/年	目標	270	270	270	270	270
		実績	268	292	285		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
心の教室相談員配置校数	校	計画	3	3	3	3	3
		実績	3	3	3		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			901	697	1,115	1,002	1,002
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源		901	697	1,115	1,002	1,002

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	児童生徒や保護者の不安・悩み等を聞くことで、心のストレスを和らげるためには必要な事業である。
有効性	高い	相談員と担任、養護教諭、生徒指導主事等が随時情報交換ができ、情報を共有化することなどにより、有効に事業が推進されている。
効率性	やや高い	児童生徒や保護者の心の問題といった秘密事項を扱うため、外部に委託することはできない。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

他の事業で補うことで概ね公正性は保たれているが、心の教室相談員が配置されていない学校がある。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	不安や悩みを抱える児童生徒や保護者等の相談をできるだけ多く受けられるよう、県派遣のスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの充実に努める。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--	--	--	--	--	--

評価者

評価責任者	山谷 大有	担当係長	鍋木 知子	作成者	岩田 峻太郎
-------	-------	------	-------	-----	--------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名		特別支援教育推進事業	担当部署			教育総務課
施策体系	将来像	ひとが元気	予算科目	会計	01	一般会計
	政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり		款	10	教育費
	基本施策	2 学校教育の充実		項	01	教育総務費
	施策名	④就学支援体制の充実		目	03	教育センター費
	根拠法令等					

事業の対象

誰・何に対して
支援が必要な児童生徒

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
支援が必要な児童生徒が安心して学校生活を送れるよう支援する

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
支援が必要な児童生徒への支援割合	%	目標	100	100	100	100	100
		実績	100	100	100		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
支援が必要な児童生徒をサポートするため、全小中学校へスタディメイトを配置した。また、上市町、立山町、舟橋村と協力して教育相談会(地区相談会)を実施した。

活動指標(どの程度手段を実施したか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
スタディメイト配置人数	人	計画	22	25	25	25	25
		実績	22	25	29		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			15,859	16,904	19,322	21,921	21,921
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源		15,859	16,904	19,322	21,921	21,921

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	支援を必要とする児童生徒が年々増加しているため、必要な事業である。
有効性	高い	支援を必要とする児童生徒が、安心して学校生活を送ることができている。
効率性	高い	非常勤職員が必要最低限の時間しか従事しておらず、コスト削減することは難しい。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

支援を必要とする児童生徒が増加傾向にあり、学校によってはスタディ・メイトが充足されているとは言えない。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	増額
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	各学校の実態が毎年変わることから、状況把握に努め、スタディ・メイトの配置について毎年見直していくとともに、専門性を高める研修の充実に努める。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

評価者

評価責任者	山谷 大有	担当係長	鍋木 知子	作成者	岩田 峻太郎
-------	-------	------	-------	-----	--------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	社会に学ぶ14歳の挑戦事業	担当部署	教育総務課
将来像	ひとが元気	予算科目	一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	款	教育費
基本施策	2 学校教育の充実	項	教育総務費
施策名	②魅力ある授業づくりの推進	目	教育センター費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して	
中学2年生	

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)	
学校外での職場体験活動や福祉・ボランティア活動等に参加することにより、規範意識や社会性を高め、将来の自分の生き方を考えるなど、成長期の課題を乗り越えるたくましい力を身に付けることを目指す。	

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
参加人数	人/年	目標	269	256	295	279	231
		実績	262	242	287		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)	
生徒の興味・関心を踏まえ、地域や学校の実態に応じて、学校外での職場体験活動や福祉・ボランティア活動等に参加する。 5日間で約30時間の体験活動を行う。	

活動指標(どの程度手段を実施したか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
参加人数	人/年	計画	269	256	295	279	231
		実績	262	242	287		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			773	645	886	960	960
財源内訳	国県支出金		386	322	443	480	480
	地方債						
	その他						
	一般財源		387	323	443	480	480

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	生徒の規範意識や社会性を高め、将来の自分の生き方を考えさせるなど、成長期の課題を乗り越えるたくましい力を身に付けることを目的とする事業である。
有効性	やや高い	各事業所での実体験は、生きる力を育む教育理念にかなっているが、活動意欲が低い生徒もいる。
効率性	高い	指導計画に位置付けられて実施するものであり、他に類似するものがない。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

生徒の多様なニーズに対応するため、地域との連携をさらに深めながら、新たな業種の受け入れ事業を開拓する必要がある。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	働くことの意義を知ることにより、生徒の心身の成長につながる事業であり、キャリア教育の一環として引き続き、市内企業への事業の周知や協力企業へ呼びかけながら、円滑な実施に努める。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--	--

評価者

評価責任者	山谷 大有	担当係長	蜷川 博之	作成者	清水 祐仁
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名		学校司書配置事業	担当部署			教育総務課
施策体系	将来像	ひとが元気	予算科目	会計	01	一般会計
	政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり		款	10	教育費
	基本施策	2 学校教育の充実		項	01	教育総務費
	施策名	②魅力ある授業づくりの推進		目	03	教育センター費
	根拠法令等					

事業の対象

誰・何に対して
市内小中学校 児童生徒

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
学校図書館機能の充実を図り、児童生徒が主体的・積極的に読書活動や学習活動を行うよう支援し、児童生徒の豊かな情操を育む。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
平均貸出冊数	冊/年	目標	35	40	40	40	40
		実績	36	33	集計中		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
全小中学校に学校司書を配置し、市立子ども図書館等と連携しながら、読書活動の推進、読書環境の充実を図った。 読み聞かせボランティアを配置し、朝読書の習慣化を図った。 ・小中学校9校に学校司書を5名配置した。 ・読み聞かせボランティア活動のためのボランティア保険に加入した。

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
学校司書配置校	校	計画		9	9	9	9	9
		実績		9	9	9		
		計画						
		実績						
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				4,693	4,622	5,221	5,402	5,402
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源			4,693	4,622	5,221	5,402	5,402

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	児童生徒の活字離れを食い止めるための事業であり、学校における取組みは必要である。
有効性	高い	学校図書館と子ども図書館との連携による調べ学習を推進するため、人員の増が必要である。
効率性	やや高い	市立図書館の司書との連携や外部からの派遣等により、効率性の良いものとならないか検討の余地はある。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

図書室の利用を促進することで児童生徒の読書活動の充実を図る必要がある。

今後の方向性

成果の方向性	拡大	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	学校司書や読み聞かせボランティアにより、児童生徒が本を読む習慣を身に付けることができるよう取組む。授業で使用する教材や調べ学習に関連する図書の提供について司書教諭との協力を進めるとともに研修の充実に取り組む。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

評価者

評価責任者	山谷 大有	担当係長	鍋木 知子	作成者	岩田 峻太郎
-------	-------	------	-------	-----	--------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	学校評議員設置事業	担当部署	教育総務課
将来像	ひとが元気	予 会計 01	一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	算 款 10	教育費
基本施策	2 学校教育の充実	科 項 01	教育総務費
施策名	②魅力ある授業づくりの推進	目 目 03	教育センター費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
市内小中学校

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
地域住民の代表として学校評議員を各学校に設置し、学校運営への参画を促すことにより、学校、家庭、地域が手を携えて、よりよい教育の実現を目指すとともに、学校の自主性、自立性を高め、適正な学校運営を行うとともに、地域に開かれた学校づくりの一層の推進を図る。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
開催回数	回/年	目標	27	27	27	27	0
		実績	26	27	27		
根拠							
	0 0	目標	0	0	0	0	0
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
① 学校評議員への説明や情報提供 学校評議員に対し、学校運営に対するビジョン、学校の教育目標、教育活動などの学校の様子を十分説明
② 学校評議員からの意見聴取と学校運営への反映 学校評議員一人ひとりの意見を聴取する機会を設け、その意見や提言を学校運営に具体的に反映するため、学校全体で具体的な改善方を検討
③ 家庭や地域への説明責任 開かれた学校づくりを推進するため、保護者や地域住民に対し、学校だよりやPTA広報紙等で、学校評議員からの意見や提言、それを受けた具体的な改善方を説明

活動指標(どの程度手段を実施したか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
開催回数	回/年	計画	27	27	27	27	0
		実績	26	27	27		
	0 0	計画	0	0	0	0	0
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			684	746	744	746	0
財 国県支出金			0	0	0	0	0
源 地方債			0	0	0	0	0
内 其他			0	0	0	0	0
訳 一般財源			684	746	744	746	0

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	低い	学校運営協議会制度へ移行予定。
有効性	やや高い	全学校において評議員を設置し、地域住民の学校運営への参画が促されており、教育環境の改善等に生かされている。
効率性	高い	現状は学校評価委員との業務で事業を実施しており、これ以上の統合や連携、規模縮小等は難しい。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当	D
B: 事業の進め方の改善の検討	
C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討	
D: 事業の統合・休廃止の検討	

事業の課題

学校と保護者と地域が協働で学校づくりを行う学校運営協議会制度への移行について、地域学校協働活動の取組と併せて進めていく。

今後の方向性

成果の方向性	統廃合	投入コスト	皆減
--------	-----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	地域学校協働活動の推進体制作りとあわせて、学校運営協議会制度への移行を進めていく。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	学校運営協議会制度として予算要求。

その他

--

評価者

評価責任者	山谷 大有	担当係長	蛭川 博之	作成者	蛭川 博之
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	小学校英語活動推進事業	担当部署	教育総務課
将来像	ひとが元気	予算科目	会計 01 一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	款 10	教育費
基本施策	2 学校教育の充実	項 01	教育総務費
施策名	②魅力ある授業づくりの推進	目 03	教育センター費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して	
小学校児童(3・4年生)	

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)	
外国の言語や文化について理解を深めるとともに、国際化に主体的に対応できる児童を育成する。	

成果指標(どの程度意図が達成されたか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
英語活動支援員が配置される3・4年生のクラスの割合	%	目標	75	90	100	100
		実績	100	100	100	100
根拠						
		目標				
		実績				
根拠						

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)	
外国語に堪能な地域人材を小学校英語活動支援員として学校に配置し、英語力の向上を図った。 ①外国語(英語)に堪能な地域人材を活用した。 ②学級担任とチームティーチング授業を行い、実践的な取組みを推進した。 ③学級担任、英語専科教員、ALT、英語活動支援員が相互に連携をとり、カリキュラムを作成した。 ④音声を中心に外国語に慣れ親しませることができた。	

活動指標(どの程度手段を実施したか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
英語活動支援員	人	計画	2	2	2	2
		実績	2	2	2	2
		計画				
		実績				
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6
事業決算額・計画額			881	897	1,084	823
財源内訳	国県支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源		881	897	1,084	823

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	グローバル化する時代にあって、児童生徒が国際感覚を身に付ける必要性が高いが、その第一歩として小学生から外国語に慣れ親しむうえで、大変重要な事業である。
有効性	やや高い	英語活動支援員が複数校での勤務のため、小学校間での調整を要する。十分に活用するためには人員の増が必要である。
効率性	やや高い	学習指導要領に定められた授業時数であり、現状維持でよい。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

学習指導要領の改訂等による時数増の対応が必要。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	英語専科教員、ALTと英語活動支援員が連携し、教職員の英語力の向上と小学校の英語教育を推進するため、英語活動支援員の更なる活用に努めたい。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

評価者

評価責任者	山谷 大有	担当係長	鍋木 知子	作成者	岩田 峻太郎
-------	-------	------	-------	-----	--------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	スクールガード・リーダー配置事業	担当部署	教育総務課
将来像	まちが元気	予 算	一般会計
政策	政策4 安全安心な暮らしを守るまちづくり	会 計	01
基本施策	14 防犯・交通安全・消費者保護対策の推進	款	10
施策名	①交通安全活動の推進	項	01
根拠法令等		目	03
			教育センター費

事業の対象

誰・何に対して	
市内小中学校	

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)	
児童生徒の安全を見守る体制を整備することで、交通事故を防止する。	

成果指標(どの程度意図が達成されたか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
児童の交通事故死者数	人/年	目標	0	0	0	0
		実績	0	0	0	0
根拠						
		目標				
		実績				
根拠						

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)	
スクールガード・リーダーを配置する。	
① スクールゾーンのパトロール	
児童生徒の登下校時を重点的にスクールゾーンのパトロール等を実施する。	
② 防犯、交通安全教室等の開催	
防犯、交通安全教室等を開催し、児童生徒や教職員等に防犯や交通安全に対する注意を促す。	
③ 警察等関係機関との情報交換や協力依頼	
不審者情報等に対し、必要に応じて関係機関との情報交換や、協力依頼を行う。	

活動指標(どの程度手段を実施したか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
スクールガード・リーダー配置数	人	計画	1	1	1	1
		実績	1	1	1	1
活動時間	時間	計画	60	60	60	60
		実績	65	62	66	60
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6
事業決算額・計画額			117	112	119	139
財 源 内 訳	国県支出金		78	74	78	92
	地方債					
	その他					
	一般財源		39	38	41	47

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	やや高い	近年、増加している犯罪や不審者等から児童を守るため、必要な事業である。
有効性	やや高い	国及び県の補助事業を活用するものであり、市が事業主体となって実施する必要がある。
効率性	やや高い	警察官〇Ｂという立場から、関係各機関とのパイプを利用することもでき、効果的に事業が進められている。
		学校安全パトロール隊、警察署、防犯協会等と活動内容が重複しないよう、今後も連携していく必要がある。コスト面での見直し部分はあまりないと思われる。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当	B
B: 事業の進め方の改善の検討	
C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討	
D: 事業の統合・休廃止の検討	

事業の課題

成果を向上させるため、類似団体との協力体制の強化等、検討の余地はあると考えられる。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	防犯・交通安全教育等、関係団体との連携を密にし、今後も学校ごとのニーズや課題を踏まえた事業の推進に努める。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	山谷 大有	担当係長	蜷川 博之	作成者	清水 祐仁
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名		科学・理数・ものづくり教育推進事業		担当部署		教育総務課	
施策体系	将来像	ひとが元気		予算科目	会計	01	一般会計
	政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり			款	10	教育費
	基本施策	2 学校教育の充実			項	01	教育総務費
	施策名	①科学・理数・ものづくり教育の推進			目	03	教育センター費
根拠法令等							

事業の対象

誰・何に対して
市内小中学校 児童生徒

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
実験・実習・体験的活動等を通じて児童生徒が科学やものづくりに興味をもち、科学的、論理的に考える力、生きる力を育成する理数教育を推進する。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
科学の時間が好きな児童の割合	%	目標	98	99	99	99	99
		実績	96.9	94	91		
根拠							
科学の時間が好きな生徒の割合	%	目標	90	95	99	99	99
		実績	85.3	87	86		
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①各校に観察実験アシスタントを配備する。 ②理数教育、ICT機器に関する設備の整備をする。

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
観察実験アシスタント の配置校	校	計画		9	9	9	9	9
		実績		9	9	9		
理科専科教員の配置 校(小学校)	校	計画		5	6	7	7	7
		実績		4	3	3		
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				1,284	1,178	1,488	1,538	1,538
財 源 内 訳	国県支出金			1,058	964	1,155	1,179	1,179
	地方債							
	その他							
	一般財源			226	214	333	359	359

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	ものづくりのまち滑川を支える人材の育成のため、科学理数教育の推進は必要である。
有効性	高い	観察実験等による体験をとおりて科学に関する理解を深めることは有効である。
効率性	高い	国の補助事業を活用し事業を実施している。今後も活用できる補助事業があれば積極的に活用を検討する。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

R3年度に配備された児童生徒1人1台のタブレット端末を「科学の時間」においてどのように活用するかが課題である。情報の取捨選択とともに実験などの体験型の学習を増やす必要がある。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	令和5年度からは探究・科学教育推進協議会において、端末の活用方法を研究する。実験機材等の充実に努め、実験機材の活用について研修機会を提供し、体験型学習を増やす。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	山谷 大有	担当係長	蜷川 博之	作成者	清水 祐仁
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	読解力向上研究推進事業	担当部署	教育総務課
将来像	ひとが元気	予算科目	一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	会計	01
基本施策	2 学校教育の充実	款	10
施策名	②魅力ある授業づくりの推進	項	01
根拠法令等		目	03
			教育センター費

事業の対象

誰・何に対して
市内小中学校、児童生徒

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
確かな学力向上のために、拠点校を指定し、実践的な取り組みを行うほか、教育委員会で学力向上に資するための事業を行う。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取り組み)
確かな学力向上のために、小中学校9校の全校を対象として、実践的な取り組みを行うなど、学力向上を目指す。 (1) 学力調査等の結果を分析し、課題について共通理解する。 (2) 児童生徒の学び合いの具体像と表現力育成に向けた教材事例を通し、教員の資質の向上について検討する。 (3) それぞれの学校が、地域との連携を図りながら実施する、創意工夫した特色ある取組に対して支援を行い、内容について検討する。 ・標準学力調査の実施 ・指導助言者謝礼

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
全国学力学習状況調査において全国平均を上回った教科	教科数	目標	国・算・数	国・算・数	国・算・数	国・算・数	国・算・数
		実績	国・算・数	国・算・数	国(小)・算		
根拠		目標					
		実績					
根拠							

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
拠点数	校	計画	3	9	9	9	9
		実績	3	9	9		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			440	440	549	550	550
財源内訳	国県支出金		440	440	549	550	550
	地方債						
	その他						
	一般財源						

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	児童生徒の学力向上のために必要である。
有効性	高い	全ての学校を推進校として、読解力の向上に取り組んでいる。
効率性	高い	委託事業であるため、委託費の範囲内で最大の効果を上げるよう事業を実施している。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	A

事業の課題

教務主任と研究主任による学力向上研修会において、「読み解く力」育成のための取り組みの情報共有を行うなどしており、今後も、教材研究をとおして、児童の学力向上につなげる。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	教材研究を情報共有化して、よりよい指導につなげていく。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

令和5年度に「学力向上プラン研究事業」から事業名変更。

評価者

評価責任者	山谷 大有	担当係長	蜷川 博之	作成者	蜷川 博之
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	学校給食共同調理場管理運営事業	担当部署	教育総務課
将来像	ひとが元気	予算科目	会計 01 一般会計
政策	政策3 住み慣れた地域で生き生きと暮らせるまちづくり	款 10 教育費	
基本施策	11 保健・食育・感染症対策の推進、地域医療の確保	項 01 教育総務費	
施策名	③食育の推進	目 04 学校給食共同調理場費	
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
小中学生

事業の目的と達成度

意図（対象をどのようにしたいか）
「学校給食法」に基づき、児童・生徒の心身の健全な発達に資するため、学校給食を実施する。 食育の推進を図るため、地場産野菜の活用を図るとともに、学校給食を活用した食に関する指導等を推進する。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
学校給食における残食率	%	目標	1.0	0	0	0	0
		実績	1.0	1.4	1.4		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①学校給食の提供 地場産野菜をふんだんに取り入れながら、安全でおいしい給食を児童生徒に提供する。
②食育の推進 食育の全体計画のカリキュラムマネジメント生かし、授業時間、給食時間、夏休み期間など機会を捉えて、食に関する指導の充実を図る。

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
学校給食における地 場産野菜の使用率	%	計画	64	65	65	65	65	65
		実績	50	49.5	45.7			
家庭・地域連携	回	計画	10	11	12	12	12	12
		実績	26	18	24			
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				50,226	55,192	72,827	51,082	51,082
財 源 内 訳	国県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源			50,226	55,192	72,827	51,082	51,082

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	「学校給食法」に基づいて、児童生徒に学校給食を提供している。
有効性	高い	学校給食の実施とともに食育の推進が学校教育の充実の観点から重要である。
効率性	やや高い	共同調理場の維持管理費については、必要最低限となるよう努力しているが、施設・設備の老朽化により、補修・修繕が増えている。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

施設・設備が老朽化しているため、計画的に修繕や更新を実施していく。職員の確保、資質の向上に努める。地場産野菜を積極的に使用していく。学校教育の充実のためには、学校給食の実施や食育の推進が重要であり、引き続き、子供たちに安全でおいしい給食を提供し、食育を推進していく必要がある。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	作業マニュアルの見直しを行い、設備を充実させるなどの環境整備をする必要がある。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	山谷 大有	担当係長	鏑木 知子	作成者	中沖 彩夏
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

施策体系	事業名	小学校情報教育設備充実事業	担当部署			教育総務課
	将来像	ひとが元気	予算科目	会計	01	一般会計
	政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり		款	10	教育費
	基本施策	2 学校教育の充実		項	02	小学校費
	施策名	②魅力ある授業づくりの推進		目	02	教育振興費
根拠法令等						

事業の対象

誰・何に対して	
市内小学校	

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)	
教育において教員がICTを有効に活用することで、児童の学習への興味・関心を高め、主体的・対話的で深い学びを実現させる。	

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)	
各学校にICT機器を整備し、情報教育環境を充実させるとともに、教育においてICT機器を有効に活用できるよう、教員に対してICT活用指導力向上に関する研修の受講を促進する。	

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
授業にICTを活用して指導する能力に関して「できる」「ややできる」と回答する教員の割合	%	目標	85	95	100	100	100
		実績	74	77	78		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
ICT活用指導力向上に関する研修を受講した教員の割合		%	計画	90	95	100	100	100
			実績	68	64	61		
			計画					
			実績					
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				17,515	17,891	20,310	16,300	16,300
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源			17,515	17,891	20,310	16,300	16,300

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	次代を担う児童が進展する情報化社会に対応するための教育といった観点から必要である。
有効性	高い	パソコン技能の習得、情報モラル・マナー、コンピュータ犯罪等の規範意識の向上、ICTを活用することによる個別最適学習の実現等に有効である。
効率性	高い	保守業務は、小中学校及び教育センターを一括して民間事業者に委託している。機器購入については、過去の導入成果等をもとに取捨選択を行うなど、コスト削減の余地はあると考えられる。

総合評価

評価基準	評価
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直しの検討 D:事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

GIGAスクール構想の実現に伴うランニングコストの増大が課題となっている。GIGAスクール構想で整備した通信網の更なる活用が必要である。
--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	機器更新時には、過去に導入した機器の成果や活用度合等を評価し、取捨選択を適切に実施するなど、コスト増加を抑えつつ、削減の可能性を検討する。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--	--	--	--	--	--

評価者

評価責任者	山谷 大有	担当係長	蛭川 博之	作成者	清水 祐仁
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	要・準要保護児童就学援助事業	担当部署	教育総務課
将来像	ひとが元気	予算科目	会計 01 一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	款	10 教育費
基本施策	2 学校教育の充実	項	02 小学校費
施策名	④就学支援体制の充実	目	02 教育振興費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
経済的理由によって就学困難な児童

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
経済的理由によって就学困難な児童に対し、学用品費や給食費等を支給することにより、教育の機会均等を支援し、人材を育成する。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
根拠		目標				
		実績				
根拠		目標				
		実績				

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
経済的理由によって就学困難な児童を、要・準要保護者として認定し、その保護者に学用品費や給食費等の補助を行った。 令和5年度に滑川市内の小学校へ入学予定の保護者に対し、入学前の3月に就学援助費目のうち「新入学学用品費」を前倒して支給した。(10人) ＜令和5年度(限度額)＞ 学用品費(1年:13,230円、2～6年:15,500円) 新入学学用品費 54,060円、校外活動費(宿泊あり) 3,690円、 学校給食費 実徴収額、クラブ活動費 2,760円、 生徒会費 4,650円、PTA会費 3,450円、 卒業アルバム費 11,000円、 オンライン学習通信費 12,000円(追加分)

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
支給人数	人	計画		95	100	105	105	105
		実績		88	85	104		
		計画						
		実績						
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				6,918	7,346	8,983	8,533	8,533
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源			6,918	7,346	8,983	8,533	8,533

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	経済的理由によって就学困難な児童を援助するものであり、教育の機会均等の趣旨に基づき、必要不可欠な事業である。
有効性	やや高い	事業内容自体は適正であるが、周知方法や保護者への説明の仕方等に改善の余地がある。
効率性	高い	制度の趣旨からはコストの削減は考えにくい。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

引き続き、保護者への周知を徹底し、援助が必要な家庭に対し十分に支援が行き届くようにする必要がある。また、前年の所得状況に基づき判定するが、当該年度に世帯の生計に変化が生じた場合にも対応する必要がある。

今後の方向性

成果の方向性	拡大	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	引き続き、保護者への周知を徹底し、援助が必要な家庭に対し十分に支援が行き届くようにする必要がある。また、前年の所得状況に基づき判定するが、当該年度に世帯の生計に変化が生じた場合にも対応する必要がある。新たな費用について、調査研究する。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

評価者

評価責任者	山谷 大有	担当係長	鎗木 知子	作成者	米田 幸司
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名		担当部署		教育総務課	
施策体系	将来像	小学校特別支援教育就学奨励事業		予	一般会計
	政策	ひとが元気		算	教育費
	基本施策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり		科	小学校費
	施策名	2 学校教育の充実		目	教育振興費
	根拠法令等	④就学支援体制の充実			

事業の対象

誰・何に対して
特別支援学級に就学・在籍する児童

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
特別支援学級に就学する児童の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、児童一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもので、その児童の保護者等の経済的負担を軽減するもの。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
家庭の経済状況等に応じ、就学のために必要な経費校外活動費、学用品等購入費、学校給食費、新入学児童学用品費、限度額内において実徴収額の1/2の補助を行う。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
根拠		目標					
		実績					
根拠		目標					
		実績					

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
支給人数		人	計画	13	14	15	15	15
			実績	14	18	11		
			計画					
			実績					
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				478	573	420	787	787
財源内訳	国県支出金			239	286	210	357	357
	地方債							
	その他							
	一般財源			239	287	210	430	430

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	保護者の負担を軽減することで、特別支援教育を普及奨励しており、必要な事業である。
有効性	高い	適切な事業であり、特に問題はない。
効率性	高い	制度の趣旨からはコストの削減は考えにくい。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

引き続き、学校や市教委が個別に対応するなど、保護者への周知に一層努める。

今後の方向性

成果の方向性	拡大	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	引き続き、学校や市教委が個別に対応するなど、保護者への周知に一層努める。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	山谷 大有	担当係長	鍋木 知子	作成者	米田 幸司
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	中学校情報教育設備充実事業	担当部署	教育総務課
将来像	ひとが元気	予算科目	会計 01 一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	款	10 教育費
基本施策	2 学校教育の充実	項	03 中学校費
施策名	②魅力ある授業づくりの推進	目	02 教育振興費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して	
市内中学校	

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)	
教育において教員がICTを有効に活用することで、生徒の学習への興味・関心を高め、主体的・対話的で深い学びを実現させる。	

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
授業にICTを活用して指導する能力に関して「できる」「ややできる」と回答する教員の割合	%	目標	85	95	100	100	100
		実績	58	64	45		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)	
各学校にICT機器を整備し、情報教育環境を充実させるとともに、教育においてICT機器を有効に活用できるよう、教員に対してICT活用指導力向上に関する研修の受講を促進する。	

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
ICT活用指導力向上に関する研修を受講した教員の割合	%	計画	90	95	100	100	100
		実績	100	60	52		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			14,144	10,224	6,409	6,000	11,000
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源		14,144	10,224	6,409	6,000	11,000

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	次代を担う生徒が進展する情報化社会に対応するための教育といった観点から必要である。
有効性	高い	パソコン技能の習得、情報モラル・マナー、コンピュータ犯罪等の規範意識の向上、ICTを活用することによる個別最適学習の実現等に有効である。
効率性	高い	保守業務は、小中学校及び教育センターを一括して民間事業者に委託している。機器購入については、過去の導入成果等をもとに取捨選択を行うなど、コスト削減の余地はあると考えられる。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

GIGAスクール構想の実現に伴うランニングコストの増大が課題となっている。GIGAスクール構想で整備した通信網の更なる活用が必要である。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	機器更新時には、過去に導入した機器の成果や活用度合等を評価し、取捨選択を適切に実施するなど、コスト増を抑えつつ、削減の可能性を検討する。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--	--

評価者

評価責任者	山谷 大有	担当係長	蜷川 博之	作成者	清水 祐仁
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	要・準要保護生徒就学援助事業	担当部署	教育総務課
将来像	ひとが元気	予算科目	一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	会計	教育費
基本施策	2 学校教育の充実	款	中学校費
施策名	④就学支援体制の充実	項	教育振興費
根拠法令等		目	

事業の対象

誰・何に対して
経済的理由によって就学困難な生徒

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
経済的理由によって就学困難な生徒に対し、学用品費や給食費等を支給することにより、教育の機会均等を支援し、人材を育成する。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
経済的理由によって就学困難な生徒を、要・準要保護者として認定し、その保護者に学用品費や給食費等の補助を行った。 令和5年度に滑川市内中学校へ入学予定の保護者に対し、入学前の3月に就学援助費のうち「新入学学用品費」を前倒して支給した。(15人) <令和5年度(限度額)> 学用品費(1年:25,040円、2～3年:27,310円) 新入学児童生徒学用品費 63,000円、 校外活動費(宿泊あり)6,210円、修学旅行費(3年) 60,910円、 体育実技用具費 7,650円、学校給食費 実徴収額、 クラブ活動費 30,150円、生徒会費 5,550円、 PTA会費 4,260円、卒業アルバム費 8,800円、 オンライン学習通信費 12,000円(追加分)

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
根拠	目標						
	実績						
根拠	目標						
	実績						

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
支給人数		人	計画	55	60	70	70	70
			実績	57	50	69		
			計画					
			実績					
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				6,633	7,446	9,316	10,616	10,616
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他			5				
	一般財源			6,628	7,446	9,316	10,616	10,616

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	経済的理由によって就学困難な生徒を援助するものであり、必要不可欠な事業である。
有効性	やや高い	事業内容自体は適正であるが、周知方法や保護者への説明の仕方等に改善の余地がある。
効率性	高い	制度の趣旨からはコストの削減は難しい。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

引き続き、保護者への周知を徹底し、援助が必要な家庭に対し十分に支援が行き届くようにする必要がある。また、前年の所得状況に基づき判定するが、当該年度に世帯の生計に変化が生じた場合にも対応する必要がある。
--

今後の方向性

成果の方向性	拡大	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	引き続き、保護者への周知を徹底し、援助が必要な家庭に対し十分に支援が行き届くようにする必要がある。また、前年の所得状況に基づき判定するが、当該年度に世帯の生計に変化が生じた場合にも対応する必要がある。新たな費用について、調査研究する。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	山谷 大有	担当係長	鍋木 知子	作成者	米田 幸司
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	中学校特別支援教育就学奨励事業	担当部署	教育総務課
将来像	ひとが元気	予算科目	会計 01 一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	款 10 教育費	
基本施策	2 学校教育の充実	項 03 中学校費	
施策名	④就学支援体制の充実	目 02 教育振興費	
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
特別支援学級に就学・在籍する生徒

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
特別支援学級に就学する生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもので、その生徒の保護者等の経済的負担を軽減するもの。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
			目標					
			実績					
根拠								
			目標					
			実績					
根拠								

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
障がいのある生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、校外活動費、修学旅行費(3年生)、学用品等購入費、学校給食費、新入学児童学用品費、限度額内において実徴収額の1/2の補助を行う。

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
支給人数	人	計画		6	7	8	8	8
		実績		4	4	4		
		計画						
		実績						
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				199	218	225	351	351
財源内訳	国県支出金			99	109	112	175	175
	地方債							
	その他							
	一般財源			100	109	113	176	176

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	保護者の負担を軽減することで、特別支援教育を普及奨励しており、必要な事業である。
有効性	高い	適切な事業であり、特に問題はない。
効率性	高い	制度の趣旨からはコストの削減は考えにくい。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・廃止の検討	B

事業の課題

引き続き、学校や市教委が個別に対応するなど、保護者への周知に一層努める。

今後の方向性

成果の方向性	拡大	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	引き続き、学校や市教委が個別に対応するなど、保護者への周知に一層努める。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	山谷 大有	担当係長	鍋木 知子	作成者	米田 幸司
-------	-------	------	-------	-----	-------

2 充実した人生を送るための生涯学習の推進

- 1 家庭教育推進事業
- 2 青少年健全育成事業
- 3 各種団体育成指導事業
- 4 成人式開催事業
- 5 文化芸術振興事業（音楽鑑賞会開催事業）
- 6 文化芸術振興事業（音楽教室開催事業）
- 7 文化芸術振興事業（学校文化施設開放事業）
- 8 文化芸術振興事業
（文化・スポーツ振興財団活動助成）
- 9 文化芸術振興事業（俳句教室開設事業）
- 10 男女共同参画推進事業
- 11 ディスカバー「滑川」ふれあい事業
- 12 姉妹都市交流事業
- 13 社会教育活動総合事業
- 14 郷土芸能活性化事業
- 15 心豊かなまちづくり推進事業
- 16 地区公民館活動推進事業
- 17 地区公民館整備事業
- 18 図書館管理事業
- 19 図書館運営事業
- 20 子ども図書館管理運営事業
- 21 本とのふれあい推進事業
- 22 市美術展開催事業
- 23 文化財保存調査事業
- 24 ネブタ流し継承事業
- 25 博物館管理事業

- 26 博物館運営事業
- 27 展覧会等開催事業
- 28 青志会館管理運営事業
- 29 働く婦人の家管理運営事業
- 30 青雲閣管理運営事業

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	家庭教育推進事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予 会計 01	一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	算 款 10	教育費
基本施策	3 青少年健全育成の推進	項 04	社会教育費
施策名	①家庭教育力の向上	目 01	社会教育総務費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
子どもをもつ親

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
家庭教育の大切さを伝え理解してもらい、子育ての悩み等を話し合うことで、自信をつけたり、家庭教育に積極的に参加してもらったりする。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
家庭教育の大切さを伝え、理解してもらうことを目的とした「子育て講座」を小学校に入学する児童の保護者を対象に開催する。また、学習参観日等に講師を派遣し、保護者を対象に「親を学びつたえる学習プログラム」を利用したグループワークを取り入れた「親学び講座」を小中学校で開催する。平成24年度から幼稚園・保育園等から希望する園で「親学び講座」を実施している。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
親学び・子育て講座 参加者数	人	目標	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600
		実績	781	697	587		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
子育て支援・親学び 講座開催数	回	計画		18	20	20	20	20
		実績		18	18	18		
		計画						
		実績						
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				165	172	159	225	230
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源			165	172	159	225	230

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	近年核家族化、児童虐待問題等で家庭教育の必要性は高まっており、行政が主体となり実施すべき事業である。
有効性	高い	新たな環境でストレスを感じる親や子供達も多く、情報交換は有意義である。
効率性	やや低い	親学び講座でもグループで対話する形式を取り入れ、活発な発言が見られた。

総合評価

評価基準	評価
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直しの検討 D:事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

今後の子育て講座や、親学び講座の参加者の増加や開催内容、方法を検討していく必要がある。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	各講座は、グループワーク、講座形式など、各校(所・園)の実情や希望に合わせて、工夫しながら開催している。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	荒田 雄一郎
-------	-------	------	--------	-----	--------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	青少年健全育成事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予算科目	会計 01 一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	款 10	教育費
基本施策	3 青少年健全育成の推進	項 04	社会教育費
施策名	②青少年健全育成の推進	目 01	社会教育総務費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
児童、生徒、青少年

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
滑川市の青少年が、犯罪に巻き込まれず安全に、健全に成長していくよう、地域で連携して見守っていく。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
少年補導件数	件/年	目標 実績	0	0	0		
根拠							
		目標 実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
少年補導センター、青少年育成滑川市民会議などの団体と連携し、挨拶運動や体験活動を行っていく中で、青少年の健全育成を図る。 少年補導センターは、犯罪や非行の抑止力として街頭の巡回補導を行う。

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
補導員活動日数(延べ)	回	計画 実績	150 124	150 130	150 148	150	150
		計画 実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			262	247	293	323	330
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源		262	247	293	323	330

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	青少年の健全育成は市にとって重要な課題であり、必要な事業である。
有効性	高い	青少年の健全育成は市にとって重要な課題であり、有効な事業である。
効率性	やや高い	最低限の費用で活動を行っており、費用対効果の面では問題はない。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

巡回補導の参加率を上げることが必要である。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	巡回補導の開催時期や内容を検討している。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	荒田 雄一郎
-------	-------	------	--------	-----	--------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	各種団体育成指導事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予 会計 01	一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	算 款 10	教育費
基本施策	3 青少年健全育成の推進	科 項 04	社会教育費
施策名	②青少年健全育成の推進	目 目 01	社会教育総務費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
滑川市連合婦人会・滑川市児童クラブ連合会

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
団体の積極的な活動を促すよう補助することで、地域コミュニティの醸成や新たな担い手の育成を促す。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
連合婦人会会員数	人	目標	100	100	100	100	100
		実績	101	101	101		
根拠							
児童クラブ連合会会員数	人	目標	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
		実績	1,652	1,652	1,632		
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
地域コミュニティの醸成や新たな担い手の育成のため、市内の社会教育団体に活動費を助成する。

活動指標(どの程度手段を実施したか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
助成した社会教育団体数	団体	計画	2	2	2	2	2
		実績	1	1	2		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			160	160	320	320	320
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源		160	160	320	320	320

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	やや高い	コミュニティの希薄化により、社会教育団体の役割は増しており、どちらも営利目的の団体ではないため、助成することは必要である。
有効性	やや高い	連合婦人会及び児童クラブ連合会の会員数は横ばいであるが、活動をサポートすることは有効であり、どちらも活発に活動している。
効率性	やや高い	直接各団体へ補助金を支給しており、効率性は高い。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当	B
B: 事業の進め方の改善の検討	
C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討	
D: 事業の統合・休廃止の検討	

事業の課題

連合婦人会では、新規加入者が少なく、会員の高齢化や次世代の担い手の不足が懸念される。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	会員の高齢化や次世代の担い手不足は、他団体や伝統行事分野などでも起こっており、解決策を検討している。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	荒田 雄一郎
-------	-------	------	--------	-----	--------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	成人式開催事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予 会計 01	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	算 款 10	教育費
基本施策	4 生涯学習の充実	目 項 04	社会教育費
施策名	②ふるさと教育の推進	目 目 01	社会教育総務費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
新成人

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
新成人一人一人を祝福し、成人となった自覚を促すとともに、滑川市への愛着を育む。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名		単位	R3	R4	R5	R6	R7
参加率	%	目標	80	80	80	80	80
		実績	81	77	80		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
新たに二十歳を迎える若人の前途を祝福するとともに、新二十歳の代表が実行委員となり、社会人としての自覚と誇りを促すために二十歳の式典を実施する。成人のしおりに滑川市の魅力を掲載する。

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
周知回数 (案内状含む)	回	計画		6	6	6	6	6
		実績		6	6	6		
		計画						
		実績						
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				809	745	549	688	659
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源			809	745	549	688	659

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	二十歳を祝い、社会人としての自覚を促すことは必要である。
有効性	やや高い	二十歳の式典として新しく位置づけ、時代に対応した事業として、コロナ禍でも実行委員会を立ち上げ努力している。
効率性	高い	内容については、二十歳の実行委員会で話し合い、必要最低限の経費で行われている。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	A

事業の課題

--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	荒田 雄一郎
-------	-------	------	--------	-----	--------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名		文化芸術振興事業（音楽鑑賞会開催事業）	担当部署		生涯学習・スポーツ課
施策体系	将来像	ひとが元気	予算科目	会計	01 一般会計
	政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり		款	10 教育費
	基本施策	6 文化・芸術の振興		項	04 社会教育費
	施策名	①文化芸術に触れる機会の充実		目	01 社会教育総務費
	根拠法令等				

事業の対象

誰・何に対して
市内音楽団体・全市民

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
芸術文化の振興を目的として全市的に活動を行っている音楽団体の支援を行う。 豊かな心の育成及び表現力、感受性の向上を目指し、親子向けの音楽鑑賞会を開催する。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
年1回開催される定期演奏会の開催を支援するため、補助金を交付する。 「光のコンサート」特別ゲスト等による親子を対象としたコンサートを実施する。 親子の音楽鑑賞会の来場者が増えるよう、チラシや広報、ホームページで周知するなど、PRを行う。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
入場者数	人	目標	200	200	200	200	200
		実績	178	150	200		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

活動指標(どの程度手段を実施したか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
補助金交付団体数	団体	計画	2	2	2	2	2
		実績	2	2	2		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			322	331	371	284	330
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他		1	1	1	1	
	一般財源		321	330	370	283	330

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	市の芸術・文化振興のため、音楽団体に助成を行うほか、幼い子供を対象とした音楽鑑賞会を開催することは必要である。
有効性	高い	市民の間では定着したイベントとなっており、有効である。
効率性	高い	助成金については最低限の額であり、効率性は高い。

総合評価

評価基準	評価
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直しの検討 D:事業の統合・休廃止の検討	A

事業の課題

--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	酒井 麻美
-------	-------	------	--------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業体系	事業名	文化芸術振興事業（音楽教室開催事業）	担当部署	生涯学習・スポーツ課
	将来像	ひとが元気	予算科目	一般会計
	政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	会 計	教育費
	基本施策	6 文化・芸術の振興	款	社会教育費
	施策名	①文化芸術に触れる機会の充実	項	社会教育総務費
根拠法令等				

事業の対象

誰・何に対して
市内小・中学生

事業の目的と達成度

意図（対象をどのようにしたいか）
専門家の指導を受けることで演奏技術を向上させたり、プロの演奏を生で聞くことで豊かな感性を育んだりする。

成果指標（どの程度意図が達成されたか）						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
音楽教室参加者数	人	目標	800	800	800	800
		実績	371	417	370	
根拠						
		目標				
		実績				
根拠						

事業の内容と活動量

手段（事業の内容・目的達成に向けた取組み）
各小中学校において講師を招き、音楽教室を開催する。小学校においては、児童を対象とした音楽鑑賞会や実技指導を実施する。中学校においては、吹奏楽部員を対象とした講習会を実施する。

活動指標（どの程度手段を実施したか）						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
音楽教室実施回数	回	計画	9	9	9	9
		実績	9	8	9	
		計画				
		実績				
コスト（千円）			R3	R4	R5	R6
事業決算額・計画額			175	165	270	270
財源内訳	国県支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源		175	165	270	270

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	音楽を通して子供の豊かな心を育むため、必要である。
有効性	高い	大会で優秀な成績を収める等、成果が上がっている。
効率性	高い	最低限の講師謝礼のみの予算で実施しており、効率性は高い。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	A

事業の課題

--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	
新年度の予算要求事項（改革・改善案）	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	荒田 雄一郎
-------	-------	------	--------	-----	--------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	文化芸術振興事業（学校文化施設開放事業）	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予 会計 01	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	算 款 10	教育費
基本施策	4 生涯学習の充実	科 項 04	社会教育費
施策名	①生涯学習活動の推進	目 目 01	社会教育総務費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
全市民

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
生涯学習活動を促進する。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
生涯学習センター利用者数	人	目標	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
		実績	1,939	1,855	2,345		
根拠							
地域交流センター利用者数	人	目標	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
		実績	2,175	1,800	2,356		
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
学校が使用していない夜間・休日の施設管理をシルバー人材センター委託し、生涯学習センター・地域交流センターの開放を行う。

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
生涯学習センター開 放日数		日	計画	359	359	359	359	359
			実績	359	359	359		
地域交流センター開 放日数		日	計画	359	359	359	359	359
			実績	359	359	359		
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				269	294	371	371	371
財 源 内 訳	国県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源			269	294	371	371	371

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	生涯学習の振興のため、施設の有効活用は市民のニーズに合っており、必要性が高い。
有効性	やや高い	無料で施設を利用できることから人気があり、利用者にとって有益である。
効率性	高い	事業費は開放作業の委託料のみであり、コストは最小限に抑えられている。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	A

事業の課題

--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	大井 萌莉
-------	-------	------	--------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	文化芸術振興事業（文化・スポーツ振興財団活動助成）	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予 算	会計 01 一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款	10 教育費
基本施策	6 文化・芸術の振興	項	04 社会教育費
施策名	①文化芸術に触れる機会の充実	目	01 社会教育総務費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して	
全市民	

事業の目的と達成度

意図（対象をどのようにしたいか）	
市民が文化芸術に親しむ機会が充実している。	

成果指標（どの程度意図が達成されたか）

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
公演等参加人数	人	目標	4,390	4,390	4,390	4,390	4,390
		実績	3,551	4,054	7,159		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段（事業の内容・目的達成に向けた取組み）	
滑川市文化・スポーツ振興財団が実施する自主・協賛事業に対し、助成を行う。各公演の周知や運営等、公演の開催にあたり、協力する。	

活動指標（どの程度手段を実施したか）

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
公演回数	回	計画	14	14	14	14	14
		実績	13	15	19		
		計画					
		実績					
コスト（千円）			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			8,467	9,065	8,032	10,000	10,000
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源		8,467	9,065	8,032	10,000	10,000

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	チケット収入だけでは公演の経費が賄えないことから必要である。
有効性	高い	各種、魅力的な事業を実施している。
効率性	高い	財団へ補助金という形で支出しており、効率的である。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	A

事業の課題

--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	
新年度の予算要求事項（改革・改善案）	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	酒井 麻美
-------	-------	------	--------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名		文化芸術振興事業（俳句教室開設事業）	担当部署		生涯学習・スポーツ課	
施策体系	将来像	ひとが元気	予算科目	会計	01	一般会計
	政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり		款	10	教育費
	基本施策	6 文化・芸術の振興		項	04	社会教育費
	施策名	①文化芸術に触れる機会の充実		目	01	社会教育総務費
根拠法令等						

事業の対象

誰・何に対して
小中学生及び全市民

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
俳句文芸の継承と振興を図り、「香り高い文化のまちづくり」を目指す。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)									
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7	
俳句教室参加者数		人	目標	30	30	30	30	30	
			実績	0	5	4			
根拠			0						
俳句ポスト投句数			句	目標	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500
				実績	7,376	6,448	5,891		
根拠			0						

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①俳句大会の開催(市制70周年記念大会) 俳句公募コンテストの実施 講演会の開催
②小中学生俳句教室の開催 俳句についてのお話 作った俳句の鑑賞
③俳句ポストの設置 毎月入選句を選び、「広報なめりかわ」に掲載 上半期・下半期の優秀句作者の表彰

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
俳句大会開催数	回	計画		1	1	1	1	1
		実績		0	1	1		
俳句教室開催数	回	計画		1	1	1	1	1
		実績		1	1	2		
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				69	73	976	88	88
財源内訳	国県支出金			0	0	0	0	0
	地方債			0	0	0	0	0
	その他			0	0	0	0	0
	一般財源			69	73	976	88	88

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	やや高い	伝統的な俳句文化の継承・振興のために必要である。
有効性	やや低い	事業や活動の内容については適切であるが、小中学生以上の若年層から中壮年層にかけての参加が少なく、参加者層に大きな偏りが見られる。またコロナ以降、俳句教室が低調である。
効率性	やや高い	必要最低限のコストで事業を行っている。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

投句された俳句を毎月広報に掲載していること、多くの小学生が俳句ポスト事業に参加していることは、県内でも独自色があり特筆すべき点として評価できるが、俳句教室の参加者数は年々減少傾向にあり、幅広い層に認知・参画してもらえるような取り組みが必要である。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	市内の団体等に積極的な参加を呼びかけるとともに、市外の俳句愛好家等への周知を目指し、SNS等も利用した広報手段を検討していく。令和4年度に俳句ポストの設置場所を見直し、QRコードを使ったWeb投句を始めたことで利便性が向上したが、より多くの活用を目指し周知を図っていく。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	事業内容自体は継続していくが、令和4年度より「文化芸術振興費」内で実施。(統合)

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	近藤 浩二	作成者	白井 友理
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	男女共同参画推進事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	会計 01	一般会計
政策	政策3 住み慣れた地域で生き生きと暮らせるまちづくり	款 10	教育費
基本施策	12 人権・多様性を尊重する社会の推進	項 04	社会教育費
施策名	②男女共同参画社会の実現	目 01	社会教育総務費
根拠法令等	男女共同参画基本法、滑川市男女共同参画計画 ～第3次ときめき かがやき ひかりのプラン～		

事業の対象

誰・何に対して
全市民

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
滑川市男女共同参画計画に基づき、「ともに認め合い、支え合う、ひかり輝く社会の実現」を総合目標とし、男女共同参画推進事業を実施する。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
家庭生活において男女平等になっていると感じる人の割合	%	目標	34	35	36	37	38
		実績	30	37	19		
根拠							
地域活動において男女平等になっていると感じる人の割合	%	目標	30	31	32	34	35
		実績	19	32	20		
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①男女共同参画に対する正しい理解と認識を深めるため、男女共同参画推進員による啓発活動を実施する。
②男女共同参画に関する意識啓発と計画の周知のため、男女共同参画公開講座を実施する。

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
推進活動取組回数	回	計画	3	3	3	3	3
		実績	3	3	3		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			609	609	680	779	780
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源		609	609	680	779	780

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	今後の日本社会が発展するために、男女共同参画社会の実現は必須である。
有効性	やや高い	男女ともに、各方面で男女の役割についての意識が変わりつつある。
効率性	やや高い	啓発活動は、各地区の連絡会へ委託しており効率性は高い。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

各種の取り組みは、現在、各地域の推進員連絡会への事業委託が中心だが、地域の方も多忙であることなどから取り組みも地域でムラが見られる。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	今後の連絡会の在り方や、活動の適当な実施主体について検討している。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	酒井 麻美
-------	-------	------	--------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	ディスカバー「滑川」ふれあい事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予 会計 01	一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	算 款 10	教育費
基本施策	3 青少年健全育成の推進	科 項 04	社会教育費
施策名	②青少年健全育成の推進	目 目 01	社会教育総務費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
全小中学生

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
地域と連携しながら、ふるさと滑川を普段とは異なった視点で見つめることにより、郷土を愛し、主体的に判断し行動する能力を身に付ける。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
ふるさと探検事業参加者数	人	目標	100	100	100	100	100
		実績	80	84	80		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①学校地域交流事業では、市内小中学校の児童会や生徒会が中心となり、地域清掃、募金活動、エコキャップ回収などのボランティア活動や、あいさつ運動、地域の方々とふれあう活動を通して、相手を思いやる心を育むことを目指す。
②小中学生とその保護者を対象に、滑川の自然・文化・歴史に関する体験活動を実施することで、滑川市を再発見してもらう。
③郷土偉人の業績を学ぶことができる行事を開催する。
④なめりかわ未来学校では、子供たちに探究的な学びの機会を提供することで、社会参画意識を育むことを目的とし実施する。

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
ふるさと探検事業開催日数	日	計画	4	4	4	4	4
		実績	4	4	4		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			669	723	468	542	776
財 国県支出金							
源 地方債							
内 其他							
訳 一般財源			669	723	468	542	776

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	ふるさと滑川を愛する心を涵養するために必要である。
有効性	やや高い	事業参加者には、ふるさと滑川を深く知ってもらうよい機会になっている。
効率性	高い	学校や各施設の協力のもと市が直接実施している。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当	B
B: 事業の進め方の改善の検討	
C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討	
D: 事業の統合・休廃止の検討	

事業の課題

各事業に対して、応募者が多く先着順で定員に達してしまい、参加できない方がいる。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	事業の実施時期や内容を見直し、可能な限り参加してもらえる方法を検討している。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	荒田 雄一郎
-------	-------	------	--------	-----	--------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	姉妹都市交流事業	担当部署	生涯学習課
将来像	ひとが元気	会計	01 一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款	02 総務費
基本施策	4 生涯学習の充実	項	01 総務管理費
施策名	②ふるさと教育の推進	目	01 一般管理費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
市内の児童

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
姉妹都市豊頃町の少年親善使節団を受け入れ、互いの郷土のよさを紹介し合い、友情と相互理解を図ることを通して、滑川市への愛着を深める。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
参加者数	人	目標	—	—	14	
		実績			15	
根拠						
		目標				
		実績				
根拠						

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
姉妹都市交流事業では、滑川市内での活動と一緒に、行くことで友情を育む。また、互いの郷土のよさや違いを伝え合うことを通して相互理解を図るとともに、郷土のよさを見つめ愛着を深める。

活動指標(どの程度手段を実施したか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
実施回数	回	計画	—	—	1	
		実績	—	—	1	
		計画				
		実績				
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6
事業決算額・計画額					198	
財源内訳	国県支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源				198	

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	姉妹都市との交流は重要であり、風土の違う土地で育った児童を受け入れることによって郷土の違いを再発見できる機会は貴重であり、子供たちの将来の財産となる。
有効性	やや高い	豊頃町と滑川市の互いの良さを学ぶことにより、滑川の良さを再発見するとともに、認め合う心等も学び、互いの絆が深まる。
効率性	やや高い	豊頃町の皆さんの協力により成り立っている。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

令和5年度は、豊頃町の児童を滑川市に受け入れる年であった。新型コロナウイルス感染症の影響により中断したホームステイは、双方の負担も多く実施をしていない。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	令和7年度の実施については、令和6年度の豊頃町へ訪問の成果を踏まえ、担当者と綿密に調整する必要がある。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	荒田 雄一郎
-------	-------	------	--------	-----	--------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	社会教育活動総合事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予算科目	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款	教育費
基本施策	4 生涯学習の充実	項	社会教育費
施策名	①生涯学習活動の推進	目	公民館費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
全市民

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
いつもで、どこでも、誰もが、自ら気軽に学び続け、学んだことを生かして地域で活躍するなど、生涯学習を通じた生きがいや喜びを育む。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①各分野で活躍中の郷土ゆかりの講師を招き、市民が最新情報に触れることができ、郷土愛を育むことができる講座を開催する。
②生涯学習センターを中核として、60歳以上の方々がふれあいを通し、自らの生活の中に生きがいを見いだせる教養講座やレクリエーション教室、野外活動教室等を開催する。また、一般市民向けに書道、油絵、陶芸、詩吟の実技講座を開催する。
③市民向けに生涯学習に関する便りを発行し、全戸配布することで、生涯学習活動の紹介等の広報活動を行う。
④情報を集め、新しい講師の人材発掘に努める。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
生涯学習講座登録者数	人	目標	850	850	850	850	850
		実績	638	667	624		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
福寿大学開催日数	日	計画	14	14	20	20	20
		実績	14	17	20		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			1,107	1,070	1,139	1,251	1,437
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源		1,107	1,070	1,139	1,251	1,437

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	どの事業も生涯学習の充実のために必要である。
有効性	やや高い	各世代に対応した各種講座や講演会を定期的に開催したり、情報紙を定期的に発行したりしており、有効である。
効率性	高い	最低限の講師謝礼と印刷費等の予算であり、効率性は高い。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当	B
B: 事業の進め方の改善の検討	
C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討	
D: 事業の統合・休廃止の検討	

事業の課題

事業の形骸化、マンネリ化防止、参加者増加の工夫をする必要がある。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	受講者のニーズに合わせ魅力的な内容になるよう努めると共に、より快適に学べる会場を探している。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	酒井 麻美
-------	-------	------	--------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	郷土芸能活性化事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	会計 01	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款 10	教育費
基本施策	6 文化・芸術の振興	項 04	社会教育費
施策名	②文化財と伝統芸能の保護と活用	目 02	公民館費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
全市民、保存団体及び後継者(小中学生)

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
地域に伝承される郷土芸能育成保存の姿勢から、関係団体と連携を図り、行政が一体となり、保存伝承の方策を講じる。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
舞踊の伝習会	回	目標	30	30	30	30	30
		実績	30	30	30		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①保存継承団体の運営支援、補助金を交付する。 ②後継者育成のために、小中学生対象の伝習活動を実施する。 ③発表会等の実施支援を行う。

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
伝習訪問校	校	計画		9	9	9	9	9
		実績		9	9	9		
		計画						
		実績						
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				644	680	688	732	732
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源			644	680	688	732	732

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	どの事業も伝統芸能を継承し活性化していくためには必要である。
有効性	やや高い	直接小中学生に踊りを伝承しており、ほぼ全ての方が踊れることから有効である。
効率性	高い	最低限の講師謝礼と消耗品等の予算であり、効率性は高い。

総合評価

評価基準	評価
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直しの検討 D:事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

踊りだけでなく、唄、三味線も伝承されるよう支援が必要である。
講師の高齢化のため、講師の後継者の確保が必要である。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	授業で踊りの伝承を行っており、音楽で三味線の体験学習に取り組む学校もある。 講師の方から後継者の候補を伺い、現状の周知と依頼をし人材の確保に努める。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	荒田 雄一郎
-------	-------	------	--------	-----	--------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名		心豊かなまちづくり推進事業	担当部署		生涯学習・スポーツ課
施策体系	将来像	ひとが元気	予算科目	会計	01 一般会計
	政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり		款	10 教育費
	基本施策	4 生涯学習の充実		項	04 社会教育費
	施策名	②ふるさと教育の推進		目	02 公民館費
根拠法令等					

事業の対象

誰・何に対して
全市民

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
①世代間の交流を促進し、地域の絆や教育力の向上を図る。 ②ふるさと滑川の自然・歴史・文化に対する理解を深め、ふるさとへの誇りと愛着を育む。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
「ふるさと講座」参加者数	人	目標	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
		実績	1,255	1,591	2,121		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①地区公民館において、地域の人材を活かして多世代のふれあい活動及び各種教養教室を実施する。 ②各地区公民館において、様々な年代が一緒に参加できる、地元の自然、文化、歴史を学ぶ「ふるさと講座」を実施する。

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
ふるさと講座実施回数	回	計画		18	18	18	18	18
		実績		22	25	23		
		計画						
		実績						
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				1,336	1,350	1,350	1,350	1,350
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源			1,336	1,350	1,350	1,350	1,350

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	ふるさと滑川について、身近な地区公民館を通して学ぶ機会であり必要である。
有効性	高い	地元の歴史や文化に触れ、ふるさと滑川の良さを再発見するよい機会である。
効率性	高い	各地区公民館へ事業を委託しており、効率的である。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

コロナによる参加人数の減少が尾を引いている。コロナ禍で得たアイディアを生かしつつ、より良い活動を実施していく必要がある。
--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	各地区公民館にて工夫して行事の再開に取り組んでいる。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	酒井 麻美
-------	-------	------	--------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	地区公民館活動推進事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	会計 01	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款 10	教育費
基本施策	4 生涯学習の充実	項 04	社会教育費
施策名	①生涯学習活動の推進	目 02	公民館費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して	
全市民	

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)	
地区公民館を中心とした地域コミュニティの形成を推進するため、多世代のふれあい活動、各種講座等の地域における公民館活動を支援する。	

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
地区公民館利用者数	人	目標	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000
		実績	51,636	47,205	51,377		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)	
①地区公民館において、公民館まつり、住民運動会、各種レクリエーション、講座等の実施	
②地区公民館の管理にかかる費用の支出	
③地区公民館実施事業参加者及び公民館職員に対する保険の加入	

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
コミュニティづくり推進事業取組件数	回	計画	45	45	45	45	45
		実績	27	40	40		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			27,873	29,087	31,435	36,061	32,000
財源内訳							
国県支出金							
地方債							
その他							
一般財源			27,873	29,087	31,435	36,061	32,000

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	地区公民館を中心としたコミュニティの形成は近年重視されており、必要である。
有効性	高い	市民のニーズに応じた内容になるように心がけており、有効である。
効率性	高い	コミュニティづくり推進事業は、地区公民館へ委託しており、効率的である。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

新型コロナウイルス感染症の影響により、地区公民館における様々な行事に影響が出ている。新たな試みとして、DXを推進した公民館活動を、今後調査研究していく。

今後の方向性

成果の方向性	拡大	投入コスト	増額
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	タブレット端末の配布等を検討している。 また、公民館職員を対象としたデジタル対応の研修会を実施する予定である。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	デジタル対応するための機材が、各地区公民館にはないため、デジタル技術に対応できるよう機材を購入する。

その他

--	--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	酒井 麻美
-------	-------	------	--------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名		地区公民館整備事業	担当部署			生涯学習・スポーツ課
施策体系	将来像	ひとが元気	予算科目	会計	01	一般会計
	政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり		款	10	教育費
	基本施策	4 生涯学習の充実		項	04	社会教育費
	施策名	①生涯学習活動の推進		目	02	公民館費
	根拠法令等					

事業の対象

誰・何に対して
各地区公民館利用者

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
地区公民館を快適に利用して頂けるよう、整備・修繕を行う。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
			目標					
			実績					
根拠								
			目標					
			実績					
根拠								

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
公民館より要望を聞きとり、順次必要な修繕を行う。

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
整備実施件数	件	計画		40	10	20		
		実績		26	18	15		
		計画						
		実績						
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				12,528	400	4,990	7,088	1,268
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源			12,528	400	4,990	7,088	1,268

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	地区公民館を安全・正常に利用していただくために必要である。
有効性	高い	施設が老朽化している中で、施設を維持管理するためには、非常に有効である。
効率性	低い	あまりにも予算が少ないことから、すぐには対応できない事業が多く、状態が悪化しきった後に対応することが多いため、余計なコストがかかると同時に、市民からの多くの苦情が寄せられている。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

各地区公民館では、施設だけでなく設備も老朽化が進んでおり、限られた最小限の予算の中で対応している。予算の都合により、各地区からの改善要望に応えられない部分も多くあり、基本的には壊れたものを直す対応となる。
--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	増額
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	修繕料として流用できる予算を探している。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	ほとんどの公民館では施設や設備が古く、大幅に対応年数を超過しているものが多数存在していることから、定期的な更新や、壊れた際に速やかに対応できるような修繕予算を確保しておきたい。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	酒井 麻美
-------	-------	------	--------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	図書館管理事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	会計	01 一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款	10 教育費
基本施策	4 生涯学習の充実	項	04 社会教育費
施策名	①生涯学習活動の推進	目	03 図書館費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して	
全市民	

事業の目的と達成度

意図（対象をどのようにしたいか）	
利用者が安心、図書館を積極的に快適に利用できるよう適切な施設管理を行う。	

成果指標(どの程度意図が達成されたか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
来館者数	人	目標	120,000	130,000	150,000	150,000
		実績	102,548	100,064	100,641	
根拠						
		目標				
		実績				
根拠						

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)	
屋上や外壁など適切に修繕を行い、利用者が安心して利用できるよう図る。 館内をこまめに巡回し、蔵書や備品等の整理・整頓に努めるとともに、来館者全員が快適に利用できるよう、利用マナーを促進する。 清掃、消毒、換気を徹底し、感染症予防に努める。	

活動指標(どの程度手段を実施したか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
開館日数	日	計画	297	297	297	297
		実績	294	290	293	
		計画				
		実績				
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6
事業決算額・計画額			13,484	14,120	14,546	26,066
財源内訳	国県支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源		13,484	14,120	14,546	26,066

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	やや高い	生涯学習施設として、市民が安心して利用できるよう管理・整備を継続することが必要である。
有効性	やや高い	維持管理について、必要最小限の経費でできるよう努めている。
効率性	やや高い	省エネルギー化に努めているところである（照明のLED化について検討）

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

館内設備が老朽化し、順次修繕が必要。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	照明のLED改修工事実施予定
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	照明基盤の老朽化による不点箇所補修・LED化 一部排煙窓開閉不可箇所の補修 剥落防止のため、外壁の補修

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	澤口 幸二	作成者	大嶋 真理
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	図書館運営事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予 会計 01	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	算 款 10	教育費
基本施策	4 生涯学習の充実	科 項 04	社会教育費
施策名	①生涯学習活動の推進	目 目 03	図書館費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
全市民

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
より利用しやすく親しみやすい図書館を目指し、利用者の増加を図るとともに、市民の生涯学習を推進する

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
市民1人あたりの貸出冊数	冊/人	目標	5.0	6	7	8	8
		実績	5	5	5		
根拠 第5次滑川市総合計画(R7年度:10冊)							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①来館者数の増加 ・喫茶コーナーのPR ・ミニコンサートの開催
②利用者の利便性向上 ・利用者層を考慮し、ニーズに合わせた資料の充実 特集コーナーを設置し、利用者へのPRを行う ・リクエストの積極的対応(資料購入、相互貸借) ・レファレンス能力を向上させ、市民の「知りたい」に答えられるようにする。

活動指標(どの程度手段を実施したか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
リクエストサービス	冊	計画	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
		実績	752	545	627		
レファレンスサービス	件	計画	50	50	50	50	50
		実績	92	141	150		
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			15,602	15,101	17,669	18,518	15,602
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他		680	710	748	740	680
	一般財源		14,922	14,391	16,921	17,778	14,922

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	やや高い	法的位置づけがされており、生涯学習の推進、地域の課題解決、読書文化の向上のために一定の役割がある。
有効性	やや高い	貸出冊数など、成果目標達成のために、利用者の要望に応じた細やかなサービスが必要である。
効率性	やや高い	省資源化など、コスト削減に努めている。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当	B
B: 事業の進め方の改善の検討	
C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討	
D: 事業の統合・休廃止の検討	

事業の課題

市民1人あたりの貸出冊数、来館者数(特に若年層)などが伸び悩んでいる。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	インターンシップの積極的な受け入れや学生の作品展示、青少年向け図書の購入を押し進め、時節に応じた特集コーナーを設けるなど、利用者増に向けて取り組んでいる。 館内レイアウトを随時見直し、利用しやすい空間の提供に努めている。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	・電子図書館サービス導入 ・新聞データベース導入 ・国立国会図書館との連携

その他

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	澤口 幸二	作成者	大嶋 真理
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	子ども図書館管理運営事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	会計	01 一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款	10 教育費
基本施策	4 生涯学習の充実	項	04 社会教育費
施策名	①生涯学習活動の推進	目	03 図書館費
根拠法令等	滑川市立図書館条例、滑川市立図書館条例施行規則		

事業の対象

誰・何に対して	全市民
---------	-----

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)	より子どもたち・保護者に親しまれる子ども図書館を目指し、利便性を向上させ利用者の増加を図る。
------------------	--

成果指標(どの程度意図が達成されたか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
来館者数	人	目標	30,000	30,000	30,000	30,000
		実績	31,394	29,920	31,516	
根拠						
授業に必要な図書の利用冊数	冊	目標	600	600	600	600
		実績	849	598	707	
根拠						

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)	子ども図書館は、すべての子どもに読書の喜びと大切さを伝える場として、より多くの子どもたち・保護者に親しまれ、利用していただくよう、積極的にPRLし、利用者の増加を図った。
-----------------------	---

活動指標(どの程度手段を実施したか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
出張おはなし会・出前講座	回	計画	10	10	10	10
		実績	18	15	20	
蔵書数	冊	計画	36,000	36,000	36,000	36,000
		実績	37,075	38,171	39,505	
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6
事業決算額・計画額			7,346	7,693	8,667	8,439
財源内訳						
国県支出金						
地方債						
その他				250	150	
一般財源			7,346	7,443	8,517	8,439

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	図書館は社会教育機関という位置づけがされており、市民の生涯学習や情報収集の場として不可欠である。
有効性	高い	図書館資料を通じた親子のふれあいの場、子育て支援施設として役割を果たすこととなり有効である。
効率性	高い	必要最低限のコストでの運営に努めている。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	A

事業の課題

--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他	
-----	--

評価者					
評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	妻木 朋子	作成者	斉藤 めぐみ

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	本とのふれあい推進事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予 会計 01	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	算 款 10	教育費
基本施策	4 生涯学習の充実	科 項 04	社会教育費
施策名	①生涯学習活動の推進	目 目 03	図書館費
根拠法令等	滑川市立図書館条例、滑川市立図書館条例施行規則		

事業の対象

誰・何に対して
市内の子どもたち(主に乳幼児～中学生)とその保護者

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
子どもと親が集い交流する場として、にこにこたいむ(ふれあいあそび)、子育て支援講座、おはなし会、ワークショップ等、本を通じた子育て支援事業を実施し、出産・育児をしやすい環境を整える。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
○子育て支援 ・子育て支援講座(年5～6回) ・子育て相談 子ども図書館職員(保育士)が対応
○イベント開催 ・おはなし会(週1～2回)(職員・ボランティア・おはなし会グループ) 絵本・紙芝居の読み聞かせ ・子ども映画会(月1回) DVDの上映(職員・ボランティア) ・おたのしみ会(年4回程度) 人形劇・ミュージカル等 ・工作コーナー(毎週土日) ・読書週間イベント(年2回) ・ワークショップ ・作品展示 市内保育園(所)・幼稚園児、中高生の作品を展示 ・ブックスタート事業

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
子育て支援講座・おはなし会等イベント参加者数	人	目標	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
		実績	6,081	6,868	8,478		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
子育て支援講座開催回数	回	計画	6	6	6	6	6
		実績	5	6	10		
各種イベント開催数(おはなし会・おたのしみ会・ワークショップ)	回	計画	230	230	230	230	230
		実績	241	251	257		
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			1,068	640	712	641	650
財 源 内 訳	国県支出金						
	地方債						
	その他		530	30	43		30
	一般財源		538	610	669	641	620

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	子育て支援を行う施設の柱として本を通じた子育て支援事業を実施する事は重要である。
有効性	高い	子供たちが本と親しむ様々なイベントを企画し実施している。
効率性	高い	必要最低限のコストでの運営に努めている。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

図書館資料を通じた様々なイベントを企画し、より利用者にあった活動内容となるよう努める。
また、日頃の図書館サービス、子育て支援サービスの向上に努める。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	従来のイベントに加え、市制施行70周年にちなんだイベントの実施や、図書館資料に連動した体験型のイベントの実施をとおし、絵本をはじめとした図書館資料の持つ魅力を伝え、図書館サービスの向上に努めている。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	妻木 朋子	作成者	斉藤 めぐみ
-------	-------	------	-------	-----	--------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	市美術展開催事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	会計	01 一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款	10 教育費
基本施策	6 文化・芸術の振興	項	04 社会教育費
施策名	①文化芸術に触れる機会の充実	目	01 社会教育総務費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して	
全市民	

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)	
美術を通じて市民の情操を豊かに育てるとともに、優秀作家を育成し、本市の芸術・文化の向上を図る。	

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
入場者数	人	目標	800	800	800	800	800
		実績	662	700	680		
根拠							
出品者数	人	目標	150	150	150	150	150
		実績	141	120	115		
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)	
●高校生以上の全市民、在勤者、在学者、出身者等を対象とした、絵画、彫刻・工芸、書、写真の4部門にわたる公募展を開催する。 ●市民等の創作作品を展覧することによって、「香り高い文化のまち」を目指し、芸術・文化の振興に努める。 ●富山県を代表する作家に審査員を委嘱し、審査会・講評会等を通じて優秀作家の育成を図る。	

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
広報活動回数	回	計画	5	5	5	5	5
		実績	5	5	5		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			549	542	544	600	600
財源内訳							
国県支出金							
地方債							
その他							
一般財源			549	542	544	600	600

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	やや高い	「文化のまちづくり」を目指す本市にとって、市民芸術の創作発表、鑑賞の場を市が主体となって継続的に提供する必要性はやや高い。
有効性	やや高い	本市最大かつ最長の歴史を誇る公募型市民芸術祭として、毎年出品する者が多く、新規出品者も一定数見られる。また一定の入場者数を確保できていることもふまえると、事業の有効性はやや高いと思われる。
効率性	やや高い	出品資格や出品規格の見直しなどを通して効率的な運営ができていているものと思われる。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当	B
B: 事業の進め方の改善の検討	
C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討	
D: 事業の統合・休廃止の検討	

事業の課題

入場者数及び出品者数は過去10年以上にわたり横ばいからやや減少傾向が続く。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	出品者数の増加を図るため、出品資格及び出品規格の見直し等を行っている。また入場者の増加に向けてSNSを活用した広報活動を行っている。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--	--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	近藤 浩二	作成者	盛田 拳生
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	文化財保存調査事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予算	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	会計	01
基本施策	6 文化・芸術の振興	款	10
施策名	②文化財と伝統芸能の保護と活用	項	04
根拠法令等	文化財保護法、滑川市文化財保護条例、同施行規則、滑川市文化財保護調査委員会設置規則	目	01
			社会教育総務費

事業の対象

誰・何に対して
全市民

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
市民共有の財産である文化財を永く保存、継承していくとともに、新たな文化財を掘り起こし、市民に周知し積極的に活用していく。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①指定文化財他への指定等 市文化財保護調査委員会・同調査審議会の開催
②市有文化財の保存・管理 史跡・天然記念物
③市民への文化財の啓発及び活用
④開発に伴う埋蔵文化財の調査
⑤文化財の掘り起こし 古建築調査ほか
⑥立山黒部ジオパークの周知

成果指標(どの程度意図が達成されたか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
指定・登録等文化財 件数	件	目標	53	53	53	53	53	53
		実績	52	52	52			
根拠								
		目標						
		実績						
根拠								

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
市文化財保護調査委員会の開催	回	計画		2	2	2	2	2
		実績		2	2	2		
市文化財調査審議会の開催	回	計画		1	1	1	1	1
		実績		1	1	1		
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				2,734	769	884	1,230	1,230
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源			2,734	769	884	1,230	1,230

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	市民の共有財産である文化財を恒久的に残していくため、市が主体となって保存・継承に関わり、活用に向けた事業を行う必要がある。
有効性	高い	文化財の保存・調査・活用事業は、本市の魅力創出に資すると共に市民の郷土愛を育むことができる。
効率性	やや高い	指定文化財の保存事業を中心としながら限られた予算内で優先順位を付けて未指定文化財の調査事業を実施している。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当	B
B: 事業の進め方の改善の検討	
C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討	
D: 事業の統合・休廃止の検討	

事業の課題

生活様式や自然環境の変化により急速に失われゆく未指定文化財が多く見られる中、現在の予算規模や人員配置では十分な保存・調査事業が行えていない。

今後の方向性

成果の方向性	拡大	投入コスト	増額
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	緊急性の高い文化財から順に保存・調査事業を進めていく方針で、継続事業の古建築調査に加えて令和6年度から埋蔵文化財分布調査を実施予定。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	埋蔵文化財分布調査事業については、国庫補助を活用して5か年計画で実施予定。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	近藤 浩二	作成者	盛田 拳生
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	ネブタ流し継承事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予算	会計 01 一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款	10 教育費
基本施策	6 文化・芸術の振興	項	04 社会教育費
施策名	②文化財と伝統芸能の保護と活用	目	01 社会教育総務費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して	全市民、ネブタ流し保存会及び参加団体
---------	--------------------

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)	国指定重要無形民俗文化財の保存継承のために、市民と行政が一体となって方策を講じ、推進していく。
------------------	---

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
ネブタ流し参加基数	基	目標	12	12	12	12	12
		実績	12	10	10		
根拠							
寺家小学校児童参加者数	人	目標	40	40	40	40	40
		実績	56	65	80		
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)	①保存継承団体の組織強化 主体的活動の運営支援と補助金の交付 ネブタ流し参加団体への新規参加促進 ②担い手育成・普及活動 寺家小学校での製作伝習活動 ③団体間の交流 研修会等の開催 ④ネブタ流しの材料の確保 ワラの確保
-----------------------	---

活動指標(どの程度手段を実施したか)							
指標名		単位	R3	R4	R5	R6	R7
ネブタ流し 広報活動回数	回	計画	6	6	6	6	6
		実績	5	5	7		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			283	280	278	290	290
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源		283	280	278	290	290

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	国指定重要無形民俗文化財として存続するため、大松明作成等の活動を行っている保存会等の実施団体への補助、ワラの確保等といった協力が強く求められている。
有効性	高い	滑川を代表する行事である「滑川のネブタ流し」を継承していくことは、市民の郷土愛の醸成につながり、「ふるさと教育の推進」を掲げる本市の施策にも合致する。
効率性	やや高い	保存会結成当時と比べ、参加団体数・基数ともに増加している。保存会の協力も得て、近年は安定した参加が見られているため、効率性はやや高いといえる。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

国指定重要無形民俗文化財として、継承していく必要がある。本市を代表する民俗行事であるが、参加団体によっては高齢化等によって参加人員の確保が難しくなっている。
--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	滑川のネブタ流し保存会事務局で行事全般の取りまとめ、ワラ材の確保を行い、寺家小学校児童への伝承事業の支援等を行っている。継続的な開催のために、人員確保等が困難になりつつある団体への具体的な支援策を早急に検討していく。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	近藤 浩二	作成者	魚瀬 健一郎
-------	-------	------	-------	-----	--------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	博物館管理事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予算科目	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款	教育費
基本施策	6 文化・芸術の振興	項	社会教育費
施策名	①文化芸術に触れる機会の充実	目	博物館費
根拠法令等	博物館法、滑川市立博物館条例、同施行規則		

事業の対象

誰・何に対して
市民

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
市民が安全かつ快適に博物館施設を利用できるようにする。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①施設の維持 電気・水道・燃料等 設備の保守点検等
②不具合箇所の修繕

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
博物館利用者数	人	目標	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
		実績	12,119	12,384	16,195		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
開館日数	日	計画		305	302	307	305	305
		実績		304	303	308		
		計画						
		実績						
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				10,790	12,197	14,536	10,575	10,575
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源			10,790	12,197	14,536	10,575	10,575

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	本市の芸術文化活動振興の拠点となる施設であり、必要不可欠である。
有効性	やや高い	現状、設備維持に必要な最低限の修繕しか行っていないが、不特定多数の来場がある施設のため、整備・修繕は不可欠である。
効率性	やや高い	可能な限り業務委託を行い効率化を図っている。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当	B
B: 事業の進め方の改善の検討	
C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討	
D: 事業の統合・休廃止の検討	

事業の課題

建物の築年数が約30年で老朽化が進んでおり、建物内設備に要改修・修繕箇所が多い。エレベータ設備については部品が供給停止になっているなど、故障時に大きな影響が懸念される。他施設に比べ整備が進んでいない箇所も見受けられる。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	限られた予算の中、利用者の安全等に係わる部分を優先して修繕を行う。設備が全体的に古く、設備取替となるなど修繕費用が高くなる場合もあるため、故障する前の部品交換等も検討し該当箇所の洗い出しを行うとともに、必要な予算措置を行う。また、他の類似施設の取組状況等を参考にする。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	近藤 浩二	作成者	魚瀬健一郎
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	博物館運営事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予 会計 01	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	算 款 10	教育費
基本施策	6 文化・芸術の振興	項 04	社会教育費
施策名	①文化芸術に触れる機会の充実	目 04	博物館費
根拠法令等	博物館法、滑川市立博物館条例		

事業の対象

誰・何に対して
全市民

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
美術・芸術団体等の成果を発表する機会の提供及び博物館の企画展以外の事業(教育普及・広報活動・調査研究等)を行う。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①常設展の運営 ②各種共催展等の開催 ③教育普及活動 出前講座(小学校等)、出講等講師派遣(一般) ④広報活動 ⑤資料・作品の受け入れ ⑥博物館カフェの運営 ⑦夕焼けコンサートの開催 ⑧博物館友の会活動

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
常設展・共催展入場者数	人	目標	7,000	7,000	7,000	7,500	7,500
		実績	7,396	6,795	6,808		
根拠							
教育普及活動参加人数	人	目標	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
		実績	1,628	1,798	2,563		
根拠							

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
美術協会・各連盟展の開催数	回	計画		4	4	4	4	4
		実績		4	5	5		
出前講座・出講等講師派遣回数	回	計画		19	19	19	19	19
		実績		26	28	26		
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				1,990	2,102	2,677	2,658	2,661
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他			334	300	512	300	300
	一般財源			1,656	1,802	2,165	2,358	2,361

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	芸術文化の成果発表、郷土文化や歴史の調査研究活動、教育普及活動についても市が継続的にを行い、積極的に広報活動等を通じて発信していくことの価値や必要性は非常に高い。
有効性	やや高い	小学校、社会教育施設、町内会をはじめとした各種団体へ、地域の歴史・文化や魅力について伝える活動を行っている。同種の活動を行っている類似施設は市内になく、有効性は高い。
効率性	やや高い	限られた人員の中で運営しているが、県内の類似施設・同規模館と比較しても費用対効果は決して低くない。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

関係団体を構成する人員の高齢化は大きな課題であり、将来的な運営の方針を少しずつ考えていく時期に来ている。常設展示室の展示内容の固定化は魅力を低下させる一因である。事業数に対して人員が少ないことから、事業の新規展開が難しい。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	関係団体の高齢化は見られるものの、新たな会員の加入も見られる。常設展示室に簡易ケースを設置し、新たな展示コーナーを運営(年2回展示替え)するなど、少しでも常設展示に動きをつけようと試みている。新規事業の展開は難しい面もあるが、既存事業の充実を図っていく。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	近藤 浩二	作成者	近藤 浩二
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名		展覧会等開催事業	担当部署		生涯学習・スポーツ課
施策体系	将来像	ひとが元気	予算科目	会計	01 一般会計
	政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり		款	10 教育費
	基本施策	6 文化・芸術の振興		項	04 社会教育費
	施策名	①文化芸術に触れる機会の充実		目	04 博物館費
根拠法令等					

事業の対象

誰・何に対して
全市民

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
郷土の歴史や芸術・文化活動に関する興味・関心と理解を深めるため、郷土資料や優れた美術作品等に触れる機会を広く市民に提供することで、博物館活動に関心と理解を持っていただく。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
学芸員の専門性や調査成果、市民ニーズ等を反映した企画展の開催。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
企画展入場者数	人	目標	5,200	5,200	5,200	5,200	5,200
		実績	2,433	3,091	6,144		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
企画展開催数	回	計画		4	4	4	4	4
		実績		5	6	7		
		計画						
		実績						
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				2,445	2,695	4,254	2,703	2,703
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源			2,445	2,695	4,254	2,703	2,703

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	地域の歴史や文化、優れた芸術作品等の展覧会を時宜を捉えながら開催していくことは、「文化のまちづくり」に資するものと考え。
有効性	やや高い	入場者数だけを指標にすると必ずしも有効性が高いと言えないかもしれないが、来場者の満足度は高い。また、展示成果がその後の教育普及活動等に資することも多く、相対的に有効性はやや高いと言える。
効率性	やや高い	県内の類似施設・同規模館と比べても、事業費や企画展開催数等から効率性は低くない。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

調査・準備期間を確保するために、中期的な事業計画を立案しているが、人的な制約から十分に組み立てられているとはいえない状況にある。即時性(入場者数)と将来性(成果の活用)のバランスを図っていく必要がある。そのためには、市民ニーズを掴むとともに、広報手段の工夫を重ね、併せて人材育成も必要である。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	急ぎよ、中期計画の見直しが必要となってきたが、人員配置等を勘案しながら柔軟に対応していきたい。令和5年度については特別展に多くの来場者があったが、今後も足を運びたいような企画を立案していきたい。またSNSによる情報発信も積極的に行っていきたい。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	近藤 浩二	作成者	近藤 浩二
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	青志会館管理運営事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	会計	01 一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	款	10 教育費
基本施策	3 青少年健全育成の推進	項	04 社会教育費
施策名	①家庭教育力の向上	目	05 社会教育施設費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して	
全市民	

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)	
青志会館は、市民が仕事の後や余暇を利用して趣味や娯楽を楽しんだり、必要な知識や技術を学ぶための施設であり、また学童保育の実施場所となっている。たくさんの方に利用していただけるよう施設の整備や活動の支援を行う。	

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
利用者数	人	目標	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
		実績	9,087	10,616	10,552		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)	
従来からある各種教室やサークルの運営を維持し、新規の教室・サークルの募集を随時行っていく。気軽に施設を利用していただけるよう、周知を行う。	

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
教養教室・サークル開講数	教室	計画	6	6	6	6	6
		実績	6	6	3		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			2,106	2,137	2,798	2,697	2,430
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源		2,106	2,137	2,798	2,697	2,430

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	やや高い	仕事の後や余暇を利用して趣味や娯楽を楽しんだり、必要な知識や技術を学んだりすることができる施設のため必要である。
有効性	やや高い	館内は、会議室、和室、調理室、多目的ホールがあり幅広い活動ができる。
効率性	高い	学童保育が実施されており、地域の社会教育施設として、生涯にわたる利用が期待できる。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

子供からお年寄りまで幅広い年齢層に利用される施設であることから、施設の安全面について点検、維持管理に努める必要がある。また、雨漏りについて、何らかの対応が必要である。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	雨漏りの原因究明及び施設の事故防止対策に努める。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--	--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	大井 萌莉
-------	-------	------	--------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	働く婦人の家管理運営事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予 算	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	会 計	01
基本施策	4 生涯学習の充実	款	10
施策名	①生涯学習活動の推進	項	04
根拠法令等		目	05
			社会教育施設費

事業の対象

誰・何に対して
働く女性及び勤労者家庭等の主婦

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
必要な知識・技能の取得や教養・憩い・レクリエーション等について場と機会を提供し、生活の向上や福祉の増進を図る。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
ゆったりヨガ、コーラス、手芸等の各種講座を開催する。 新しい講師の発掘を行う。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
働く婦人の家利用者数	人	目標	13,000	13,000	13,000	13,000
		実績	9,946	9,888	9,563	
根拠						
		目標				
		実績				
根拠						

活動指標(どの程度手段を実施したか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
教養教室開講数	教室	計画	20	20	20	20
		実績	18	20	18	
		計画				
		実績				
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6
事業決算額・計画額			4,880	4,286	5,252	5,419
財源内訳	国県支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源		4,880	4,286	5,252	5,419

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	毎年様々な教室を開催しており、依然として利用者から求められている施設である。
有効性	やや高い	受講者のニーズに応じた講座内容となるように心がけており、有効である。
効率性	高い	多くの講座を、格安の講師謝礼で実施しており、経費の削減に努めている。

総合評価

評価基準	評価
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直しの検討 D:事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

学び続けたい意欲のある方の育成・自主グループの活動も熱心に行われているが、受講生の固定化が見られるものもあり、新規の受講者を取り込む工夫が必要である。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	年度当初の教養教室募集の際に、以前は電話や直接申し込みが必要であったが、電子申請をできるようにするなど、申し込みやすい環境整備を行った。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	酒井 麻美
-------	-------	------	--------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名		青雲閣管理運営事業	担当部署			生涯学習・スポーツ課
施策体系	将来像	ひとが元気	予算科目	会計	01	一般会計
	政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり		款	10	教育費
	基本施策	3 青少年健全育成の推進		項	04	社会教育費
	施策名	②青少年健全育成の推進		目	05	社会教育施設費
	根拠法令等					

事業の対象

誰・何に対して
全市民

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
東福寺野自然公園研修センター(青雲閣)の生涯学習の拠点としての機能を充実させ、多くの市民等に利用してもらう。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
施設利用者数 (宿泊・日帰り)	人	目標	5,000	5,000	5,000		
		実績	490	1,984	2,459		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
東福寺野自然公園研修センター青雲閣を指定管理し運営する。 小中学校や企業等の団体向けに宿泊利用の営業活動を行ってもらい、利用率を上げる。 周辺施設を含めた利用方法を提案し、リピーター増を目指す。 ホームページを利用して周知を図る。

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
開館日数	日	計画		358	358	358		
		実績		358	357	360		
		計画						
		実績						
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				23,215	24,497	25,281		
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源			23,215	24,497	25,281		

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	青少年の健全育成を図ると共に、心豊かに学ぶ生涯学習の場として必要である。
有効性	やや低い	新型コロナウイルス感染症の影響により、施設利用者数が大きく減少している。
効率性	やや高い	東福寺野自然公園や不永掛遺跡公園等と併せて利用でき、幅広く活用できる施設となっている。

総合評価

評価基準	評価
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直しの検討 D:事業の統合・休廃止の検討	D

事業の課題

令和5年度末で閉館。

今後の方向性

成果の方向性	統廃合	投入コスト	皆減
--------	-----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	東福寺野自然公園の一体的な整備を含めて検討していく予定である。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	令和5年度末をもって閉館したことから、令和6年度以降、青雲閣管理運営費は廃止。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	荒田 雄一郎	作成者	酒井 麻美
-------	-------	------	--------	-----	-------

3 生涯にわたるスポーツの振興推進

- 1 スポーツ推進委員設置事業
- 2 市民体育大会開催事業
- 3 市民スポーツ振興事業
- 4 トップアスリート育成事業
- 5 スポーツエキスパート派遣事業
- 6 子どもの体力向上推進事業
- 7 ほたるいかマラソン開催助成
- 8 夢の教室開催事業
- 9 スポーツ・健康づくり推進事業
- 10 ウォーキングフットボール大会開催事業
- 11 宇津木杯ソフトボール交流大会開催事業
- 12 地域連携部活動推進事業
- 13 社会体育施設管理事業
- 14 テニス村管理運営事業
- 15 総合体育センター管理運営事業
- 16 総合体育センター整備事業
- 17 スポーツ・健康の森公園管理運営事業

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	スポーツ推進委員設置事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	会計	01 一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款	10 教育費
基本施策	5 生涯スポーツの振興	項	05 保健体育費
施策名	①スポーツ普及活動の推進	目	01 保健体育総務費
根拠法令等	スポーツ基本法、スポーツ推進委員設置に関する規則		

事業の対象

誰・何に対して	
市スポーツ推進委員	

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)	
市民のスポーツ振興のため、研修会の開催等により活動を支援し、資質の向上を図る。	

成果指標(どの程度意図が達成されたか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
研修会、講習会等の参加人数	人	目標	150	200	200	200
		実績	132	234	209	
根拠						

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)	
①地域におけるニュースポーツの普及振興活動を行った。	
②市及び体育協会主催行事の企画、運営協力を行った。	

活動指標(どの程度手段を実施したか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
ニュースポーツ体験会、講習会開催数	回	計画	10	10	10	10
		実績	10	10	10	
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6
事業決算額・計画額			1,816	1,640	2,053	3,475
財源内訳						
国県支出金						
地方債						
その他						
一般財源			1,816	1,640	2,053	3,475

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	法律に定めて設置しており、生涯スポーツの普及、振興を図るため必要である。
有効性	高い	市、地域スポーツの振興を図るため、各種研修会などの開催、参加により資質向上を図る事業を実施している。
効率性	高い	事業の一部については、市体育協会等との連携により、事業の効率化を図っている。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	A

事業の課題

--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	黒田 聡彦	作成者	金森 淳史
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	市民体育大会開催事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予算科目	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款	教育費
基本施策	5 生涯スポーツの振興	項	保健体育費
施策名	①スポーツ普及活動の推進	目	保健体育総務費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して	
一般市民	

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)	
スポーツ振興、普及発展と健康の保持増進を図る。	

成果指標(どの程度意図が達成されたか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
市民体育大会参加者数	人	目標	2,500	2,500	2,500	2,500
		実績	1,476	1,500	1,403	
根拠						
		目標				
		実績				
根拠						

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)	
①市体育協会を中心に、各競技種目を開催した。 ②市民スポーツフェスタ内で開会式を開催し、種目間の総合交流を図った。 ③競技運営を体育協会及び単位協会に委託し、競技団体の自立を支援した。	

活動指標(どの程度手段を実施したか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
競技種目数	種目	計画	24	24	24	24
		実績	24	24	24	
		計画				
		実績				
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6
事業決算額・計画額			1,745	1,745	1,745	1,745
財源内訳	国県支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源		1,745	1,745	1,745	1,745

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	広く市民にスポーツ活動に参加する機会と日頃の練習の成果を発揮する場を与えるとともに、市民の健康の保持増進や競技力向上を図る観点からも、必要性は高いと考える。
有効性	やや高い	市体育協会に加盟し活動する競技団体の全競技種目を開催するとともに、一部競技は県民体育大会の予選会として実施している。
効率性	高い	大会運営は市体育協会へ委託し、競技運営は各競技団体が行うことで効率的に事業を実施している。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・廃止の検討	B

事業の課題

歴史のある市民体育大会は、本市の総合競技イベントとして市民に定着しており、継続して実施していく必要があるが、児童数の減少等により競技人口の減少が懸念される。
--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	競技人口の減少については、本事業の取組で改善するものではなく、スポーツ振興や健康増進に関する施策全体で検討していく必要がある。本事業については、引き続き市体育協会ほか関係団体と連携して取り組んでいく。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	黒田 聡彦	作成者	黒田 聡彦
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	市民スポーツ振興事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予算科目	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款	教育費
基本施策	5 生涯スポーツの振興	項	保健体育費
施策名	①スポーツ普及活動の推進	目	保健体育総務費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して	
一般市民	

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)	
市民スポーツ大会の開催、全国大会等出場者への激励費、スポーツ少年団への育成助成を行い、スポーツの振興を図る。	

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
全国大会等出場者数(個人)	人	目標	150	150	150	150	150
		実績	86	136	142		
根拠							
全国大会等出場者数(団体)	団体	目標	5	5	5	5	5
		実績	1	5	1		
根拠							

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)

①市民スポーツ大会(武道大会及び11種目)を開催した。	
②全国大会等出場者へ激励費を支給した。	
③スポーツ少年団へ育成助成を行った。	
④県民体育大会派遣への助成(市スポーツ協会委託事業)を行った。	
⑤遠征等助成事業(市スポーツ協会実施事業)に補助金を交付した。	
⑥室内温水プールに施設運営管理補助金を交付した。	
⑦総合型地域スポーツクラブに育成支援補助金を交付した。	

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
市スポーツ少年団登録人数	人	計画	550	550	550	550	550
		実績	570	561	560		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			1,928	18,345	18,993	22,459	18,699
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他		1	1	1	1	1
	一般財源		1,927	18,344	18,992	22,458	18,698

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	市民が参加しやすい大会の開催や、全国大会等へ県代表として出場した選手への激励費の支給、スポーツ少年団組織の育成など、生涯にわたるスポーツに親しむ環境整備のために必要不可欠である。
有効性	やや高い	市民スポーツ意識の高揚を図るため、必要な事業であるが、市民スポーツ大会開催については、種目変更や参加者層の拡大を図るため検討する必要がある。
効率性	高い	スポーツ大会の開催やバス運行補助、県民体育大会派遣については、市スポーツ協会へ委託している。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	A

事業の課題

--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	黒田 聡彦	作成者	水野 清康
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	トップアスリート育成事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予算	会計 01 一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款	10 教育費
基本施策	5 生涯スポーツの振興	項	05 保健体育費
施策名	②競技力の向上	目	01 保健体育総務費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して	
市内アスリート	

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)	
市スポーツ協会と連携しながら小学生から一般まで、各種競技種目での競技力向上を図る。	

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
北信越中学校体育大会出場者数	人	目標	30	30	30	30	30
		実績	62	20	13		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)	
①トップアスリート等専門家を招へいし、小中学生等を対象としたスポーツ教室等を開催した。	
②小学校低学年を対象とした運動教室を開催した。	
③激励費、選手派遣費、強化育成費を支給し、競技者の金銭的負担を支援した。	
④指導者と保護者を対象とした市民スポーツ大学を開催し、指導理論や指導方法に関する講習を行った。	

活動指標(どの程度手段を実施したか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
講習会、教室開催数	回	計画	18	18	18	18	18
		実績	5	7	8		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			3,175	4,069	4,210	4,775	4,775
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源		3,175	4,069	4,210	4,775	4,775

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	市スポーツ協会、中学校体育連盟との連携により推進している。
有効性	やや高い	中長期的な視野で、全国大会で活躍する選手や世界大会へ出場する選手の排出を、市スポーツ協会や競技団体を協議しながら進めている。
効率性	高い	市スポーツ協会へ委託している。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当	A
B: 事業の進め方の改善の検討	
C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討	
D: 事業の統合・休廃止の検討	

事業の課題

--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	黒田 聡彦	作成者	水野 清康
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	スポーツエキスパート派遣事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予 会計 01	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	算 款 10	教育費
基本施策	5 生涯スポーツの振興	項 05	保健体育費
施策名	②競技力の向上	目 01	保健体育総務費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
市内中学校運動部活動所属生徒

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
中学校運動部活動において、顧問(教諭)のほか地域指導者の協力を得て競技力の向上を図る。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
北信越中学校体育大会出場者数	人	目標	30	30	30	30	30
		実績	62	20	13		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①学校運動部活動の協力者としてスポーツエキスパートを派遣した。
②スポーツエキスパートは、顧問と取り組み内容等について協議し、生徒の活動補助及び競技力向上を図るための技術指導を行った。

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
スポーツエキスパート派遣者数	人	計画		13	9	7	7	7
		実績		11	9	9		
		計画						
		実績						
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				546	475	399	449	449
財源内訳	国県支出金			144	128	32	144	144
	地方債							
	その他							
	一般財源			402	347	367	305	305

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	競技・指導経験のない顧問・部活動への支援の必要性は極めて高い。
有効性	高い	専門的な指導が可能となり、上位大会出場の一助となっている。
効率性	高い	学校との連携により効率的に事業を進めている。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当	B
B: 事業の進め方の改善の検討	
C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討	
D: 事業の統合・休廃止の検討	

事業の課題

中学校運動部活動の成果は、着実に出来ており今後も事業を継続する必要があるが、部活動の地域移行に伴い、学校部活動の配置とエキスパートの派遣について、学校側の要望等を協議しながら対応する必要がある。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	エキスパートを活用した指導者の確保、学校の働き方改革の推進に向けた協議会を行っている。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	黒田 聡彦	作成者	金森 淳史
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	子どもの体力向上推進事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	会計 01	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款 10	教育費
基本施策	5 生涯スポーツの振興	項 05	保健体育費
施策名	②競技力の向上	目 01	保健体育総務費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
市内所園児、市内小中学校児童・生徒

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
市内小中学校児童生徒の体力の実態を把握し、学校と連携して、体力向上を図る。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
新体力テストの男女各学年の 全国・県平均を上回った種目 数(小学校8種目、中学校9種 目)	種目	目標	34	34	34	34	34
		実績	14	9	16		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①保育所(園)、認定こども園、幼稚園で体力測定、市内小中学校児童生徒の新体力テストを実施、分析した。
②各学校における体力向上運動を推進した。(学童体育大会の実技指導、水泳授業の補助、スキー学習の補助)
③幼保小へプレイリーダーを派遣した。
④指導者研修会を実施した。

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
市スポーツ少年団登録人数	人	計画	550	570	570	570	570	570
		実績	570	561	560			
プレイリーダー派遣事業への市内園児の参加者数	人	計画	500	500	500	500	500	
		実績	391	380	375			
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				339	339	409	701	701
財源内訳	国県支出金			53	61	49	99	99
	地方債							
	その他							
	一般財源			286	278	360	602	602

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	コロナ禍におけるスポーツ実施機会の減少もあり、児童生徒の体力低下が一段と危惧されており、継続的に事業を進める必要がある。
有効性	高い	学校との連携により効率的に事業を進めている。
効率性	高い	H28より、幼稚園、保育所園とも連携し、成果の向上に努めている。
		各小中学校の体力向上推進委員との連携により効率的に事業を進めている。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当	A
B: 事業の進め方の改善の検討	
C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討	
D: 事業の統合・休廃止の検討	

事業の課題

--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	黒田 聡彦	作成者	金森 淳史
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	ほたるいかマラソン開催助成	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予 算	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	会 計	01
基本施策	5 生涯スポーツの振興	款	10
施策名	①スポーツ普及活動の推進	項	05
根拠法令等		目	01
			保健体育総務費

事業の対象

誰・何に対して
スポーツに関心のある者

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
本市の一大スポーツイベントとして定着しており、市内外からの参加者拡大を図り、健康の保持増進に役立てるとともに、本市のPRにも役立てる。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①著名なゲストランナーを招致し、参加者増加(特に市内参加者の増加)を図った。 ②WAVE滑川と連携し、観光PR等に努めた。 ③市民総参画のイベントとして定着化を図った。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
参加者数	人	目標	700	3,500	3,500	3,500	3,500
		実績	—	1,887	2,675		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
市内参加者数	人	計画	200	500	500	500	500
		実績	—	131	324		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			1,134	2,000	2,000	2,000	2,000
財 源 内 訳	国県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源		1,134	2,000	2,000	2,000	2,000

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	本市の一大スポーツイベントであり、スポーツの機運を高めるとともにスポーツ振興や健康増進を図るほか県内外へ本市をPRするうえで重要な事業である。
有効性	高い	市体育協会が中心となり、市内関係団体との連携の下事業が進められている。
効率性	高い	市体育協会へ補助金として支出している。

総合評価

評価基準	評価
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直しの検討 D:事業の統合・休廃止の検討	A

事業の課題

--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

通常開催として実施した。

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	黒田 聡彦	作成者	黒田 聡彦
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	夢の教室開催事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	会計 01	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款 10	教育費
基本施策	5 生涯スポーツの振興	項 05	保健体育費
施策名	①スポーツ普及活動の推進	目 01	保健体育総務費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
市内中学校2年生

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
様々なアスリートを、特別授業講師「夢先生」として迎え、実体験等に基づく授業を通して、夢や目標に向けて努力しようとすることやフェアプレー精神、仲間を大切にする意識や態度を育む。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
夢シート返却率	%	目標	100	100	100	100	100
		実績	100	100	100		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
市内両中学校の2学年8クラスを対象に「夢の教室」を実施した。

活動指標(どの程度手段を実施したか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
実施学校数	校	計画	9	9	2	2	2
		実績	9	9	2		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			1,345	1,197	1,050	1,048	1,048
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源		1,345	1,197	1,050	1,048	1,048

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	児童の将来や生き方を考え、心を育てる機会として効果があり必要である。
有効性	高い	(公財)日本サッカー協会「JFAこころのプロジェクト」推進室と連携をとりながら進めている。
効率性	高い	学校との連携により効率的に事業を進めている。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	A

事業の課題

--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	黒田 聡彦	作成者	金森 淳史
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	スポーツ・健康づくり推進事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予 会計 01	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款 10	教育費
基本施策	5 生涯スポーツの振興	項 05	保健体育費
施策名	①スポーツ普及活動の推進	目 01	保健体育総務費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
一般市民

事業の目的と達成度

意図（対象をどのようにしたいか）
「スポーツを通じた健康長寿社会等の創生」を目的に、健康増進の意識の醸成を図る。

事業の内容と活動量

手段（事業の内容・目的達成に向けた取組み）
①ウォーキングイベントを開催した。 ②スポーツ等の取組みに応じたポイントラリー（なめりかわ健康ポイント）を実施した。

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	スポーツを通じた健康づくりへの関心が高まりつつあり、引き続き取り組みを継続すべきである。
有効性	やや高い	スポーツ実施率の向上に向けて、スポーツ無関心層への働きかけを強化すべきである。
効率性	高い	なめりCANクラブや市民健康センターとの連携を強化すべきである。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	健康寿命の延伸を図るため、体力づくりのスポーツ活動や健康診断の受診等と連携した事業を展開し、幼児期から高齢者まで機会の創出に努めている。健康ポイントの参加者の増加を図るため、各施設利用者への周知やポスター・チラシ・SNSによる発信等を行っている。
新年度の予算要求事項（改革・改善案）	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	黒田 聡彦	作成者	水野 清康
-------	-------	------	-------	-----	-------

成果指標（どの程度意図が達成されたか）							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
なめりかわ健康ポイント申込数	枚	目標	1,000	1,000	5,000	5,000	5,000
		実績	810	1,210	194		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
ウォーキングイベント 実施回数	回	計画		3	4	4	4	4
		実績		4	4	3		
朝の集いの参加者数	人	計画		1,000	1,000	1,000	—	—
		実績		366	342			
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				1,112	580	992	250	250
財 源 内 訳	国県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源			1,112	580	992	250	250

事業の課題

若年層～中年層に健康意識を持ってもらい健康寿命を延伸するため、より、個々のスポーツ・健康づくりへの市民の関心を高める必要がある。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	ウォーキングフットボール大会開催事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予算科目	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款	教育費
基本施策	5 生涯スポーツの振興	項	保健体育費
施策名	①スポーツ普及活動の推進	目	保健体育総務費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して	
一般市民	

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)	
スポーツ振興、普及発展と健康の保持増進を図る。	

成果指標(どの程度意図が達成されたか)								
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7	
参加者数	人	目標	100	200	100	150	200	
		実績	155	88	49			
根拠								
		目標						
		実績						
根拠								

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)	
①年齢差や経験の有無に関係なく、誰もが楽しく参加できる大会を開催した。	
②大会のほかにも体験会や研修会を開催し、ウォーキングサッカーの普及や振興を図った。	

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7	
体験会、研修会開催回数	回	計画	10	10	10	10	10	
		実績	4	4	2			
		計画						
		実績						
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7	
事業決算額・計画額			349	416	426	500	500	
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源		349	416	426	500	500	

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	サッカー経験の有無に関係なく取り組める種目で、走ってはいけないという条件により、誰もが参加しやすいものであり、市民のスポーツ振興及び健康の保持増進にも必要である。
有効性	高い	市民のスポーツ振興に必要な事業であるが、より多くの市民が参加するために検討する必要がある。
効率性	高い	市サッカー協会等との連携が強化されるべきである。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当	B
B: 事業の進め方の改善の検討	
C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討	
D: 事業の統合・休廃止の検討	

事業の課題

市内外への周知や多様な団体等への働きかけを工夫する必要がある。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	スポーツ推進委員を通じた体験会の実施や他市町村との連携を図っている。 老人クラブ等の各種団体とのイベント開催日の調整、市内各所へのポスター掲載、市公式SNS等での発信等、周知に努めている。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	黒田 聡彦	作成者	金森 淳史
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	宇津木杯ソフトボール交流大会開催事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予 算	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	会 計	01
基本施策	5 生涯スポーツの振興	款	10
施策名	①スポーツ普及活動の推進	項	05
根拠法令等		目	01
			保健体育費
			保健体育総務費

事業の対象

誰・何に対して
市内中学校ソフトボール部員(教室は、小学生や高校生も対象)

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
ソフトボールの普及や競技力の向上を図る。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①県内強豪チームを招いての交流大会を実施した。 ②オリンピックによるソフトボール教室を開催した。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
教室参加者数	人	目標	100	100	100	100
		実績	35	60	47	
根拠						
		目標				
		実績				
根拠						

活動指標(どの程度手段を実施したか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
大会参加チーム数	組	計画	8	8	8	8
		実績	4	4	4	
		計画				
		実績				
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6
事業決算額・計画額			714	722	698	774
財源内訳	国県支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源		714	722	698	774

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	やや高い	少子化の中、市内中学校ソフトボール部を構成する部員数の維持ができています。
有効性	やや高い	ソフトボール教室に市内小学生がさらに参加するような対策が必要である。
効率性	高い	今後さらに市にソフトボール協会と連携を強化し、事業の効率化を目指したい。

総合評価

評価基準	評価
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直しの検討 D:事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

講師委託先のNPO法人ソフトボール・ドリームの令和6年度末の解散が決まっている。
--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	令和7年度以降の開催可否について、新たな委託先の存否などの情報収集を行っている。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	黒田 聡彦	作成者	水野 清康
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	地域連携部活動推進事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	会計	01 一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款	10 教育費
基本施策	5 生涯スポーツの振興	項	05 保健体育費
施策名	③スポーツ環境の充実	目	01 保健体育総務費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して	
市内中学生	

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)	
少子化の中でも、地域の子どもたちがスポーツに親しむ機会を維持、整備するとともに、教員の働き方改革を進めるため、休日の運動部活動の地域移行の推進に向けた実践研究を行い、その在り方を協議、検討する。	

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
参加生徒満足度	%	目標		80	80	80	80
		実績		82	88		
根拠							
保護者満足度	%	目標		80	80	80	80
		実績		86	82		
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)	
学校と地域が協働・融合した部活動、クラブ活動の具体的な方針等について実践研究を行う。 対象:バドミントン競技、バスケットボール競技、軟式野球競技、ソフトボール競技、陸上競技(5競技10部活動)	

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
活動回数(1部当たり平均)	組	計画			25	25	40	40
		実績			20	22		
		計画						
		実績						
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額					332	1,713		
財源内訳	国県支出金				319	1,355		
	地方債							
	その他							
	一般財源				13	358		

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	国の方針でもあり、少子化が進む中において、本市の子どもたちがスポーツに親しむ機会・環境がなくなることがないよう、着実に進めていく必要がある。
有効性	高い	学校だけでなく地域でスポーツ環境を整備していくことは、持続可能性の高いスポーツ環境の維持につながり、本市の子どもたちがスポーツに親しむ機会が保障できる。
効率性	やや高い	様々な課題があり、容易に地域移行を進めることが難しい。関係団体等との協議や実証研修を継続し、本市の子どもたちにとってよりよいスポーツ環境の整備に努めるべきである。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当	B
B: 事業の進め方の改善の検討	
C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討	
D: 事業の統合・休廃止の検討	

事業の課題

各関係団体の事情等もあり、容易に移行を進めることはできない。協議や実証研究を継続し、関係団体の連携を深める必要がある。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	増額
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	関係団体とのヒアリングや協議会を実施し、関係団体の連携強化に努めている。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	黒田 聡彦	作成者	金森 淳史
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	社会体育施設管理事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予算科目	会計 01 一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款	10 教育費
基本施策	5 生涯スポーツの振興	項	05 保健体育費
施策名	③スポーツ環境の充実	目	02 体育施設費
根拠法令等	滑川市体育施設条例		

事業の対象

誰・何に対して	
市民	

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)	
市内社会体育施設(下梅沢テニスコート等)の整備、利用促進やグラウンド開放に係る修繕により安全に利用できるよう努める。	

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
下梅沢テニスコート利用者数	人	目標	13,000	13,000	13,000	13,000	13,000
		実績	7,328	10,598	11,704		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)	
①下梅沢テニスコート等に係る管理運営及び修繕、改修により利用促進を図った。 ②学校グラウンド照明機器の修繕により安全な利用対策に努めた。	

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
学校体育施設利用者数(体育館、グラウンド)	人	計画	90,000	90,000	90,000	90,000	90,000
		実績	92,020	106,060	104,288		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			5,626	4,837	8,042	8,852	8,852
財源内訳							
国県支出金							
地方債							
その他			1,133	1,215	4,626	5,000	5,000
一般財源			4,493	3,622	3,416	3,852	3,852

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	市民の身近なスポーツ施設として、本市スポーツ振興の重要な役割を担っている。
有効性	高い	計画的な施設管理に努めている。
効率性	高い	今後老朽化していく施設において、定期的な点検や計画的な修繕など、施設の長寿命化を図るため、対応していく。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	A

事業の課題

--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	黒田 聡彦	作成者	黒田 聡彦
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	テニス村管理運営事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予 算	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	会 計	01
基本施策	5 生涯スポーツの振興	款	10
施策名	③スポーツ環境の充実	項	05
		目	02
根拠法令等	滑川市みのわテニス村設置条例	目	02

事業の対象

誰・何に対して	
みのわテニス村の管理運営	

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)	
テニスコート、クラブハウス、健康休養施設について効率的に管理するとともに、利用率向上に努める。	

成果指標(どの程度意図が達成されたか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
テニス村利用者数	人	目標	75,000	75,000	75,000	75,000
		実績	36,803	37,739	31,491	
根拠						
		目標				
		実績				
根拠						

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)	
①市内外テニス愛好者、学校部活動へ利用誘致を行った。	
②健康休養施設等の計画的な改修・整備を行った。	

活動指標(どの程度手段を実施したか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
テニスコート利用者数	人	計画	20,000	20,000	20,000	20,000
		実績	1,870	1,894	1,483	
		計画				
		実績				
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6
事業決算額・計画額			39,959	37,692	35,429	49,038
財源内訳	国県支出金				1,200	
	地方債					
	その他					
	一般財源		39,959	37,692	34,229	49,038

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	市内外から利用される施設であり、今後とも事業を継続し運営していく必要がある。
有効性	高い	テニスコートの利用者数について、子どもの無料化が利用率向上に大きくつながっている。
効率性	高い	施設管理については、文化・スポーツ振興財団へ委託している。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当	A
B: 事業の進め方の改善の検討	
C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討	
D: 事業の統合・休廃止の検討	

事業の課題

--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	黒田 聡彦	作成者	黒田 聡彦
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	総合体育センター管理運営事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予算科目	会計 01 一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款	10 教育費
基本施策	5 生涯スポーツの振興	項	05 保健体育費
施策名	③スポーツ環境の充実	目	02 体育施設費
根拠法令等	滑川市総合体育センター条例		

事業の対象

誰・何に対して	市総合体育センターの管理運営
---------	----------------

事業の目的と達成度

意図（対象をどのようにしたいか）	本市におけるスポーツの拠点施設としての総合体育センターについて、効率的に管理するとともに、利用率の向上に努める。
------------------	--

事業の内容と活動量

手段（事業の内容・目的達成に向けた取組み）	①多くの市民に利用いただけるよう、利用調整に努めた。 ②市内競技団体等との連絡調整を行った。 ③管理運営業務の効率化を図った。
-----------------------	---

成果指標（どの程度意図が達成されたか）

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
総合体育センター利用者数	人	目標	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000
		実績	64,290	58,212	66,419		
根拠		目標					
		実績					
根拠							

活動指標（どの程度手段を実施したか）

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
利用団体数	団体	計画	120	120	120	120	120
		実績	120	120	120		
		計画					
		実績					
コスト（千円）			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			24,876	27,063	27,600	28,573	28,573
財源内訳	国県支出金				900		
	地方債						
	その他						
	一般財源		24,876	27,063	26,700	28,573	28,573

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	スポーツの拠点施設として、今後も引き続き管理運営していく必要がある。
有効性	高い	利用者数も向上しており、順調であるとする。
効率性	高い	（公財）滑川市体育協会へ施設管理委託をしている。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	A

事業の課題

--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	
新年度の予算要求事項（改革・改善案）	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	黒田 聡彦	作成者	黒田 聡彦
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	総合体育センター整備事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予算科目	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	款	教育費
基本施策	5 生涯スポーツの振興	項	保健体育費
施策名	③スポーツ環境の充実	目	体育施設費
根拠法令等	滑川市総合体育センター条例		

事業の対象

誰・何に対して	総合体育センターの整備
---------	-------------

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)	施設の長寿命化を図る。併せて、施設のリニューアルを施すことで、さらなる利用者の増加を目指す。
------------------	--

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
総合体育センター利用者数	人	目標	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000
		実績	64,290	58,212	66,419		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)	老朽化が目立つため、計画的な修繕を実施した。(R5年度) ・相撲場土俵整備 ・武道館LPガス供給設備更新 ・弓道場整備 ・受水槽給水管復旧 ・非常用自家発電設備点検整備業務委託 ・ガスヒートポンプエアコン点検業務委託
-----------------------	--

活動指標(どの程度手段を実施したか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
利用団体数	団体	計画	120	120	120	120	120
		実績	120	120	120		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			5,618	1,089	1,802	142,981	
財源内訳	国県支出金		833				
	地方債						
	その他					142,400	
	一般財源		4,785	1,089	1,802	581	

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	スポーツ振興の拠点施設として、市総合体育センターを計画的に整備していく。
有効性	高い	老朽化等による緊急的な改修工事や利用者の要望に応えている。
効率性	高い	緊急的な高いものから計画的に実施している。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当	B
B: 事業の進め方の改善の検討	
C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討	
D: 事業の統合・休廃止の検討	

事業の課題

緊急的な工事等に対応してきているが、竣工後30年近く経過しており、計画的な施設の改修が必要である。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	施設の維持に向け、修繕等の早期対応に努めている。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

新型コロナウイルス感染症によって減少した施設利用者が回復傾向にある。

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	黒田 聡彦	作成者	黒田 聡彦
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	スポーツ・健康の森公園管理運営事業	担当部署	生涯学習・スポーツ課
将来像	ひとが元気	予 算	一般会計
政策	政策2 学びの楽しさがあふれるまちづくり	会 計	01
基本施策	5 生涯スポーツの振興	款	10
施策名	③スポーツ環境の充実	項	05
根拠法令等	滑川市都市公園条例	目	02
			体育施設費

事業の対象

誰・何に対して
スポーツ・健康の森公園の管理運営

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
本市におけるアウトドアスポーツの拠点施設として、効率的に管理するとともに、利用率の向上に努める。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
スポーツ・健康の森公園の利用者数	人	目標	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000
		実績	51,086	50,934	51,244		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①屋外における、スポーツ振興、健康・体力づくり、交流の拠点として、総合体育センターや温水プールとも連携しながら利用促進とサービスの向上に努めた。 ②施設を活用したイベントを開催することで、市民へのPRを図った。

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
イベント開催数	回	計画	7	7	7	7	7
		実績	5	5	6		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			22,567	22,732	23,726	25,525	25,525
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他		1,176	970	999	1,100	1,100
	一般財源		21,391	21,762	22,727	24,425	24,425

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	市民を中心とした多くの方が利用している。今後も利用しやすい環境を整える必要がある。
有効性	高い	市内外の多くの方が利用している。
効率性	高い	公園緑地課や市体育協会との連絡を密にする

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	A

事業の課題

--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

新型コロナウイルス感染症によって減少した施設利用者が回復傾向にある。

評価者

評価責任者	相沢 卓巳	担当係長	黒田 聡彦	作成者	黒田 聡彦
-------	-------	------	-------	-----	-------

4 子どもの幸せを第一に考えた子育て支援

- 1 子ども未来サポートセンター運営事業
- 2 ファミリー・サポート・センター運営事業
- 3 児童相談等事業
- 4 出産・子育て応援交付金事業
- 5 私立保育所等運営事業
- 6 私立保育所等育成事業
- 7 私立保育所等特別保育事業
- 8 認可外保育施設等利用助成事業
- 9 放課後児童対策事業
- 10 地域子育て支援センター運営事業
- 11 子ども・妊産婦医療給付事業
- 12 高校生等医療給付事業
- 13 養育医療給付事業
- 14 子どもインフルエンザ予防接種助成事業
- 15 とやまっ子子育て支援サービス普及促進事業
- 16 保育対策総合支援事業
- 17 母子等福祉対策事業
- 18 ひとり親家庭等緊急生活資金貸付事業
- 19 ひとり親家庭等医療給付事業
- 20 母（父）子家庭自立支援給付事業
- 21 遺児福祉年金事業
- 22 市立保育所運営事業
- 23 児童館管理運営事業
- 24 幼児教育振興事業
- 25 幼稚園運営事業
- 26 放課後子ども教室開催事業

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	子ども未来サポートセンター運営事業	担当部署	子ども課
将来像	ひとが元気	予 会計 01	一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	算 款 03	民生費
基本施策	1 子育て支援の充実	科 項 02	児童福祉費
施策名	①切れ目ない子育て支援・相談体制の充実	目 目 01	児童福祉総務費
根拠法令等	児童福祉法、滑川市子ども未来サポートセンター事業実施要綱		

事業の対象

誰・何に対して
18歳未満の子どもとその家庭、妊産婦

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
妊娠前から子育て期にわたるまでの切れ目ない支援を実施することで、子どもの健全育成を図るもの。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
ことばの教室延べ対応児童数	人	目標	170	170	170	170	170
		実績	255	284	252		
根拠							
発達相談延べ対応児童数	人	目標	150	150	150	150	150
		実績	135	214	153		
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
・子ども家庭支援員による相談対応 子どもの発達、虐待、ひとり親家庭の自立支援等の専門知識を持つ支援員が、関係機関との連携を図りながら、子どもとその家庭の相談支援を行う。

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
ことばの教室実施回数	回	計画	70	70	70	70	70
		実績	65	62	56		
発達相談担当支援員設置数	人	計画	1	1	1	1	1
		実績	1	1	1		
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			411	397	410	1,358	1,358
財源内訳							
国県支出金			205	198	197	914	914
地方債							
その他							
一般財源			206	199	213	444	444

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	市区町村は子どもの最も身近な場所における子どもの福祉に関する支援等に係る業務を行うことが役割・責務とされており、必要性は高い。
有効性	やや高い	関係機関との連携を図り、必要な支援につなげるソーシャルワーク機能の充実が必要である。
効率性	やや高い	相談業務であり、現行が妥当である。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当	B
B: 事業の進め方の改善の検討	
C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討	
D: 事業の統合・休廃止の検討	

事業の課題

関係機関との対応スキル底上げと連携強化を図り、必要な支援につなげるソーシャルワーク機能を充実させる必要がある。また、恒常的なマンパワー不足状態にある。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	相談等の一時対応を担う保育所等を巡回し、支援者への相談支援を実施している。また幼小関係機関でサポートの在り方について共通理解につながるよう合同研修会等を実施している。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	「子ども未来サポートセンター運営事業」の機能を維持しつつ、さらに切れ目のない支援の充実に取り組むため、新たに「こども家庭センター」を設置することとし、その運営費について、予算要求を行った。

その他

--

評価者

評価責任者	牧田 優子	担当係長	林 昌枝	作成者	林 昌枝
-------	-------	------	------	-----	------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	ファミリー・サポート・センター運営事業	担当部署	子ども課
将来像	ひとが元気	予算科目	一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	会 計	01 民生費
基本施策	1 子育て支援の充実	款	03 児童福祉費
施策名	①切れ目ない子育て支援・相談体制の充実	項	02 児童福祉総務費
根拠法令等		目	01 児童福祉総務費

事業の対象

誰・何に対して
育児の応援をしてもらいたい人と応援したい人

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
育児の応援をしてほしい方(依頼会員)と応援したい方(協力会員)がお互いに育児の相互援助活動を行い、安心して働き続けることができるよう仕事と育児の両立支援を図ることを目的とする。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
事業利用件数	件	目標	2	5	10	10
		実績	11	50	48	
根拠(参考)子ども・子育て支援事業計画(R6目標 継続実施)						
		目標				
		実績				
根拠						

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
育児の応援をしてほしい方へファミリーサポートセンターの周知を行い(対象となる方に窓口で説明)要望があればファミリーサポートセンターに連携した。

活動指標(どの程度手段を実施したか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
運営支援・事業周知	件	計画	12	12	12	12
		実績	12	12	12	
協力会員数	人	計画	22	22	22	22
		実績	5	9	9	
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6
事業決算額・計画額			256	300	300	300
財源内訳						
国県支出金			170	200	200	200
地方債						
その他						
一般財源			86	100	100	100

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	やや高い	安心して就労ができる環境整備のためには必要であると考え。
有効性	やや低い	子育て支援のニーズが多様化していることから、事業内容や実施方法については検討の余地があると考え。
効率性	やや高い	実施主体が社会福祉協議会であることから、現行が適当であると考え。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当	B
B: 事業の進め方の改善の検討	
C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討	
D: 事業の統合・休廃止の検討	

事業の課題

多様なニーズに対応できるように協力会員を増やし、充実させていく必要がある。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	社会福祉協議会と連携し、事業や制度の周知に努めていく。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	牧田 優子	担当係長	神田 敦子	作成者	鶴山 宏祐
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名		児童相談等事業	担当部署			子ども課
施策体系	将来像	ひとが元気	予算科目	会計	01	一般会計
	政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり		款	03	民生費
	基本施策	1 子育て支援の充実		項	02	児童福祉費
	施策名	①切れ目ない子育て支援・相談体制の充実		目	01	児童福祉総務費
根拠法令等		児童福祉法、滑川市要保護児童対策地域協議会設置要綱				

事業の対象

誰・何に対して
18歳未満の児童とその保護者

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
児童虐待の防止と早期発見、相談業務による助言指導により児童の健全育成を図るもの。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
虐待相談対応件数	件	目標	10	10	10	10	10
		実績	27	37	40		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
・18歳未満の子どもに関する問題について、相談員が相談に応じ、問題解決に当たる。学校や民生委員、警察、児童相談所とも連携を取りながら継続的な指導等を行う。
・関係機関による「滑川市要保護児童対策地域協議会」を開催し、日頃から児童虐待の早期発見や早期対応を図るための情報や考え方の共有に努める。

活動指標(どの程度手段を実施したか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
家庭児童相談件数	件	計画	100	100	100	100	100
		実績	163	162	176		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			2,813	2,781	3,835	3,689	3,689
財源内訳	国県支出金		10	14	10	22	22
	地方債						
	その他						
	一般財源		2,803	2,767	3,825	3,667	3,667

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	児童福祉法により、市は要保護児童対策地域協議会を設置することとされており、必要性は高い。
有効性	やや高い	要保護児童の早期発見、適切な支援のため、関係機関とのさらなる連携が必要である。
効率性	やや高い	相談業務であり、現行が妥当である。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

関係機関との対応スキル底上げと連携強化を図り、必要な支援につなげるソーシャルワーク機能を充実させる必要がある。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	3歳児健診や園巡回の場で支援が必要な家庭の情報の把握と情報の共有、連携しやすい関係づくりに努めている。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	牧田 優子	担当係長	林 昌枝	作成者	林 昌枝
-------	-------	------	------	-----	------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	出産・子育て応援交付金事業	担当部署	子ども課
将来像	ひとが元気	会計 01	一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	款 03	民生費
基本施策	1 子育て支援の充実	項 02	児童福祉費
施策名	①切れ目ない子育て支援・相談体制の充実	目 01	児童福祉総務費
根拠法令等	児童福祉法、出産・子育て応援交付金		

事業の対象

誰・何に対して
3歳未満の子どもの養育者、妊婦

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目ない相談支援体制(伴走型相談支援)に加えて、経済的支援を一体として実施する。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
出産応援ギフトの支給人数	人	目標	-	300	240	240	240
		実績	-	224	276	/	/
根拠							
子育て応援ギフトの支給人数	人	目標	-	240	380	240	240
		実績	-	192	189	/	/
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
保健師等の面談を受けた妊婦や生まれた子どもの養育者に出産応援ギフト及び子育て応援ギフトを対象者へ支給する。 ・出産応援ギフト…妊婦一人当たり5万円 ・子育て応援ギフト…生まれた子ども一人当たり5万円

活動指標(どの程度手段を実施したか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
		計画					
		実績				/	/
		計画					
		実績				/	/
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				20,833	24,603	24,100	24,100
財 源 内 訳	国県支出金			17,359	22,779	20,083	20,083
	地方債						
	その他						
	一般財源			3,474	1,824	4,017	4,017

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	国の事業であり、基本的には全自治体で実施すべき事業である。
有効性	やや高い	妊娠・出産時の不安を経済的側面から支援することから、子育て支援としての有効性は高い。
効率性	やや高い	健康センターの伴走型相談支援と連携して実施しており、可能な限り効率性は高めていると言える。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	A

事業の課題

--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	牧田 優子	担当係長	林 昌枝	作成者	米山 音々子
-------	-------	------	------	-----	--------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	私立保育所等運営事業	担当部署	子ども課
将来像	ひとが元気	予 会計 01	一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	算 款 03	民生費
基本施策	1 子育て支援の充実	科 項 02	児童福祉費
施策名	③幼児教育・保育の提供体制の確保と充実	目 目 02	児童育成費
根拠法令等	児童福祉法、子ども・子育て支援法、就学前保育等推進法		

事業の対象

誰・何に対して
私立認可保育所、認定こども園

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
子ども・子育て支援法等に基づき、私立認可保育所、認定こども園の運営費を負担し、就学前児童の入所施設の確保を図る。また、多子世帯の経済的負担を軽減するため、第2子以降の保育料等相当も負担し無償化を実現する。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
国の定める公定価格単価を基に、毎月初日における入所児童数に係る運営費を交付する。 ●保育所運営費(委託費)の交付 ●認定こども園運営費(扶助費)の交付

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
待機児童数	人	目標	0	0	0	0	0
		実績	0	0	0		
根拠							
延入所者数	人	目標	14,866	14,850	14,850	14,850	14,850
		実績	14,748	14,579	14,031		
根拠(参考)子ども・子育て支援事業計画(R6実入所者総数、1,459人)							

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
交付額		千円	計画	1,290,959	1,341,612	1,346,612	1,346,612	1,346,612
			実績	1,307,166	1,263,875	1,375,693		
			計画					
			実績					
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				1,307,166	1,307,847	1,411,660	1,290,959	1,290,959
財源内訳	国県支出金			845,329	888,117	918,648	833,481	833,481
	地方債							
	その他			26,260	23,108	13,617	29,481	29,481
	一般財源			435,577	396,622	479,401	427,997	427,997

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	児童福祉法等により、民間の認可保育所、認定こども園等が要する教育・保育費用は市町村が支弁することとされている。
有効性	高い	待機児童数ゼロの成果指標は達成されている。類似事業・関連事業はなく、市の義務的事業となっている。
効率性	高い	支弁額等事業内容については、国の負担金交付要綱により定められているため、市町村において見直す余地はない。

総合評価

評価基準	評価
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直しの検討 D:事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

昨今の女性の就労率向上や育休復帰の早期化等により、0歳児の利用調整等が難しくなっている。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	年間を通して安定した利用調整ができるよう、適正な定員管理を行っていく。処遇改善等の実施を通して、各園の保育士確保に努めていく。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

R5年度より第1子保育料を半額とした。

評価者

評価責任者	牧田 優子	担当係長	神田 敦子	作成者	鶴山 宏祐
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	私立保育所等育成事業	担当部署	子ども課
将来像	ひとが元気	会計 01	一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	款 03	民生費
基本施策	1 子育て支援の充実	項 02	児童福祉費
施策名	③幼児教育・保育の提供体制の確保と充実	目 02	児童育成費
根拠法令等			

事業の対象

誰・何に対して
私立認可保育所、認定こども園

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
私立保育所、認定こども園における運営費の対象外経費を助成することにより、民間の認可保育所等を育成し、教育・保育サービスの充実・振興を図る。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
事業実施施設数	か所	目標	12	12	12	12	12	12
		実績	11	12	12			
根拠(参考)子ども・子育て支援事業計画(R6目標 継続実施)								
		目標						
		実績						
根拠								

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
●滑川市児童福祉施設借入金利子補給金 保育所等整備費用の借入金に係る利子相当額を補助(補助率:10/10(うち、1/2について県補助あり)) ●保育所等増改築工事費償還金補助金 保育所等の増改築に係る借入金元本の一部及び当該借入金に係る利子相当額を補助(補助率:10/10(うち、利子相当額の1/2について県補助あり)) ●滑川市児童福祉施設補助金(充実費) 保育所等の施設整備(修繕等)及び保育用品等の整備に係る費用を補助(補助率:10/10、補助限度額次の合算額 ①毎年4月1日現在の定員×2,000円、②保育所1箇所当たり40,000円) ●児童送迎バス購入費補助金 補助率 1/3(上限1,000,000円) ●児童送迎バスの安全装置設置(R5限り)

活動指標(どの程度手段を実施したか)						
指標名	単位		R3	R4	R5	R6
補助額	千円	計画	5,336	5,270	3,580	3,580
		実績	5,060	6,195	5,081	3,580
		計画				
		実績				
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6
事業決算額・計画額			5,060	6,195	5,081	3,507
財源内訳	国県支出金		281	268	1,815	236
	地方債					
	その他					
	一般財源		4,779	5,927	3,266	3,271

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	過去からの債務負担行為によるものや他の補助事業の対象とならない経費を対象としていることから、今後も市が事業に関与する必要性は高い。
有効性	高い	類似・重複する事業はなく教育・保育環境の充実を図る観点から有効性は高い。計画的な保育環境の整備について働きかけていく必要がある。
効率性	やや高い	必要性及び有効性の高い事業と考えられるため、市の負担割合や事業内容の見直しによるコスト削減の可能性については慎重に検討する必要がある。

総合評価

評価基準	評価
A:計画どおりに事業を進めることが適当	B
B:事業の進め方の改善の検討	
C:事業規模・内容・主体の見直しの検討	
D:事業の統合・休廃止の検討	

事業の課題

運営費の対象外となる経費について、教育・保育の充実に繋がるよう計画的・効果的な環境の整備について促していく必要がある。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	教育・保育連絡協議会開催等により情報交換や情報共有の機会を確保し、各種情報や通知の周知に努めている。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	牧田 優子	担当係長	神田 敦子	作成者	坂田 祐紀
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	私立保育所等特別保育事業	担当部署	子ども課
将来像	ひとが元気	予算科目	一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	会計 01	民生費
基本施策	1 子育て支援の充実	款 03	児童福祉費
施策名	③幼児教育・保育の提供体制の確保と充実	項 02	児童育成費
根拠法令等	子ども・子育て支援法、特定教育・保育、特別利用保育、特別利用教育、特定地域型保育、特別利用地域型保育、特定利用地域型保育及び特例保育に関する費用の額の算定に関する基準等 等		

事業の対象

誰・何に対して
各種特別保育事業を行う私立認可保育所、認定こども園、幼稚園

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
各種特別保育を実施することにより、乳幼児の福祉の増進を図るとともに、保護者の多様な保育ニーズに対応する。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
私立保育所が実施する各種特別保育事業に対し、補助金を交付する。 ●滑川市特別保育事業費等補助金 ・延長保育(国費(一部市単)) ・一時預かり事業(国費) ・休日保育(国費) ・病児・病後児保育(国費) ・年度途中入所促進事業(県費) ・障害児保育事業(市単) ・地域活動事業(市単) ・地域子育て支援拠点事業(国費) ●すこやか保育促進事業(県費) ●アレルギー対応特別給食提供事業(県費)※R5実施施設なし ●医療的ケア児保育事業

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
事業実施施設数	か所	目標	13	13	13	13	13
		実績	13	13	13		
根拠(参考)子ども・子育て支援事業計画(R6目標 継続実施)							
医療的ケア児保育受入人数	人	目標	-	-	2	1	1
		実績			2		
根拠							

活動指標(どの程度手段を実施したか)									
指標名			単位		R3	R4	R5	R6	R7
補助額		千円	計画	79,984	83,230	83,230	83,230	83,230	83,230
		実績	83,230	80,763	87,263				
医療的ケア児保育実施する施設		箇所	計画	-	-	1	1	1	1
		実績			1				
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7	
事業決算額・計画額				83,230	80,763	87,263	81,162	79,900	
財源内訳	国県支出金			42,023	44,266	48,317	44,589	43,800	
	地方債								
	その他								
	一般財源			41,207	36,497	38,946	36,573	36,100	

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	多様な保育ニーズは今後も高まっていくと考えられることから、今後も市が事業に関与する必要性は高い。
有効性	高い	一部市単独事業はあるが、ほとんどの事業内容については、国・県の実施要綱等に基づいており、市町村において見直す余地はない。
効率性	やや高い	必要性及び有効性の高い事業と考えられるため、市の負担割合や事業内容の見直しによるコスト削減の可能性については慎重に検討する必要がある。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

各園において、病児保育や障害児保育など多様化する保育ニーズに対応するための人材確保や、保育士のスキル向上につながるよう支援していく必要がある。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	処遇改善他、国・県事業等の実施を通じて、各園における人材確保支援に努めていく。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

令和5年4月以降は医療的ケア児について、保育対策総合支援事業より移行された。
--

評価者

評価責任者	牧田 優子	担当係長	神田 敦子	作成者	鶴山 宏祐
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	認可外保育施設等利用助成事業	担当部署	子ども課
将来像	ひとが元気	会計 01	一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	款 03	民生費
基本施策	1 子育て支援の充実	項 02	児童福祉費
施策名	③幼児教育・保育の提供体制の確保と充実	目 02	児童育成費
根拠法令等	子ども・子育て支援法		

事業の対象

誰・何に対して
未就学の子ども(5歳児以下)とその保護者

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
子ども・子育て支援法に基づく制度のもと、認可外保育施設や預かり保育などの利用料を無償化する。また、多子世帯の経済的負担を軽減するため、第2子以降の利用児童の保育料等を補助する。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
施設等利用者数	人	目標		5	5	5	5	5
		実績		4	4	2		
根拠(参考)子ども・子育て支援事業計画(R6目標 継続実施)								
認可外施設利用者	人	目標		5	5	5	5	5
		実績		6	7	19		
根拠								

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
●施設等利用給付 対象児童が利用する預かり保育などのサービス利用料を上限額の範囲内で無償化した。 ●第1子の利用料を半額、第2子以降の利用料を無償化(市単独) 認可外保育施設の利用料等を上限額の範囲内で補助した。 ・市ホームページ等で認可外保育施設を利用している保護者に対し周知し、申請を勧奨した。 ・保護者に補助金を支給した。

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
補助・給付額	千円	計画	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300
		実績	400	1,002	211			
補助額		計画	1,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300
		実績	1,271	2,090	3,282			
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				1,671	3,092	3,493	4,902	4,902
財源内訳	国県支出金			300	751	159	333	333
	地方債							
	その他							
	一般財源			1,371	2,341	3,334	4,569	4,569

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	やや高い	多様な保育ニーズに応える事業であり、認可施設利用者と同様に支援していく必要である。
有効性	やや高い	一部市単独事業ではあるが、国・県の実施要綱等に基づいており、現行が適当である。
効率性	やや高い	事業の趣旨から、市の負担割合を下げることやコスト削減は考えにくい。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当	B
B: 事業の進め方の改善の検討	
C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討	
D: 事業の統合・休廃止の検討	

事業の課題

保育料補助については保護者による申請が前提となっており、特に市外の施設に通う対象者の確実な申請に繋がるよう周知が必要である。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	市ホームページや広報等により、制度周知や申請勧奨を実施していく。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

R5年度より第1子保育料を半額とした。

評価者

評価責任者	牧田 優子	担当係長	神田 敦子	作成者	杉本 健太郎
-------	-------	------	-------	-----	--------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名		放課後児童対策事業	担当部署			子ども課
施策体系	将来像	ひとが元気	予算科目	会計	01	一般会計
	政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり		款	03	民生費
	基本施策	1 子育て支援の充実		項	02	児童福祉費
	施策名	②子どもの居場所づくり		目	02	児童育成費
根拠法令等		児童福祉法、滑川市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例、滑川市放課後児童健全育成事業実施要綱、				

事業の対象

誰・何に対して
就労していることなどにより、保護者が居間家庭にいない小学生

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
放課後や長期休業期間中に、適切な遊びや生活の場を与えて、児童の健全な育成を図る。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)

各小学校区の運営協議会又は社会福祉法人に委託
実施時間(小学校登校日):下校後～18:00頃
(上記以外の日):8時頃～18時頃
年間開所日数:概ね250日以上
平日の放課後のほか土曜日、長期休業期間も開所
経費の一部として保護者から利用料を徴収

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
待機児童数	人	目標	0	0	0	0	0	
		実績	0	0	0			
根拠 子ども・子育て支援事業計画(放課後対策事業の量の見込みと提供体制)								
登録児童数	人	目標	504	507	506	500	500	
		実績	402	455	458			
根拠 子ども・子育て支援事業計画(放課後対策事業の量の見込みと提供体制)								

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名			単位		R3	R4	R5	R6	R7
放課後児童クラブ数			か所	計画	11	11	11	13	13
				実績	11	11	11		
				計画					
				実績					
コスト(千円)					R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額					48,935	54,030	59,769	72,420	72,420
財源内訳	国県支出金				28,674	35,084	37,320	47,990	47,990
	地方債								
	その他								
	一般財源				20,261	18,946	22,449	24,430	24,430

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	近年の子どもを取り巻く環境の変化を踏まえると、学齢期の居場所づくりについても乳幼児期の教育・保育と同様、今後とも市が事業に関与していく必要性は高い。
有効性	高い	乳幼児期の教育・保育と同様に市の義務的事業といえるものであり、国の実施要項や基準等に基づき実施していくものである。
効率性	やや高い	放課後子ども教室との連携をさらに推進し、効率的な放課後児童対策の実施方法について検討する余地がある。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

ニーズの多様化に対応できるよう、支援員等の人材確保や体制づくりについて検討していく必要がある。また開設時間の延長や多様な放課後対策事業の形態等について研究していく必要がある。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	クラブ支援員の認定資格取得や各研修受講等を奨励し、質の向上を図っていく。国補助等を活用し、支援員の処遇改善に努め、人材確保につなげていく。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	支援員等の処遇改善のため、賃金単価を増額する予算要求を行った。

その他

R5:4月1日から入学式までにおける児童の受け入れ体制強化のため、4月第1週の支援員・補助員の賃金単価を増額した。

評価者

評価責任者	牧田 優子	担当係長	神田 敦子	作成者	神田 敦子
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート (R5年度事業)

事業名	地域子育て支援センター運営事業	担当部署	子ども課
将来像	ひとが元気	会計	01 一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	款	03 民生費
基本施策	1 子育て支援の充実	項	02 児童福祉費
施策名	①切れ目ない子育て支援・相談体制の充実	目	02 児童育成費
根拠法令等	児童福祉法、地域子育て支援拠点事業実施要綱(国)		

事業の対象

誰・何に対して
子育て家庭の保護者と乳幼児

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
子育て中の保護者の子育てに関する不安解消を図り、子どもを健やかに育てる。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
延利用者数	人	目標	6,480	7,000	8,000	8,000	8,000
		実績	6,128	7,422	5,907		
根拠 子ども・子育て支援事業計画「地域子ども子育て支援事業」							
子育て相談対応数	件	目標	300	300	300	300	300
		実績	222	267	271		
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
・地域において子育て中の親子が気軽に集い、交流、リフレッシュできる集いの広場を設置し、子育て支援機能の充実を図り、子育ての不安感を緩和し、子どもの健やかな育ちを促進する。 ●子育て親子の交流の場の提供と促進 ●子育て等に関する相談・援助の実施

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名			単位		R3	R4	R5	R6	R7
教室等の開催数			回	計画	15	20	20	20	20
				実績	22	26	26		
子育て支援センター数			件	計画					
				実績	1	1	1		
コスト(千円)					R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額					529	658	473	414	414
財源内訳	国県支出金				353	439	315	276	276
	地方債								
	その他								
	一般財源				176	219	158	138	138

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	やや高い	子育てに対する不安を軽減させる事業であるため必要性は高い。
有効性	やや高い	利用者の満足度を高めるため、事業内容の見直しや新たな取り組みも必要である。
効率性	高い	保育所に併設されており、効率的な活用に努めている。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

講座等のメニューについて、多様なニーズに応じた新たな取り組みの検討が必要である。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	少人数サロンでのサロン事業を充実させ開催数を増やして実施していく。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	牧田 優子	担当係長	神田 敦子	作成者	坂田 祐紀
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名		子ども・妊産婦医療給付事業	担当部署			子ども課
施策体系	将来像	ひとが元気	予算科目	会計	01	一般会計
	政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり		款	03	民生費
	基本施策	1 子育て支援の充実		項	02	児童福祉費
	施策名	①切れ目ない子育て支援・相談体制の充実		目	02	児童育成費
	根拠法令等	滑川市子ども医療費助成に関する条例、滑川市妊産婦医療費助成条例				

事業の対象

誰・何に対して
0歳から中学校3年生までの子ども及び特定の疾病にかかる妊産婦

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
滑川市子ども医療費助成に関する条例及び滑川市妊産婦医療費助成条例に基づき、子どもの健康管理と適正な医療の確保を図り、保健の向上と福祉の増進に資することを目的とする。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①新規申請 ・出生、転入等による申請受付 ・受給資格及び所得額の審査 ・住民異動担当課との連携 ・受給資格証等の発行
②保険証等変更 ・加入保険変更等による届出の受付
③医療費の支払 ・現物、償還払いの受付、審査、支払
④過誤補正
⑤高額療養費の請求

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
こども医療給付件数	件	目標		48,084	50,000	50,000	50,000	50,000
		実績		48,084	53,046	65,244		
根拠 子ども・子育て支援事業計画(R6目標 継続実施)								
妊産婦医療給付件数	件	目標		378	400	400	400	400
		実績		378	277	256		
根拠 子ども・子育て支援事業計画(R6目標 継続実施)								

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
こども医療給付件数	件	計画		48,084	50,000	50,000	50,000	50,000
		実績		48,084	53,046	65,244		
妊産婦医療給付件数	件	計画		378	400	400	400	400
		実績		378	277	256		
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				110,180	113,754	147,797	150,972	150,972
財源内訳	国県支出金			16,851	21,601	26,274	24,097	24,097
	地方債							
	その他			744	282	42	200	200
	一般財源			92,585	91,871	121,481	126,675	126,675

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	子ども・妊産婦の健康維持と子育て世帯の経済的負担を軽減するために必要である。
有効性	やや高い	現物給付の対象を拡大したことにより成果の向上が期待できる。
効率性	高い	市の負担割合を下げることは事業の目的にそぐわない。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

現物給付の拡大など制度の変更により医療機関や保護者が混乱しないよう周知を徹底する必要がある。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	市HPや広報、県によるチラシ、ポスターの配布、来庁者へ個別の注意喚起により周知している。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	R6～高校生等医療給費事業統合 受給要件を削除し、全ての18歳の年度末まで対象を拡大

その他

R4～現物給付の対象が県内全域に拡大

評価者

評価責任者	牧田 優子	担当係長	林 昌枝	作成者	中山 智史
-------	-------	------	------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

施策体系	事業名	高校生等医療給付事業	担当部署	子ども課
	将来像	ひとが元気	会計 01	一般会計
	政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	款 03	民生費
	基本施策	1 子育て支援の充実	項 02	児童福祉費
	施策名	①切れ目ない子育て支援・相談体制の充実	目 02	児童育成費
根拠法令等		滑川市子ども医療費助成に関する条例		

事業の対象

誰・何に対して
高等学校等に在学し、かつ保護者に扶養されている子ども

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
滑川市子ども医療費助成に関する条例に基づき、高等学校等に在学する子どもの健康管理と適正な医療の確保を図り、保健の向上と福祉の増進に資することを目的とする。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①新規申請 ・出生、転入等による申請受付 ・受給資格及び所得額の審査 ・住民異動担当課との連携 ・受給資格証等の発行 ②保険証等変更 ・加入保険変更等による届出の受付 ③医療費の支払 ・現物、償還払いの受付、審査、支払 ④過誤補正 ⑤高額療養費の請求

成果指標(どの程度意図が達成されたか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
高校生等医療給付件数		目標		4,983	5,000	5,000	5,000	5,000
		実績		4,983	9,707	6,283		
根拠 (参考) 子ども・子育て支援事業計画(R6目標 高校生まで拡大)								
		目標						
		実績						
根拠								

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
高校生等医療給付件数		計画		4983	5,000	5,000	5,000	5,000
		実績		4,983	9,707	6,283		
		計画						
		実績						
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				14,034	15,993	16,926	-	-
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源			14,034	15,993	16,926		

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	子どもの健康維持と子育て世帯の経済的負担を軽減するために必要である。
有効性	やや高い	高校在学の要件を撤廃したことにより、成果の向上が期待できる。
効率性	高い	市の負担割合を下げることは事業の目的にそぐわない。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・廃止の検討	D

事業の課題

制度の変更により医療機関や保護者が混乱しないよう周知を徹底する必要がある。

今後の方向性

成果の方向性	統廃合	投入コスト	維持
--------	-----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	対象者への個別の注意喚起により周知している。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	令和6年度より、子ども・妊産婦医療給付事業に統合。

その他

R4～現物給付の対象が県内全域に拡大
R6～受給要件から高等学校生であることを削除。すべての18歳の年度末まで対象を拡大

評価者

評価責任者	牧田 優子	担当係長	林 昌枝	作成者	中山 智史
-------	-------	------	------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	養育医療給付事業	担当部署	子ども課
将来像	ひとが元気	予 会計 01	一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	算 款 03	民生費
基本施策	1 子育て支援の充実	科 項 02	児童福祉費
施策名	①切れ目ない子育て支援・相談体制の充実	目 目 02	児童育成費
根拠法令等	滑川市母子保健法施行規則		

事業の対象

誰・何に対して
指定養育医療機関の医師が入院養育の必要を認めた未熟児を対象に、医療費と食事療養費を給付する。

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
正常児が有する諸機能を得るに至っていない未熟児を対象に、指定医療機関にて入院治療を受ける場合にかかる医療費についての、経済的負担を軽減するもの。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)

①新規申請
・申請受付
・支給資格及び所得額の審査
・指定医療機関との連携
・養育医療券の発行

②保険証等変更
・加入保険変更等による届出の受付
・養育医療券の発行

③医療費の支払
・連名簿の受付、個人台帳の作成、審査、支払
※なお、医療費の自己負担分は子ども医療費助成制度等により現物給付を実施。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
養育医療給付件数	件	目標	10	10	10	10	10
		実績	10	7	11		
根拠(参考)子ども・子育て支援事業計画(R6目標 継続実施)							
		目標					
		実績					
根拠							

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
養育医療給付件数	件	計画	10	10	10	10	10
		実績	10	7	11		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			1,269	792	1,266	816	816
財 源 内 訳	国県支出金		451	339	339	424	424
	地方債						
	その他						
	一般財源		818	453	927	392	392

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	未熟児の医療費助成については、母子保健法により定められている。
有効性	高い	対象者の健康管理と経済的負担を軽減するために有効である。
効率性	高い	事業内容については、母子保健法施行規則により定められているため、市町村において見直す余地はない。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	A

事業の課題

--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	牧田 優子	担当係長	林 昌枝	作成者	中山 智史
-------	-------	------	------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	子どもインフルエンザ予防接種助成事業	担当部署	子ども課
将来像	ひとが元気	会計 01	一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	款 03	民生費
基本施策	1 子育て支援の充実	項 02	児童福祉費
施策名	①切れ目ない子育て支援・相談体制の充実	目 02	児童育成費
根拠法令等	滑川市子どもインフルエンザ予防接種費助成金交付要綱		

事業の対象

誰・何に対して
生後6ヶ月から中学校3年生までの子ども

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
任意であるインフルエンザの予防接種に要した費用の一部を助成することにより、子どものインフルエンザの罹患及び重症化を予防し、子どもの健康の保持・増進に寄与することとともに、子育て世代の経済的負担を軽減することを目的とする。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①医師会と契約 ・滑川市医師会と予防接種助成金の代理受領に関する契約を締結 ・市内各医療機関に申請用紙を配布
②助成金の申請 ・市内各医療機関の窓口にて対象者が助成金を申請し、現物給付形式にて助成
③助成金の支払い ・市内各医療機関から請求書の提出、審査、支払
④県助成制度との連携 ・県が別に実施している助成制度も併せた周知・啓発

成果指標(どの程度意図が達成されたか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
インフルエンザ予防 接種の接種率		%	目標	57	70	70	70	70
			実績	57	51	52		
根拠(参考)子ども・子育て支援事業計画(R6目標 接種率の増加)								
			目標					
			実績					
根拠								

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
助成制度の周知文書を送付する市内の保育園・小中学校数	か所	計画		24	24	24	24	24
		実績		24	24	24		
		計画						
		実績						
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				6,518	6,101	6,086	8,412	8,412
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源			6,518	6,101	6,086	8,412	8,412

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	やや高い	子どもの健康維持と子育て世帯の経済的負担を軽減するために必要である。
有効性	高い	子どもの健康維持と子育て世帯の経済的負担を軽減するために必要である。
効率性	高い	市の負担割合を下げることは、県の助成制度との格差を生むことになるため事業の目的にそぐわない。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

市内の医療機関が減少している中で、助成対象を市内の指定医療機関のみに設定していることの影響について検討していく必要がある。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	令和5年度より指定医療機関以外で接種した場合の償還払いでの申請受付を開始した。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	県の助成条件に合わせて助成単価を決定する。

その他

R4は、市内小児科の減少の影響か接種率が下がることとなった。R5より指定医療機関以外で接種した場合の償還払いでの申請受付を開始し、接種率は僅かに増加した。

評価者

評価責任者	牧田 優子	担当係長	林 昌枝	作成者	中山 智史
-------	-------	------	------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名		とやまっ子子育て支援サービス普及促進事業		担当部署		子ども課
施策体系	将来像	ひとが元気		予算科目	会計 01	一般会計
	政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり			款 03	民生費
	基本施策	1 子育て支援の充実			項 02	児童福祉費
	施策名	①切れ目ない子育て支援・相談体制の充実			目 02	児童育成費
根拠法令等		富山県とやまっ子子育て支援サービス普及促進事業実施要綱				

事業の対象

誰・何に対して
生後2歳までの子どもの保護者

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
子育て家庭の精神的・身体的・経済的負担の軽減を図るとともに、地域における各種保育サービスや保健サービスの利用を促進する。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①新規申請 ・出生、他県からの転入者で3歳未満の児童が対象 ・申請書の受付 ・住民異動担当課との連携 ・応援券の発行
②事業所、利用者への支払
③利用状況の報告 ・窓口での応援券配布枚数 ・利用実績
※R5年4月2日生まれの児童から、窓口での応援券廃止を停止。R6年10月以降(1歳6か月児健診時)に、アプリでの電子ポイント配布に変更。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
子育て応援券利用率	%	目標	72	100	100	100	100
		実績	72	84	—		
根拠 (参考)子ども・子育て支援事業計画(R6目標 継続実施)							
		目標					
		実績					
根拠							

活動指標(どの程度手段を実施したか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
子育て応援券配布率	%	計画	100	100	100	100	100
		実績	100	100	—	—	—
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			3,558	3,765	2,856	4,173	4,173
財源内訳	国県支出金		3,558	3,765	2,856	4,173	4,173
	地方債						
	その他						
	一般財源						

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	やや高い	子育て世帯の精神的・身体的・経済的負担の軽減を図り、地域内の各種サービスの利用を促進するために必要である。
有効性	高い	県の要綱等に基づいて実施しており、市町村において見直す余地はない。
効率性	高い	全額県の負担により実施しており、市町村において見直す余地はない。

総合評価

評価基準	評価
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直しの検討 D:事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

--

今後の方向性

成果の方向性	統廃合	投入コスト	減額
--------	-----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	応援券の配布を停止したため、成果指標及び活動指標は該当なし。令和6年度より児童福祉事務費に統合予定。

その他

R6年10月より、応援券(紙)からアプリでの電子ポイント制に変更。1歳6か月児健診において対応予定。
--

評価者

評価責任者	牧田 優子	担当係長	林 昌枝	作成者	中山 智史
-------	-------	------	------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名		保育対策総合支援事業	担当部署			子ども課
施策体系	将来像	ひとが元気	予算科目	会計	01	一般会計
	政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり		款	03	民生費
	基本施策	1.子育て支援の充実		項	02	児童福祉費
	施策名	③幼児教育・保育の提供体制の確保と充実		目	02	児童育成費
根拠法令等		保育対策総合支援事業費補助金交付要綱				

事業の対象

誰・何に対して
私立認可保育所、認定こども園

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
現在のコロナ禍において、保育所や認定こども園が新型コロナウイルス感染症に対する強い体制を整え、事業を継続的に提供していくことができるよう支援を行う。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
感染症対策に必要な衛生用品、備品等の購入に要する経費や職員が感染症対策の徹底を図りながら保育を継続的に実施するために必要な経費に対して補助金を交付した。 医療的ケア児保育を行うために必要な経費に対して補助金を交付した。(令和5年度より特別保育事業へ移行)

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
感染症対策用備品等の購入助成施設数	か所	目標	12	12	12		
		実績	12	12			
根拠							
医療的ケア児保育受入人数	人	目標		2	-	-	-
		実績	2	2	-		
根拠							

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名			単位		R3	R4	R5	R6	R7
感染症対策用備品等の購入助成施設数			か所	計画	12	12	12		
				実績	12	12			
医療的ケア児保育実施する施設			か所	計画		1	-	-	-
				実績	1	1	-		
コスト(千円)					R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額					9,424	17,664		7,760	
財源内訳	国県支出金				8,494	16,875		6,466	
	地方債								
	その他								
	一般財源				930	789		1,294	

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	低い	新型コロナウイルス感染症が5類へ移行となり、従来のような感染症対策を実施する必要性が低くなった。
有効性	低い	国の補助要件が変更となり、補助対象となる施設がなくなった。
効率性	低い	補助対象施設がなくなったため、事業の廃止を検討する必要がある。

総合評価

評価基準	評価
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直しの検討 D:事業の統合・休廃止の検討	D

事業の課題

国の補助要件が変更となり、補助対象となる施設がなくなった。

今後の方向性

成果の方向性	統廃合	投入コスト	皆減
--------	-----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	事業の廃止を検討する。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	牧田 優子	担当係長	神田 敦子	作成者	坂田 祐紀
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	母子等福祉対策事業	担当部署	子ども課
将来像	ひとが元気	予 会計 01	一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	算 款 03	民生費
基本施策	1 子育て支援の充実	科 項 02	児童福祉費
施策名	④経済的困難を抱える家庭への支援	目 目 03	母子等福祉費
根拠法令等	母子及び父子並びに寡婦福祉法		

事業の対象

誰・何に対して	
ひとり親家庭及び寡婦	

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)	
ひとり親家庭及び寡婦に対し、各種相談、援助、指導を行うことで、ひとり家庭及び寡婦の福祉向上を図るもの。	

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
自立支援プログラム策定件数	件	目標	1	1	1	1	1
		実績					
根拠(参考)子ども・子育て支援事業計画(R6目標 継続実施)							
母子・父子相談件数	件	目標	240	205	205	205	205
		実績	240	200	164		
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)	
母子父子自立支援員を配置し、生活上の問題や福祉制度の案内等相談に応じ、その自立に必要な情報提供及び指導を行う。 ・母子家庭緊急生活資金貸付金等の貸付に係る相談指導 ・ひとり親家庭の母(父)及び寡婦の職業能力の向上及び求職活動に関する支援 ・配偶者からの暴力を受けた者等に対し、その相談に応じ、必要な指導。	

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
母子・父子自立支援員設置数	人	計画	1	1	1	1	1
		実績	1	1	1		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			2,848	2,895	2,122	3,844	3,844
財 源 内 訳	国県支出金		171	210	221	293	293
	地方債						
	その他						
	一般財源		2,677	2,685	1,901	3,551	3,551

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	ひとり親家庭及び寡婦の自立のために必要である。
有効性	やや高い	類似、重複する事業はなく、ひとり親家庭の自立を図る観点から有効性は高い。
効率性	高い	相談業務であり、現行が妥当である。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

関係機関との対応スキル底上げと連携強化を図り、必要な支援につなげるソーシャルワーク機能を充実させる必要がある。また、各種制度について周知を図る必要がある。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	母子父子自立支援員を中心にこども家庭センター、重層的支援体制、社会福祉協議会等と連携を図り、ひとり親家庭の把握に努め、必要な情報提供や適正な支援に努めていく。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--	--	--	--	--	--

評価者

評価責任者	牧田 優子	担当係長	林 昌枝	作成者	林 昌枝
-------	-------	------	------	-----	------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	ひとり親家庭等緊急生活資金貸付事業	担当部署	子ども課
将来像	ひとが元気	会計 01	一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	款 03	民生費
基本施策	1 子育て支援の充実	項 02	児童福祉費
施策名	④経済的困難を抱える家庭への支援	目 03	母子等福祉費
根拠法令等	母子及び父子並びに寡婦福祉法、滑川市ひとり親家庭等緊急生活資金貸付金制度要綱		

事業の対象

誰・何に対して	ひとり親家庭及び寡婦
---------	------------

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)	・不時の出資に困窮するひとり親家庭に緊急生活資金の貸付けを行い、ひとり親家庭の生活安定と自立の助長を図るもの。
------------------	---

成果指標(どの程度意図が達成されたか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
貸付件数		件	目標	1	1	1	1	1
		実績						
根拠 (参考)子ども・子育て支援事業計画(R6目標 継続実施)								
			目標					
			実績					
根拠								

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)	母子寡婦福祉会へ原資を貸付けし、母子寡婦福祉会からひとり親家庭へ融資 * 貸付要件: ひとり100,000円まで * 貸付期間: 6ヶ月
-----------------------	--

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
貸付件数		件	計画	1	1	1	1	1
		実績						
			計画					
			実績					
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				2,000	2,000	2,000	-	-
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他			2,000	2,000	2,000		
	一般財源							

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	やや低い	経済的に困窮しているひとり親家庭の生活安定と自立促進のため、必要であるが、近年は利用がない。
有効性	低い	近年は利用がない。
効率性	やや低い	実施主体は母子寡婦福祉会であり、現行が妥当である。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	D

事業の課題

近年は利用実績がない。

今後の方向性

成果の方向性	統廃合	投入コスト	皆減
--------	-----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	令和5年度中の検討を経て、令和5年度限りで事業廃止を決定。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	牧田 優子	担当係長	林 昌枝	作成者	林 昌枝
-------	-------	------	------	-----	------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	ひとり親家庭等医療給付事業	担当部署	子ども課
将来像	ひとが元気	予 会計 01	一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	款 03	民生費
基本施策	1 子育て支援の充実	項 02	児童福祉費
施策名	④経済的困難を抱える家庭への支援	目 03	母子等福祉費
根拠法令等	滑川市ひとり親家庭等医療費助成に関する条例		

事業の対象

誰・何に対して
両親のいない家庭の児童とその養育者、及び母子・父子家庭の児童と母・父

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
ひとり親家庭の医療費の自己負担分を助成し、ひとり親家庭の健康と福祉の増進を図るもの。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
ひとり親家庭等医療 給付件数	件	目標	4,400	4,400	4,400	4,400	4,400
		実績	4,816	4,658	5,346		
根拠 (参考)子ども・子育て支援事業計画(R6目標 継続実施)							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①母子家庭・父子家庭・両欠家庭の把握 離婚届等提出時における該当者の把握 市民課窓口との連携
②申請受付 受給資格及び所得額の審査
③受給資格審査及び更新登録 受給資格証の発行
④医療費の支払

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
ひとり親家庭等医療 給付件数		件	計画	4,400	4,400	4,400	4,400	4,400
			実績	4,816	4,658	5,346		
			計画					
			実績					
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				13,639	13,248	13,371	14,517	14,517
財源 内訳	国県支出金			6,761	6,602	6,541	7,004	7,004
	地方債							
	その他			74	43	29	60	60
	一般財源			6,804	6,603	6,801	7,453	7,453

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	ひとり親家庭の健康維持と経済的負担の軽減のために必要である。
有効性	やや高い	一部単独事業はあるが、県の要綱に基づいており、見直しの必要性は低い。
効率性	高い	市の負担割合を下げることは事業の目的にそぐわない。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	A

事業の課題

--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	牧田 優子	担当係長	林 昌枝	作成者	林 昌枝
-------	-------	------	------	-----	------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名		母（父）子家庭自立支援給付事業	担当部署			子ども課
施策体系	将来像	ひとが元気	予算科目	会計	01	一般会計
	政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり		款	03	民生費
	基本施策	1 子育て支援の充実		項	02	児童福祉費
	施策名	④経済的困難を抱える家庭への支援		目	03	母子等福祉費
根拠法令等		母子及び父子並びに寡婦福祉法、滑川市自立支援教育訓練給付金事業実施要綱、滑川市高等職業訓練促進給付金等事業実施要綱				

事業の対象

誰・何に対して
母子(父子)家庭の母(父)

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
母子(父子)家庭の母(父)の就業をより効果的に促進するための給付金を支給し、生活の負担の軽減や自立の促進を図るもの。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
・自立支援教育訓練給付金の支給 市が指定する教育訓練講座を受講し、終了した場合に受講料の一部を支給する。 ・高等職業訓練促進給付金の支給 看護師、介護福祉士等の資格取得のため、1年以上養成機関で修業する場合に生活費の支援として支給する。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
高等職業訓練促進給付金受給者数	人	目標	2	3	3	2	2
		実績	2	3	2		
根拠 滑川市教育大綱、(参考)子ども・子育て支援事業計画(R6目標 継続実施)							
自立支援教育訓練給付金受給者数	人	目標	2	2	2	1	1
		実績					
根拠							

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名			単位		R3	R4	R5	R6	R7
高等職業訓練促進給付件数			件	計画	2	3	3	2	2
				実績	2	3	2		
自立支援教育訓練給付件数			件	計画		2	2	1	1
				実績					
コスト(千円)					R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額					2,164	4,188	2,872	3,130	3,130
財源内訳	国県支出金				1,623	3,141	2,154	2,347	2,347
	地方債								
	その他								
	一般財源				541	1,047	718	783	783

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	ひとり親家庭の生活の負担軽減や、自立促進のために必要である。
有効性	高い	国、県の要綱に基づいており、見直しの余地はない。
効率性	高い	国、県の要綱に基づいており、見直しの余地はない。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

事業の課題
事業の利用実績が少ない。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	ひとり親家庭等の就労相談等において必要な情報提供に努め、適正な支援につなげていく。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	牧田 優子	担当係長	林 昌枝	作成者	林 昌枝
-------	-------	------	------	-----	------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名		遺児福祉年金事業		担当部署		子ども課	
施策体系	将来像	ひとが元気		予算科目	会計	01	一般会計
	政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり			款	03	民生費
	基本施策	1 子育て支援の充実			項	02	児童福祉費
	施策名	④経済的困難を抱える家庭への支援			目	03	母子等福祉費
	根拠法令等	滑川市遺児福祉年金条例					

事業の対象

誰・何に対して
義務教育終了までの両親又は片親の保護に欠ける児童

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
死別により両親又は片親の保護に欠ける児童に対し遺児福祉年金を支給し、児童の健全な成育を助長し、福祉の増進を図るもの。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
遺児福祉年金の支給(年1回) H27年度～死別遺児のみ対象 <支給額> 両親の保護に欠ける児童 年額 30,000円 片親の保護に欠ける児童 年額 15,000円

成果指標(どの程度意図が達成されたか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
支給件数	件	目標	30	30	30	30	30
		実績	30	29	30		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

活動指標(どの程度手段を実施したか)							
指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
支給件数	件	計画	30	30	30	30	30
		実績	30	29	30		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			451	436	451	452	457
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源		451	436	451	452	457

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	やや高い	ひとり親家庭の健全育成、福祉増進のために必要である。
有効性	やや高い	ひとり親家庭の健全育成、福祉増進のために必要である。
効率性	やや高い	平成27年度から対象児童を死別児童のみに縮小しており、見直しによるコスト削減については慎重に検討していく必要がある。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

引き続き、ひとり親家庭の遺児支援に努めていく。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	引き続き、ひとり親家庭の遺児支援に努めていく。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	牧田 優子	担当係長	林 昌枝	作成者	林 昌枝
-------	-------	------	------	-----	------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート (R5年度事業)

事業名	市立保育所運営事業	担当部署	子ども課
将来像	ひとが元気	予算科目	一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	会計	01
基本施策	1 子育て支援の充実	款	03
施策名	③幼児教育・保育の提供体制の確保と充実	項	02
根拠法令等	児童福祉法、子ども・子育て支援法、就学前保育等推進法、滑川市保育所条例 等	目	04
			児童福祉施設費

事業の対象

誰・何に対して
保護者の労働又は疾病等により、公的な保育が必要となる児童及びその保護者

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
保護者の労働又は疾病等により、保育に欠けることとなる児童に対して保育を実施するとともに、市立保育所(2施設)として、多様な保育ニーズに対応する。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位	R3	R4	R5	R6	R7
待機児童数	人	目標 0	0	0	0	0
		実績 0	0			
根拠(参考)子ども・子育て支援事業計画(No.46: R6目標 継続実施)						
延入所者数	人	目標 1,180	1,180	1,180	1,180	1,180
		実績 1,073	1,028	1,147		
根拠(参考)子ども・子育て支援事業計画(R6実入所者総数 1,459人)						

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
あずま保育所、坪川保育所の市立2施設の運営費 ●臨時保育士等の会計年度任用職員の雇用 ●保育士の研修受講支援(負担金、旅費等) ●内科・歯科医師の嘱託 ●施設の水道光熱費、給食材料費 ●保育用備品、消耗品費等の整備 ●電話料、ピアノ調律料、クリーニング代、災害共済掛金 ●保育補助者派遣、害虫駆除、細菌検査、園舎警備、消防設備保守点検等の業務委託 ●施設設備の整備・修繕

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位	R3	R4	R5	R6	R7
運営費	千円	計画 70,995	70,335	73,953	73,953	73,953
		実績 57,621	60,882	62,207		
		計画				
		実績				
コスト(千円)		R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額		57,621	60,882	62,207	73,268	73,268
財源内訳						
国県支出金		1,066	2,118	722	4,664	4,664
地方債						
その他		8,383	9,080	7,178	6,671	6,671
一般財源		48,172	49,684	54,307	61,933	61,933

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	特別保育や市の子育て支援の拡充が今後も求められるなか、公立保育所としての指針的、先駆的役割が期待される。
有効性	高い	待機児童数ゼロの成果指標は達成されている。市の義務的事業であり公立保育所としての役割も大きいことから有効性は高い。
効率性	高い	設備や人員配置は基準に基づく必要があり、その中で、多様なニーズに対する定員やサービスの確保を私立施設も含めて滑川市全体で考えており、効率性は高いといえる。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

施設や設備老朽化による改修・更新費用増大が想定されるほか、保育に必要な遊具等の備品も適時更新していく必要がある。多様化する保育ニーズに対応するため人材を確保し育成していく必要がある。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	建物の維持管理については、個別施設計画に基づき適切に実施していく。保育士については計画的に育成を図り、保育スキルの向上を目指していく。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

評価者

評価責任者	牧田 優子	担当係長	神田 敦子	作成者	坂田 祐紀
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	児童館管理運営事業	担当部署	子ども課
将来像	ひとが元気	予算科目	一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	01	民生費
基本施策	1 子育て支援の充実	03	児童福祉費
施策名	②子どもの居場所づくり	02	児童福祉施設費
根拠法令等	児童福祉法、児童館設置条例、児童館設置条例施行規則		

事業の対象

誰・何に対して
0～18歳までの子どもとその保護者

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
地域の子どもの健全な遊びの機会を与え、子どもの健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とする。また、保護者の子育てへの活力を生み出す機会を創造する。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
●子どもの健全なあそびの拠点及び居場所づくりとして、多くのイベントや体験教室を開催するとともに、子育て支援の拠点施設として、保護者も「元気になる」場を提供した。 ●開館5周年記念イベントとして、児童福祉の専門職員を対象に、子どもと信頼関係を築くためのかわり方を学ぶ大人のワークショップを実施。 ●必修授業となったプログラミングについて子どもと保護者が理解を深める教室を行った。 ●今年度は、子どもにかかわる大人を対象とした取り組みに特に注力した。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
年間利用者数	人	目標	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
		実績	27,304	33,812	56,452		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
行事実施回数	回	計画	70	70	70	70	70
		実績	39	41	38		
		計画					
		実績					
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			10,359	9,817	11,546	12,430	12,430
財源内訳	国県支出金		114	117			
	地方債						
	その他		30	400	100		
	一般財源		10,215	9,300	11,446	12,430	12,430

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	地域の子どもの遊びを与え、健全な育成を図る場として必要である。また、年間利用者実績からも、遊び場としてのニーズが高いことが表れている。
有効性	高い	目的を達成するための企画とその実施は十分に成されている。伝統的な行事を行いつつ新しい企画も取り入れていることから、成果を向上しようと努めている。
効率性	高い	地域住民による行事の実施や支援があり、協働による事業展開が行われている。新しい企画を行うことに伴い、新たな支援者を獲得していている。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当	A
B: 事業の進め方の改善の検討	
C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討	
D: 事業の統合・休廃止の検討	

事業の課題

--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。
その他	

評価者

評価責任者	牧田 優子	担当係長	神田 敦子	作成者	杉本 健太郎
-------	-------	------	-------	-----	--------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	幼児教育振興事業	担当部署	子ども課
将来像	ひとが元気	予算科目	一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	会計	教育費
基本施策	1 子育て支援の充実	款	教育総務費
施策名	③幼児教育・保育の提供体制の確保と充実	項	事務局費
根拠法令等	滑川市補助金等交付規則、滑川市私立幼稚園園舎リフレッシュ事業費補助金交付要綱		

事業の対象

誰・何に対して	私立幼稚園
---------	-------

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)	私立幼稚園の運営や園舎の工事等に対して補助し、幼児教育の充実を図る。
------------------	------------------------------------

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
事業実施施設数	か所	目標	1	1	1	1	1
		実績	1	1	1		
根拠							
		目標					
		実績					
根拠							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)	私立幼稚園運営費補助事業 ・園児数や学級数に応じて運営費の助成を行った。
-----------------------	---

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
保育実施箇所数	件	計画		1	1	1	1	1
		実績		1	1	1		
		計画						
		実績						
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				134	130	130	130	130
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源			134	130	130	130	130

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	やや高い	教育・保育環境の充実を図るため、運営費外経費を対象とすることから、市が事業に与える必要性は高い。
有効性	やや高い	類似・重複する事業はなく教育・保育環境の充実を図る観点から有効性は高い。計画的な保育環境の整備について働きかけていく必要がある。
効率性	やや高い	必要性及び有効性の高い事業を考えられるため、市の負担割合や事業内容の見直しによるコスト削減の可能性については慎重に検討する必要がある。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討 D: 事業の統合・休廃止の検討	B

事業の課題

運営費の対象外となる経費について、教育・保育の充実に繋がるよう計画的・効果的な環境の整備について促していく必要がある。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	教育保育連絡協議会開催等により情報交換や情報共有の機会を確保し、各種情報や通知の周知に努めている。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--	--

評価者

評価責任者	牧田 優子	担当係長	神田 敦子	作成者	杉本 健太郎
-------	-------	------	-------	-----	--------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	幼稚園運営事業	担当部署	子ども課
将来像	ひとが元気	予 会計 01	一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	算 款 10	教育費
基本施策	・1 子育て支援の充実	科 項 01	教育総務費
施策名	③幼児教育・保育の提供体制の確保と充実	目 目 02	事務局費
根拠法令等	子ども・子育て支援法、滑川市私立幼稚園保育料軽減事業補助金交付要綱 等		

事業の対象

誰・何に対して
私立幼稚園及び利用児童とその保護者

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
子ども・子育て支援法等に基づき、私立幼稚園等の運営費を負担し、就学前児童の幼児教育施設の確保を図るとともに、本市第2子以降の保育料無料化、令和元年10月からの国制度による無償化により、対象施設等の利用者負担を助成し、子育て世帯・多子世帯の経済的負担の軽減を図る。

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
●幼稚園運営費(扶助費)の交付 国の定める公定価格単価を基に、毎月初日における入所児童数に係る運営費を交付した。
●幼稚園利用者の支援 ①子ども子育て支援新制度に移行していない幼稚園(未移行幼稚園)の利用料や幼稚園型の預かり保育の利用料などの施設等利用費を給付した。
②本市第2子以降の就学前保育料等の無償化に伴い、未移行幼稚園の給食費実費負担額を補助した。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
延入所者数(新制度)		人	目標	280	480	480	480	480
			実績	367	340	295		
根拠(参考)子ども・子育て支援事業計画(R6実入所者総数 1,459人)								
施設等利用者数		人	目標	14	14	14	14	14
			実績	22	16	19		
根拠								

活動指標(どの程度手段を実施したか)								
指標名		単位		R3	R4	R5	R6	R7
交付額	千円	計画		24,524	24,470	24,470	24,470	24,470
		実績		27,097	25,911	23,585		
補助・給付額	千円	計画		280	280	280	280	280
		実績		545	418	634		
コスト(千円)				R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額				27,642	26,415	24,227	27,282	27,282
財源内訳	国県支出金			17,196	18,154	15,333	18,432	18,432
	地方債							
	その他							
	一般財源			10,446	8,261	8,894	8,850	8,850

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	子ども・子育て支援法等により、民間の幼稚園が要する保育費用は市町村が支弁することとされている。
有効性	高い	待機児童数ゼロの成果指標は達成されている。類似事業・関連事業はなく、市の義務的事業であるため、見直しの余地はない。
効率性	高い	支弁額等事業内容については、国の負担金交付要綱により定められているため、市町村において見直す余地はない。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当	B
B: 事業の進め方の改善の検討	
C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討	
D: 事業の統合・休廃止の検討	

事業の課題

昨今の女性の就労率向上や育休復帰の早期化等により、一時預かり等のニーズが増えている。
--

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	質の高い幼児教育につながるよう、状況把握に努め支援していく。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	牧田 優子	担当係長	神田 敦子	作成者	鶴山 宏祐
-------	-------	------	-------	-----	-------

総合計画実施計画 兼 行政評価シート（R5年度事業）

事業名	放課後子ども教室開催事業	担当部署	子ども課
将来像	ひとが元気	予算	会計 01 一般会計
政策	政策1 未来を創る子どもを応援するまちづくり	款	10 教育費
基本施策	1 子育て支援の充実	項	04 社会教育費
施策名	②子どもの居場所づくり	目	01 社会教育総務費
根拠法令等	社会教育法、富山県放課後子ども教室推進事業費補助金実施要領		

事業の対象

誰・何に対して
小学1年から6年までの子ども

事業の目的と達成度

意図(対象をどのようにしたいか)
子どもたちの安全・安心な居場所を設け、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するもの。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
放課後子ども教室延参加者数	人	目標	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000
		実績	4,281	3,734	4,336		
根拠 第2期滑川市子ども・子育て支援事業計画(放課後対策事業の量の見込みと提供体制)							
土曜子ども教室延参加者数	人	目標	800	800	800	800	800
		実績	926	949	1,002		
根拠 第2期滑川市子ども・子育て支援事業計画(放課後対策事業の量の見込みと提供体制)							

事業の内容と活動量

手段(事業の内容・目的達成に向けた取組み)
①放課後子ども教室、土曜子ども教室の実施
・全小学校区での放課後子ども教室の設置
・児童館での土曜子ども教室の設置
・地域住民の参画のもと、学習や体験・交流活動を実施
②放課後子どもプランの推進
・滑川市放課後子どもプランの策定
・放課後対策事業運営委員会の設定
・放課後児童育成クラブとの連携推進

活動指標(どの程度手段を実施したか)

指標名	単位		R3	R4	R5	R6	R7
放課後子ども教室実施か所数	か所	計画	8	8	8	8	8
		実績	8	8	8		
土曜子ども教室実施か所数	か所	計画	1	1	1		
		実績	1	1	1		
コスト(千円)			R3	R4	R5	R6	R7
事業決算額・計画額			2,101	2,534	2,118	2,546	2,546
財源内訳	国県支出金		1,371	1,652	1,373	1,659	1,659
	地方債						
	その他						
	一般財源		730	882	745	887	887

個別評価

評価の視点	評価	評価理由
必要性	高い	子どもを取り巻く環境の変化から、放課後や休日などに子どもが安心して活動できる場の確保を図ることは必要である。
有効性	やや高い	参加者の満足度を高めるため、事業内容の見直しや新たな取り組みも必要である。
効率性	やや高い	放課後児童クラブとの連携をさらに推進し、効率的な放課後児童対策の実施方法について検討する余地がある。

総合評価

評価基準	評価
A: 計画どおりに事業を進めることが適当	B
B: 事業の進め方の改善の検討	
C: 事業規模・内容・主体の見直しの検討	
D: 事業の統合・廃止の検討	

事業の課題

放課後児童対策事業との一体的な事業実施を推進していく必要がある。

今後の方向性

成果の方向性	維持	投入コスト	維持
--------	----	-------	----

評価を踏まえた見直し内容

事業の課題に対する取組状況	放課後児童クラブと連携を図り、一体的な活動について働きかけていく。
新年度の予算要求事項(改革・改善案)	特になし。

その他

--

評価者

評価責任者	牧田 優子	担当係長	神田 敦子	作成者	神田 敦子
-------	-------	------	-------	-----	-------

第 3 部

学識経験者の意見

令和 6 年度（対象：令和 5 年度の事務事業）滑川市教育委員会の事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価にあたって、客観性を確保するため、点検評価の方法や結果などについて、学識経験を有する者の意見を聴いた。

1 学識経験者（評価委員）

（五十音順、敬称略）

氏 名	職 業 ・ 職 歴
相 山 馨	富山国際大学子ども育成学部教授
廣 田 仁美	元田中小学校教頭、元富山大学附属幼稚園副園長
藤 井 克弘	元早月中学校長、元滑川市教育センター所長

（任期 令和 6 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日）

2 意見聴取日等

令和 6 年 9 月 11 日（水） 評価委員会の開催による意見聴取

（評価委員、教育委員、教育長、事務局職員）

3 令和 5 年度実績に対する学識経験者の主な意見

○学校教育の充実について

- ・不登校の児童生徒が年々増加している。教育支援センター「あゆみ」を利用している児童生徒については近況が把握できると思うが、利用せずに自宅等で過ごしている児童生徒について適切な対応をお願いしたい。
- ・引き続きスクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーを適切に配置し、相談体制の構築に努めてほしい。
- ・幼小接続に係わっているが、必要性を感じていない教職員がいたため、その必要性について周知してほしい。
- ・奨学資金については各年度により予算が限られていると思うが、貸与・給与の決定の際には公平性を保てるように検討してほしい。

- ・社会に学ぶ14歳の挑戦事業について、市で一括して公募する等の方法は取れないのか。学校が一社ずつ受け入れのお願いに回っているため、教職員の負担が少なくなるようにできないか。
- ・GIGAスクール構想の実現に向けて、他の自治体では安かろう悪かろうの業者に保守管理を委託していることもあると聞いている。引き続き、適切に対応できる業者に業務を委託してほしい。
- ・要・準要保護生徒就学援助事業について、中学校では「クラブ活動費」という名称はなくなったので、名称を変更したらどうか。

○生涯学習の推進について

- ・男女共同参画推進事業について、啓発活動や公開講座を引き続き行ってほしい。
- ・青少年健全育成事業について、市内を巡回しても効果は薄いのではないか。

○子育て支援について

- ・ひとり親家庭等緊急生活資金貸付事業については令和5年度で廃止となったが、ニーズがあれば滑川市社会福祉協議会につなぐ等の対応をとってほしい。
- ・保育所の施設について、子どもたちの健康等を考えて計画的な整備に努めてほしい。
- ・放課後児童対策事業についてはお金だけの問題ではなく、支援員の人員を確保することが大事である。引き続き、支援員の人員の確保に努めてほしい。

4 令和4年度実績に対する学識経験者の主な意見への対応について

○学校教育の充実について

- ・小学校英語活動推進事業について、引き続き力を入れていただきたいが、予算措置をして事業を実施したということよりも、全国学力学習調査や他の評価基準等で、その成果がどう表れているかを示して欲しい。また、科学・理数・ものづくり教育推進事業についても、長く年数をかけて実施しており、学ぶことへの意欲や興味関心等のデータを把握して、その成果を見えるようにして欲しい。

(対応)

科学・理数・ものづくり教育推進事業は令和5年度より「探究・科学教育推進協議会」において探究力・思考力・判断力・表現力等を育む教育やICT教育を総合的に推進することを目的として取り組んでいる。

その中で、毎年「科学の時間」についての児童生徒アンケート調査を行い、学ぶことへの意欲や興味関心、学び方などについてのデータを収集し、次年度の事業の改善に活かすよう努めている。

- ・全国で不登校児童が増加している。居場所づくりや人と人との交流の仕方等、その子の特性に応じたきめ細かい支援を、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、またはフリースクール等と連携して推進していただきたい。

(対応)

校内教育支援センターを令和6年度より試行的に2校で設置しており、今後、市内で必要な学校に設置できるよう準備を進めていきたい。また、令和5年度からはオンラインなめりかわ塾による不登校児童への支援も実施しており、今後も関係機関と連携して支援を推進していく。

- ・学校給食において地場産の使用率が減少傾向にある。他の部局や企業と連携しながら増加に向けて事業を推進していただきたい。

(対応)

地場産野菜の使用については、地産地消コーディネーターを中心として、農業者による野菜の収穫時期や収穫量とこちらが希望する

野菜の種類や量を情報交換し、採れたての地場産野菜をふんだんに使用した献立となるよう努めている。また毎週、共同調理場の職員が、市内の野菜直売所へ足を運び、直接農業者とも情報交換し、献立を考案している。今後も農林課などと連携し、地場産野菜の使用率の向上に努めていく。

- ・引き続きスタディ・メイトの人数が増加するように尽力していただきたい。また、出来るだけ各学校に公平に配置をするようお願いする。

(対応)

今後も必要に応じてスタディ・メイトを拡充し、各学校への公平な配置に努めていく。

○生涯学習の推進について

- ・社会教育活動総合事業について、教養講座等の学ぶ場が多くあるのは良いが、生涯学習政策としては、学んだ成果を、地域課題解決のために活かすことができる人材の育成となるよう、そのような仕組み作りをしていただきたい。

(対応)

各生涯学習関係施設で実施している教養講座では、生徒として受講していた人が、能力を高めて講師となるケースもある。学んだ成果をもとに地域の活性化や改革などの行動を起こす人の支援について検討してまいりたい。

- ・青志会館や地区公民館等、多くの建物が老朽化している。財源が決まっている中、大変ではあるが、修繕の優先順位を明確にして管理に取り組んで欲しい。

(対応)

例年秋に各施設の修繕を要する箇所について調査しており、その中で優先順位をつけて予算要求しているところであり、今後も適切な管理に取り組んでまいりたい。

- ・これからは、公民館がデジタル人材の核となる。地区公民館だけで

なく、自治公民館も Wi-Fi 整備の補助をする等、引き続き検討して欲しい。

(対応)

自治公民館の運営については、各自治会によるものであり、市ではコミュニティ施設整備資金の貸付や自治公民館建築費補助金があるが、Wi-Fi 整備については自治会での対応をお願いしたい。

○スポーツの推進について

- ・競技志向と健康志向のスポーツの事業をバランスを良く充実して実施して欲しい。

(対応)

健康づくりのきっかけとなるなめりかわ健康ポイント事業や市民参加型のスポーツイベント等の充実を図るとともに、競技力向上に繋がるスポーツ行事や激励費の支給など、競技志向・健康志向の事業に偏りが出ないように引き続き取り組んでまいりたい。

- ・中学校部活動の地域移行について、生徒の数が減少する中、場所と人材と予算の確保のため、企業の支援を求める等、工夫をしてほしい。また、実証事業をとおして生徒の声を反映して欲しい。

(対応)

富山県部活動応援企業登録制度等、子どもたちのスポーツ・文化活動の機会の確保、充実に向けた支援体制の整備が進められている。本市においては、同制度の登録企業から3名の指導者を派遣いただいており、指導者の確保や活動の充実につなげることができている。今後も企業等、地域の協力・支援をいただき、子どもたちのスポーツ・文化活動の維持、充実に努めたい。

また、アンケート調査等を実施し、生徒の声を反映したよりよい環境の整備に向けて努めたい。

- ・青雲閣の跡地問題同様、みのわテニス村においても、みのわ温泉を含めた一体の施設として、その利活用について、事業の見直しを図って欲しい。

(対応)

青雲閣跡地の利活用と同様に、みのわ温泉を含めた周辺整備については、幅広く意見や提案を受けながら、将来において施設に必要と考えられる機能などについて、公民連携なども視野に入れたうえで、引き続き全庁的な視点で協議を進めたいと考えている。

滑川市教育委員会教育に関する事務の点検及び評価実施要綱

平成21年 1 月23日教育委員会議決

(趣旨)

第1条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号。以下「法」という。）第27条の規定に基づき、滑川市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が実施する教育に関する事務の点検及び評価（以下「点検及び評価」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の実施)

第2条 点検及び評価は、毎年度、その前年度における教育委員会の運営状況及び事務事業の執行状況について行うものとする。

2 点検及び評価を行うに当たっては、法第27条第2項に定める学識経験を有する者（以下「学識経験者」という。）の知見の活用を図るものとする。

(学識経験者)

第3条 学識経験者は、滑川市の教育に関して学識経験を有する者のうちから3人を教育委員会が委嘱する。

2 学識経験者の任期は2年とする。ただし、補欠の学識経験者の任期は、前任者の残任期間とする。

3 学識経験者は再任されることができる。

(報告書の作成等)

第4条 教育委員会は、点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、滑川市ホームページへの掲載、情報公開窓口への備付け等により公表するものとする。

(庶務)

第5条 点検及び評価の実施に関する庶務は、教育委員会事務局学務課において行う。

附 則

1 この要綱は、平成21年 1 月23日から施行する。

2 この要綱の施行後最初に委嘱される学識経験者の任期は、第3条第2項の規定にかかわらず、平成22年 3 月31日までとする。